

現場説明書（技術的事項）

工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

1 現場の状況

工事場所は、福山市草戸町四丁目 14 番 1 号に位置し、北側は福山市道草戸 31 号線、東側は福山市道草戸 27 号線、南側は福山市道草戸 34 号線、西側は福山市道草戸 3 号線に接しています。

工事期間中、2025 年 7 月 19 日（土）から 8 月 24 日（日）は夏休み、2025 年 12 月 24 日（水）から 2026 年 1 月 6 日（火）は冬休みです。なお、土曜日、日曜日、祝日を含めて、児童が登校しない日も校舎、屋内運動場、グラウンド等は使用することがあります。

2 別途工事

- ・電気設備工事
- ・給排水衛生設備工事
- ・空気調和設備工事
- ・ガス設備工事

3 留意事項

- (1) 工事に当たっては、交通渋滞、騒音、粉塵、振動、汚染排水等により、近隣住民に迷惑のかからないよう十分配慮してください。
- (2) 工事期間中も学校施設を使用しているため、工事関係者はもとより、職員、児童及び第三者への安全確保に必要な対策を講じてください。
- (3) 工事車両等の進入・退出・停車等に当たっては十分な注意を払い、通行者等の安全を第一に図ってください。
- (4) 資材の搬入、搬出時にはシート等でカバーするなど、土砂・木片等が飛散しないよう注意するとともに、タイヤ等に付着した土砂によって道路汚損等のないように注意してください。
- (5) 道路等を汚損した場合は、速やかに清掃等の復旧を行い、工事期間中の進入、退出路に係る維持管理（舗装・構造物等の保護養生、補修等）は、受注者で行ってください。
- (6) 工事場所外においても、駐車違反、速度制限、積載制限等交通法規を遵守し、事故防止に万全を期してください。
- (7) 工事に係る留意事項は、協力業者、資材納入業者等にも指導を徹底してください。
- (8) 工事現場内の資機材の保管等については、受注者において十分な管理を行い、各工種・工程における廃材・ごみ等についても、受注者の責任において遅滞なく処理してください。

工事排水についても管理を徹底し、周辺排水路等に土砂等を流した場合は、速やかに清掃を行ってください。
- (9) 工事範囲内において工事用進入路確保のために行う鉄板敷き等の必要な措置は、受注者で行ってください。

また、仮囲い等については、設計図書等を基に確実にを行い、工事途上で屋外工事等のために仮囲い等の移設又は一時撤去復旧が必要となった場合は、関連工

事と十分な調整を行い、必要に応じて可動フェンス（H=1.8m）等により工事範囲の明示と安全の確保を行ってください。

- (10) 本工事場所の進入口及び通路は、施設使用に際し工事期間中も確保する必要があるため、各入口や通路の通行と安全の確保を行ってください。
- (11) 現場着手日及び工事関係車両の駐車場の計画は、あらかじめ施設管理者と協議の上、決定してください。
また、工事用車両は、通学時間帯を避けて出入りしてください。
- (12) 夏休み期間中に予定する個人懇談会や登校日等の学校行事では、当日の作業内容について、あらかじめ施設管理者と協議が必要です。
- (13) 8月25日（月）から2学期が開始するため、それまでにリフトホールに係る工事は完了させ、使用可能な状態にしてください。
また、リフトホールについては、夏休み期間中に部分使用検査を行います。
- (14) 学校運営等で校舎等の使用状況により、施工方法や内容に変更が生じる場合があります。
- (15) 実施工程表は、契約後14日以内に提出し承諾を受けてください。また、施工関係書についても速やかに提出し、承諾を受けてください。
- (16) 工事により周囲の建物や工作物に汚損等が生じた場合は、監督員及び施設管理者に報告するとともに、受注者の責任で速やかに復旧してください。
- (17) はつり工事等施設使用に影響を及ぼす作業については、十分な騒音・粉塵対策を講じてください。
- (18) 特定建設資材は再資源化に努め、産業廃棄物は関係法令に従い適切に処理してください。
- (19) 工事施工に必要な官公署への手続は、受注者の責任において速やかに行い、手続を行った場合は、速やかに報告してください。
- (20) 受注者は、地元企業、地場製品の活用に努めてください。
- (21) 受注者は、各種工事の職種を問わず、積極的に「技能士」適用に努めてください。
- (22) 受注者は、地域行事の運営等を円滑に行えるよう、地域との調整に努めてください。

福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

図 面 リ ス ト

図面番号	図 名	図面番号	図 名	図面番号	図 名	図面番号	図 名
A－00	図面リスト	A－14	平面詳細図（改修前）	A－28	部分詳細図 2	S－01	建築工事特記仕様書 構造関係
A－01	建築工事特記仕様書 No. 1	A－15	土間伏図（改修後）	A－29	部分詳細図 3	S－02	鉄筋工事仕様書 No. 1
A－02	建築工事特記仕様書 No. 2	A－16	平面詳細図（改修後）	A－30	部分詳細図 4	S－03	鉄筋工事仕様書 No. 2
A－03	建築工事特記仕様書 No. 3	A－17	断面詳細図（改修前）	A－31	建具配置図・建具表 1（改修前）	S－04	鉄骨工事仕様書 No. 1
A－04	建築工事特記仕様書 No. 4	A－18	断面詳細図（改修後）	A－32	建具表 2（改修前）	S－05	鉄骨工事仕様書 No. 2
A－05	工事区分表	A－19	検収室詳細図	A－33	建具配置図・建具表 1（改修後）	S－06	Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準
A－06	付近見取図・配置図	A－20	展開図 1（改修前）	A－34	建具表 2（改修後）	S－07	アルファフォーシル工法設計施工標準仕様書
A－07	仕上表	A－21	展開図 2（改修前）	A－35	建具表 3（改修後）	S－08	土間・基礎・地盤改良図
A－08	平面図（改修前・改修後）	A－22	展開図 3（改修前）	A－36	渡り廊下詳細図（内部改修）	S－09	鉄骨詳細図（給食室）
A－09	立面図（改修前）	A－23	展開図 4（改修後）	A－37	渡り廊下詳細図（外部新設）	S－10	基礎・鉄骨詳細図（検収室）
A－10	立面図（改修後）	A－24	展開図 5（改修後）			S－11	梁伏・軸組図（検収室）
A－11	天井伏図（改修前・改修後）	A－25	展開図 6（改修後）			S－12	渡り廊下構造図（外部新設）
A－12	厨房機器平面図・備品リスト（改修前）	A－26	展開図 7（改修後）				
A－13	厨房機器平面図・備品リスト（改修後）	A－27	部分詳細図 1				

福山市建設局建築部営繕課				日付	2025年 4月
主務	課員	次長	課長補佐	営繕課長	

			藤 岡 建 築 設 計 室			福山市建設局建築部営繕課		工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事		図面No
			広島県知事登録第22〔1〕0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良造 福山市御幸町中津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437			設計 2025年 3月		図面名称 図面リスト		A-00

章 項		特 記 事 項		章 項		特 記 事 項		章 項		特 記 事 項		章 項		特 記 事 項	
⑦	シーリング用材料 (9.7.2)			④	セメントモルタルによるセラミック タイル張り (11.2.5)	・タイル張りの種類 工法 (表11.2.2)		⑥	造作用集成材 (12.2.1.3)	「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1.3)		⑫	防虫処理 (12.3.2)	○行う (JAS保存処理の性能区分K1) ・行わない (12.3.2)	
		被着体の組合せ				形状(mm) きじ うわぐすり 工法				造作用集成材 単材の樹種及び厚さ				○行う (JAS保存処理の性能区分K1) ・行わない (12.3.2)	
金 属		金 属		5	接着剤による セラミック タイル張り (11.3.1～2)	壁				○造作用集成材 単材の樹種及び厚さ		⑬	鉄筋コンクリート造等の 内部間仕切軸組 及び床組 (12.4.1)	間仕切軸組に用いる木材 ○形 ・米松 (12.4.1)	
		コンクリート				検査室				施工箇所 樹種名 単材の厚さ(mm) 施工箇所 樹種名 単材の厚さ(mm)				窓,出入口その他 (12.5.1)	
ガラス		ガラス		10	木 工 事	床				○化粧ばり造作用集成材		14	窓,出入口その他 (12.5.1)	窓,出入口その他に用いる木材 吊元幹,水掛りの下枠及び敷居 (・ひのき ・) その他 (・松 ・杉 ・)	
		石、タイル				有機質接着剤の種類 ・タイプⅠ ・タイプⅡ ・その他 () ※ F☆☆☆☆				化粧ばり造作用集成材				床板張り (12.6.1)	
A L C		A L C		③	寸法	見え掛り面の表面仕上げ				・化粧ばり構造用集成柱		⑬	長尺金属板葺 (13.2.2～3)	形式 ・立て平葺 ○心木なし瓦葺葺 ・横葺 (13.2.2～3)	
		押出し成形セメント板				図面上の寸法は構造材はひき立て寸法、造作材は仕上り寸法とする。				・化粧ばり構造用集成柱				種類 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(屋根用)(GGOCR-20-Z25) ・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯(A種、SG) ・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(屋根用)(CZACOR-20) ※ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(屋根用)(GGLCOR-20-AZ) JISG3322	
樹脂製建具		樹脂製建具		④	木材の含水率 (12.2.1.4)	下地材 ※A種 ・B種 (12.2.1.4)(表12.2.1)				・化粧ばり構造用集成柱		③	折板葺 (13.3.2～3)	材種 ※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(屋根用)(GGOCR-20-Z25) (表13.2.1)	
		コンクリート				ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ (※1) ・ ※1:F☆☆☆☆又はホルムアルデヒド放散量表示がない場合は、 塗装していないものは「非ホルムアルデヒド系接着剤使用」 塗装したものは「非ホルムアルデヒド系接着剤及び ホルムアルデヒドを放散しない材料使用」 化粧加工したものは「非ホルムアルデヒド系接着剤及び ホルムアルデヒドを放散しない材料使用」				・化粧ばり構造用集成柱				種類 山高 88 mm 山のピッチ mm (13.3.2)	
ガラス		ガラス		⑤	製材	「製材の日本農林規格」による製材				「JAS0701」に規定するもの以外の造作用単板積層材		4	ルーフトレン	型式 ()	
		石				○下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				※ 打込み ・後付け	
石		石				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		5	銅管製との防露 巻工法 (13.5.2.3) (13.5.3)	防露巻き仕様 ・ 防露部 巻工法 (13.5.2.3) 高さ(mm) 床 ※150 天井 ※30 防露材 防露材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ (13.5.2.3)(表13.5.3)	
		外壁乾式工法の目地		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		屋内見え掛りの場合 ※屋内床:ステンレス鋼板幅木(厚0.2mm)、天井取合い部:廻り縁 防露を行わない場合 ※ステンレス製シーリングプレートを取り付ける(床、天井共)							
コンクリート		コンクリート				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		④	①	あと施工アンカー (14.1.3)	
		打継目地		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		②		ステンレス					
ひび割れ		ひび割れ				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		3	アルミニウム及び アルミニウム合金 (14.2.1)	(14.2.1)(表14.2.1)	
		誘発目地 (注)		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		野縁などの種類 (JIS A 6517) (14.4.2)(表14.4.1)					
石、タイル		石、タイル				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑤	軽量鉄骨天井下地 (14.4.2) (14.4.4.8)	屋内 ※19形 ・25形 屋外 ・19形 ※25形 (14.4.4.8)	
		A L C		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		・天井のふとところが1.5m以上の補強					
押出し成形		押出し成形				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑥	軽量鉄骨壁下地 (14.5.3)	スタッド、ランナーの種類 (JIS A 6517) (14.5.3)(表14.5.1)	
		セメント板 (注)		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		・50形 ○65形 ・90形 ・100形					
水回り		水回り				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑦	防虫処理 (12.3.1) (12.3.1.7～2)	釘 湿潤状態となる場所 ※ステンレス製 (12.2.2.1)	
		浴室、浴槽		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.3.1)					
キッチン、キャビネット回り		キッチン、キャビネット回り				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑧	接合具等 (12.2.2.1～3)	木ねじ 湿潤状態となる場所 ※ステンレス製 (12.2.2.2)	
		洗面、化粧台回り		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.2.2.3)					
洗面、化粧台回り		洗面、化粧台回り				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑨	防腐・防蟻処理 (12.3.1) (12.3.1.7～2)	・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.3.1)	
		タイル (伸縮調整目地)		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.3.1.7)					
タイル (伸縮調整目地)		タイル (伸縮調整目地)				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑩	接合具等 (12.2.2.1～3)	・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.3.1)	
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4		「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質		・単板積層材		その他合板		・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.3.1.7)					
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑪	接合具等 (12.2.2.1～3)	・防腐、防蟻処理が必要な樹種による製材 (12.3.1)	
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				⑫	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑬	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				⑭	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑮	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				⑯	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑰	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				⑱	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		⑲	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				⑳	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉑	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉒	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉓	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉔	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉕	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉖	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉗	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉘	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉙	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉚	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉛	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉜	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉝	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㉞	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㉟	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊱	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊲	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊳	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊴	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊵	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊶	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊷	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊸	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊹	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊺	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊻	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊼	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊽	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㊾	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㊿	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㋀	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㋁	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㋂	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材				㋃	接合具等 (12.2.2.1～3)
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質				・単板積層材		㋄	接合具等 (12.2.2.1～3)		
		アルミニウム製建具等の工場シール (注)4				「下地用針葉樹製材 樹種,寸法,等級,形状(耳付材・押角),含水率,保存処理,表面の材質									

⑤フロアリング張り
(19. 5. 2～5)

・ 単層フローリング
(19. 5. 2～5)

種 類	工 法	樹 種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	仕上塗装
・ フローリングがート 1等	・ 釘留め工法 (根太張り)	※ なら	15	板幅75以上 板長さ400以上	・ 塗装品 ・ 無塗装品
	・ 釘留め工法 (直張り)	※ なら	・ 12以上	板幅75以上 板長さ400以上	
	・ 接着工法	※ なら	・ 8以上	板幅75以上 板長さ400以上	
・ フローリングがロク 1等	・ 接着工法	※ なら	・	・	・ 塗装品 ・ 無塗装品

○ 複合フローリング
(19. 5. 2～5)

種 類	工 法	樹 種	厚さ等	防湿処理	仕上塗装
・ 天然木化粧 複合フローリング	○ 釘留め工法 (根太張り)	○ なら	※ 図示による	○ 適用する ・ 適用しない	○ 塗装品 ・ 無塗装品
	・ 釘留め工法 (直張り)	○ プナ			
・ 接着工法					

フローリングのホルムアルデヒド放散量等
※ F☆☆☆☆、接着剤等不使用 (単層フローリングに限る)、ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 (単層フローリングに限る)、非ホルムアルデヒド系接着剤使用並びに非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用とする。

※ 製造所及び製品名 ()

接着工法の場合の不陸緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート (19. 5. 5)

⑥畳敷き
(19. 6. 2)

種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ○ D種 (畳床:) (19. 6. 2)(表19. 6. 1)
防虫処理 防虫加工紙を使用する場合は、業事法の承認を受けたものとする。(A、B、C種)

⑦せっこうボード
その他ボード
及び合板張り
(19. 7. 2～3)

※ 天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

○ せっこうボード製品
(19. 7. 2)(表19. 7. 1～表19. 7. 5)

材 種・規 格	施工箇所	張 り 方	厚さ (mm) 等
○ せっこうボード (JIS A6901)	○ 壁	○ 下張り ・ 上張り ○ 直張り	・ 目透し ・ 突付け ・ 継目処理
		・ 9.5 (準不燃) ○ 12.5 (不燃)	
・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様) (JIS A6901)	○ 天井	・ 下張り ・ 上張り ・ 直張り	・ 目透し ・ 突付け ・ 継目処理
		・ 9.5 (準不燃) ・ 12.5 (不燃)	
・ 化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)	・ 天井	・ 直張り	・ 目透し
・ 吸音用穴あきせっこう ボード (JIS A6301)	・ 天井	・	・ 目透し
・ ロックウール化粧吸音板 (JIS A6301)	天井	・ 上張り ・ 直張り	・ 突付け
・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃)			

○ 繊維強化セメント板

種 類	施工箇所	張 り 方	厚さ (mm)
○ けい酸カルシウム板 ・ 普通板 (JIS A5430)	○ 壁 ○ 天井	・ 目透し ・ 突付け	○ 6 (不燃) ・ 8 (不燃) ・ 10 (不燃) ・ 12 (不燃)
		○ 突付けV目地	
・ 化粧ボード (JIS A5430)	・ 壁 ・ 天井	・ 目透し (シーリング) ・ 突付け ・ ジョイナー	

○ その他ボード

種 類	規 格 等
○ 硬質木片セメント板 (JIS A5404)	t=18mm (増築部: 屋根下地)
・	
・	

○ 合板
(19. 7. 2～3)

材 料	樹種名	処 理	接着の程度、厚さ (mm) 等
○ 普通合板	ラウン	○ 防虫	類 ○ 5.5 ○ 12 ・ 15
・	シナ	○ 防虫	類 ・ 4 ○ 5.5 ・
・ 天然木化粧合板		・ 防虫	類 ・

合板のホルムアルデヒド放散量等
※ F☆☆☆☆、非ホルムアルデヒド系接着剤使用 (普通合板及び天然木化粧合板に限る)、非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 (天然木化粧合板に限る) 並びに非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 (特殊加工化粧合板に限る) とする。

合板の張付け ・ A種 ・ B種 (19. 7. 3)(表19. 7. 3)

⑧壁紙張り
(19. 8. 2)

建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの
(19. 8. 2)

施工箇所	種 類 (製造所)	防火性能の種別
事務室・休憩室・前室・便所	JIS A6921	○ 2級
		・
		・

壁紙のホルムアルデヒドの放散量
※ F☆☆☆☆ ・

断熱材打込み工法
(19. 9. 3)

○ 断熱材

材 種	種 別	厚さ	施工箇所
・ ビーズ法 ポリスチレンフォーム			
※ 押出法 ポリスチレンフォーム	・ 2種 b ・ 3種 b	※ 25 ・ 20	
・ A種硬質ウレタンフォーム			
・ 硬質ウレタンフォーム			
・ フェノールフォーム			

※ フェノールフォーム断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

断熱材補修材
○ 断熱材と同材
・ 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材

断熱材現場発泡工法
(19. 9. 4)

材 種	種 別	厚さ	施工箇所
・ 吹付け硬質ウレタンフォーム 断熱材	※ A種 1 ・ A種 1 H 難燃性	・	

※ 難燃性 ・ 2級 ※ 3級

⑨断熱材
(19. 9. 3～4)

1 フリーアクセス
フロア
(20. 2. 2)

施工箇所	材 質	寸法・高さ	所定荷重	耐震性能

※ 表面仕上材 ※ 図示による ・
・ 帯電防止性能 ・ 漏えい抵抗

2 可動間仕切
(20. 2. 3)

・ パーティション
(20. 2. 3)

構造形式種別	構成基材の種類	パネル表面材・仕上	遮音性能	防火性能
・ スタッド式	※ アルミ ・ スチール			・ 不燃 ・

パネルのホルムアルデヒドの放散量 ※ F☆☆☆☆

3 スライディングドア
(20. 2. 4)

操作方法種別	パネル表面材・仕上	圧接装置操作方法	遮音性能	防火性能
・ 手動式		・ ハンドル回転式 ・ プッシュ式		・ 不燃 ・

製造所
(20. 2. 5)

表面材の材質 (下小口共)	脚 部	ドアエッジ
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※ 幅木 ・ 支柱	※ S U S ・ 標準 ※ R付 ・ アルミ ・ S U S

金物 ※ 図示による (見本提出のうえ監督員の承認を受ける。)
パネルのホルムアルデヒドの放散量
※ F☆☆☆☆ ・

4 トイレブース
(20. 2. 5)

5 手すり
(20. 2. 6)

6 階段滑り止め
(20. 2. 7)

⑦黒板及び
ホワイトボード
(20. 2. 9)

種 類	色	暗 線	施工箇所
・ 鋼製黒板 ・ ほうろう黒板	※ 焼付 ・ 黒	・ 有 ・ なし	事務・休養室
○ ホワイトボード	※ ほうろう ・ 白	○ 有 ○ なし	

枠 ・ 木製 (図示による) ※ アルミ製
形状 ・ 平面 箇所
・ 平面 (行事) 箇所
・

チョークボックス ・ アルミ製 ・
ピクチャーレール ・ 有 (図示による) ・

⑧表示
(20. 2. 11)

・ 衝突防止表示 () (20. 2. 11)
○ 室 名 札 (外部1 内部8)
・ ピ ク ト グ ラ フ ()
・ 案 内 板 ()
・ 視 覚 障 が い 者 案 内 板 ()
・ 市 章 ()
・ 車 イ ス マ ー ク ()
・ 施 設 名 文 字 ・ 切抜文字 ・ ステンレス 字数 ()
・ 箱文字 ・ ステンレス 文字の大きさ (×)

9 ブラインド
(20. 2. 14)

(20. 2. 14)

形 式	※ 模形 (JIS A4801)	・ 縦形
種 類	※ ギア式 ・ コード式	※ コード方式
スラットの幅	※ 25mm ・ 35mm ・	・ 100 ・ 75
スラットの材種	※ アルミニウム合金	※ アルミニウム合金 ・ クロス
ボックス等の材種	※ 鋼製	※ アルミ (ヘッドレール)

(20. 2. 16)

きれ地の品質等 (製造所)	ひだの種類	
カーテン (ポリエステル)	2つ山ヒダ	事務・休養室

暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※ 300以上
カーテンレール 材 種 ・ ステンレス製 ※ アルミニウム製

11スクリーン

種 別 ※ ホワイトスクリーン
形 式 ※ スpring巻上 (ノーショック) 式 ・
寸法 (mm) 幅 () 高さ ()

12くつふきマット

枠 ※ ステンレス製 ・ 黄銅製
マット ※ 塩化ビニル製 ・ ゴム製 ・ アルミ合金製 ・ 鉄製
排水 ※ 設ける (排水目皿V P 50φ) ・ 設けない

13厨房器具

器 具 名	規格・施工箇所等
・ 流し台	市販品
・ 調理台	〃
・ コンロ台	〃
・ ガステーブル	〃
・ つり戸だな	〃
・ 水切だな	〃

14ピクチャーレール

タイプ ・ 天井面付け ・ 壁面付け
安全荷重 ・ フック 耐荷重 30kg程度 2個/㎡

15ブラインドボックス
カーテンボックス

材質 ※ アルミニウム製
表面処理 ※ C-1 ・ C-2 (色調:)
溝幅×深さ (mm) ※ 図示による ・ 120×80 ・

16消火器ボックス

・ 既製品 (図示による) ・

17視覚障がい者用
誘導ブロック

材種 ・ 塩化ビニル製 厚さ ※ 7mm (2+5) ※ 300×300
・ コンクリート製 (厚さ30mm)
・ 磁器質タイル製

18家具類

合板類、MDF及びパーティクルボード、接着剤及び塗料のホルムアルデヒドの放散量
※ F☆☆☆☆ ・

23植栽工事

1 植栽地の確認
(23. 1. 3)

2 植栽基盤
(23. 2. 2)

有効土層の厚さ (cm) (表23. 2. 1)

	樹 木				芝、地被類
	樹 高	高 木	低 木		
樹 高	12m以上	7～12m未満	3～7m未満	3m未満	
有 効 土 層	※ 100 ・	※ 80 ・	※ 60 ・	※ 50 ・	※ 20

工法 樹木 ※ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種
芝及び地被類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種
土壌改良材 ※ バーク堆肥 ・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト)

3 支柱材

支柱材 ※ 杉の炭丸太 ・ 竹

4 芝
(23. 4. 2)

種類 ※ コウライシバ ・ ノシバ

22舗装工事

1 路床
(22. 2. 2～5)

フィルター層 ※ 適用しない ・ 適用する (厚 mm)
路床安定処理 ※ 適用しない ・
路床の盛土材料 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (表3. 2. 1)(22. 2. 3)
路床の試験 C B R試験 ・ 行わない ・ 行う
路床締固め度の試験 ・ 行わない ・ 行う
現場C B R試験 ・ 行わない ・ 行う
砂の粒度試験 ・ 行わない ・ 行う

2 路盤
(22. 3. 2～5)

路盤の構成 ・ 車路: 100、歩行者用通路: 100 ・ 図示による (22. 3. 2)
材料 ・ 砕石クラッシュラン ※ 再生材クラッシュラン (22. 3. 3)
・ クラッシュラン鉄鋼スラグ
締固め度の試験 ・ 行わない ※ 行う (22. 3. 5)

3 アスファルト舗装
(22. 4. 2～6)

舗装厚 車路 ・ 50 ・ (22. 4. 2)
歩行者用通路 ・ 30
アスファルト ・ 再生アスファルト ※ 60～80 ・ 80～100 (22. 4. 3)
・ ストレートアスファルト
加熱アスファルト混合物等の種類 (22. 4. 4)
表層 ※ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・
※ 細粒度アスファルト混合物 (13) ・
切り取り検査 ※ 行う (箇所) ・ 行わない (22. 4. 6)
アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない

4 コンクリート舗装
(22. 5. 2～6)

舗装厚 車路及び駐車場 ・ (22. 5. 2)
歩行者用通路 ・ 70
コンクリート ・ (22. 5. 3)
目地材 ・
溶接金網 ・ 使用する (150□×6φ) ・ 使用しない
コンクリート版の厚さの試験 ・ 行う ・ 行わない (22. 5. 6)

5 カラー舗装
(22. 6. 2～6)

舗装厚及び種類 (22. 6. 2)
・ 加熱系カラー舗装 ・ 図示による ・
・ 常温系カラー舗装 ・ 図示による ・
切り取り検査 ※ 行う (箇所) ・ 行わない (22. 6. 6)

6 透水性
(22. 7. 2～6)

舗装の構成及び厚 ・ 図示による (22. 7. 2)
アスファルト舗装 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない (22. 7. 6)
切り取り検査 ※ 行う (箇所) ・ 行わない

7 ブロック系舗装
(22. 8. 2～3)

インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2～3)
基層 ・ アスファルト混合物 ・ 50
・ コンクリート版 ・ 70
クッション材 ※ 砂 ・ 空疎りモルタル
種類、形状、厚さ ・
製造所

8 区画線

路面標示用塗料 ・ 1種 ・ 2種 ※ 3種1号
色 ※ 白 ・
塗布幅 ※ 図示 塗布厚さ ※ 1. 0

工事名称
福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

図面名称
建築工事 特記仕様書 No. 4

縮尺

図面No
A-04

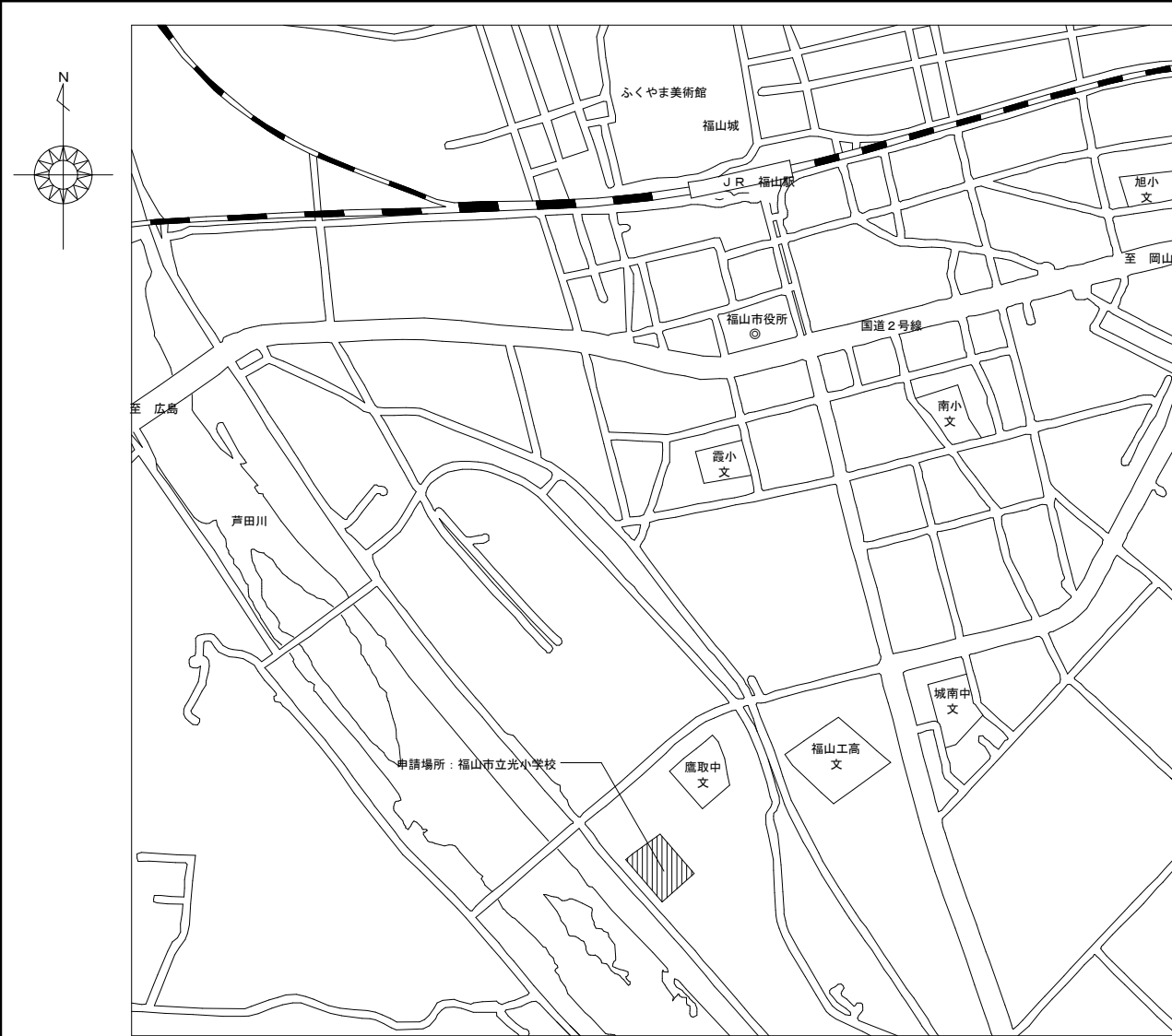
藤岡建築設計室

福山市建設局建築部営繕課

設計
2025年 3月

広島県知事登録第22〔1〕0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良造
福山市御幸町中津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437

福 山 市 工 事 区 分 表								分 類	項 目	区分						分 類	項 目	区分																
1. 区分は設計図書に明記なき限り、※印のついたものを適用する。 2. 複数の区分が適用となる場合は、関連工事別に施工する。										建	電	給	空	ガ	昇			建	電	給	空	ガ	昇											
分 類	項 目						建	電	給	空	ガ	昇	分 類	項 目						建	電	給	空	ガ	昇									
	建	電	給	空	ガ	昇		建	電	給	空	ガ	昇		建	電	給	空	ガ	昇		建	電	給	空	ガ	昇							
1 設備基礎	1. 建物内の機器類の基礎	※						9 ビット・マンホール 水槽等	1. 防火（煙）シャッター及び自動閉鎖装置の製作及び設置	※					10 電気設備等	1. 湧水槽、蓄熱槽等のRC造躯体、断熱層、内外の防水及び仕上げ	※						13 昇降機	1. 昇降路内ビットの防水、集水槽の製作及び設置	※									
	2. 同上アホギスト、箱入れ、埋込み設置、架台の製作及び設置		※	※	※	※	※		2. 同上用連動制御器と感知器の製作・設置及び電気配管配線工事		※						2. 同上マンホール蓋及びタラップの設置	※							2. 昇降路内点検用タラップの製作及び設置	※								
	3. 建物外部の機器類の基礎	※	※	※	※	※	※		3. 防火戸の扉、枠の製作・設置（自動閉鎖装置用切り込み補強共）	※							3. 屋内の排水溝、配管ビット、配線ビットの内外の防水及び仕上げ	※							3. 出入り口三方枠取付け用下地鉄骨の設置（S造に限る）	※								
	4. 同上アホギスト、箱入れ、埋込み設置、架台の製作及び設置		※	※	※	※	※		4. 同上用自動閉鎖装置の製作・設置	※							4. 同上付属蓋類及びタラップの設置	※							4. 出入り口扉三方枠、畜槽の製作及び設置						※			
	5. 外灯基礎の製作及び設置		※						5. 同上用連動制御器及び感知器の製作・設置		※						5. 同上内設備配管類の架台の製作及び設置		※	※	※	※	※			5. 同上枠回り空隙の充填及び補修	※							
2 設備機器類取付下地	1. 設備機器類の取付け用シート及び吊り金具の製作及び設置		※	※	※	※	※		6. 同上用自動閉鎖装置、連動制御器及び感知器の電気配管配線工事		※						6. 屋内マンホールのRC造躯体、鉄蓋蓋及び化粧蓋の設置	※							6. 軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置（S造に限る）	※	※ 受金物					※		
	2. 鉄骨造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※	※	※	※	※	※		7. 可動式防煙壁及び自動降下装置緩衝装置の製作・設置	※							7. 屋外マンホールのRC造躯体、鉄蓋蓋の設置	※	※	※	※	※	※			7. 軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置（S造を除く）						※		
	3. 設備機器類の取付け用下地補強	※	※	※	※	※	※		8. 同上用連動制御器、感知器の製作・設置及び電気配管配線工事		※						8. 同上化粧蓋の仕上	※								8. 機械室天井フックの製作及び設置（S造に限る）	※							
									9. 電動式排煙窓の開放装置の製作・設置及び二次側電気配管配線工事	※							9. 浄化槽設備のRC造躯体、内外防水及び仕上げ	※		※							9. 機械室天井フックの製作（S造を除く）						※	
									10. 同上一次側電気配管配線工事		※						10. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置			※							10. 同上の設置	※						
3 躯体貫通	1. 設備機器類の取付け用下地補強							10 電気設備等	11. 電動シャッター、自動ドアなどの制御壁及び二次側電気配管配線工事	※					11. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置			※							11. 軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置（S造を除く）									
	2. 鉄骨造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※	※	※	※	※	※		12. 同上一次側電気配管配線工事		※					12. FRP製浄化槽等の設置（RC造躯体は除く）			※						12. 昇降路、ビット内の保守用コンセントの設置						※			
	3. 設備機器類の取付け用下地補強	※	※	※	※	※	※				※					13. 排水槽、浄化槽等の内外装置の設置			※						13. 昇降機の制御壁及び二次側電気配管配線工事						※			
																14. 湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置		※	※	自動制御設備のみ						14. 同上一次側電気配管配線工事		※						
																15. 同上用各種満減水警報、液面電極棒取付け		※								15. 昇降路内の換気設備の設置				※				
4 躯体以外の貫通・開口	1. 工場製作の床、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強（下地補強を含む）	※							11 空調・換気設備等	1. 屋内、敷地内雨水排水工事（側溝等への放流を含む）	※					12 消火設備等	1. 自家発電設備用材料、ケーブルの製作・設置及び油配管工事		※						分 類	項 目	区分							
	2. 地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置	※								2. 同上用防油堤RC造躯体及び仕上げ	※							2. 同上用各種満減水警報、液面電極棒取付け		※								建	電	給	空	ガ	昇	
	3. S、SRC造梁貫通鋼管スリーブの製作、設置及び開口補強	※								3. 自家発電設備用一次側給排水配管工事			※					3. 設備用機器、付属制御壁への電源接続及び接地工事		※														
	4. RC造梁貫通スリーブの製作及び設置	※	※	※	※	※	※			4. 自家発電運転用給排水設備工事			※						4. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置			※	※	※	※									
	5. 同上開口補強	※								5. 機器類付属制御壁の設置及び二次側電気配管配線工事				※	※		※	※																
5 点検口・ガラリ	6. 床や壁の貫通、半貫通部分のスリーブ、箱等の製作及び設置	※	※	※	※	※	※	12 消火設備等		6. 洗面化粧台の製作及び設置	※						6. 自動制御などの現場壁への電源接続		※							14 その他	項 目	区分						
	7. 同上開口補強	※								7. 設備用機器、付属制御壁への電源接続及び接地工事		※																						
	8. 各貫通穴あけ箇所空隙の充填及び補修	※	※	※	※	※	※																											
	9. 防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※	※			1. 流し台、ガス台、戸棚及びフードの製作及び設置	※		※						1. 自家発電設備用材料、ケーブルの製作・設置及び油配管工事															
										2. 同上給排水管及び排水金物の接続				※					2. 同上用防油堤RC造躯体及び仕上げ	※														
6 躯体以外の貫通・開口	1. 工場製作の床、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強（下地補強を含む）	※							11 空調・換気設備等	3. 屋内汚水、雑排水工事			※	※		12 消火設備等	3. 自家発電設備用一次側給排水配管工事			※						分 類	項 目	区分						
	2. 現場製作の床、間仕切り壁類、天井の補強を伴う開口及び開口補強（下地補強を含む）	※								4. 下水道本管への接続（汚水・雑排水（雨水を除く））			※					4. 自家発電運転用給排水設備工事			※													
	3. 現場製作の床、間仕切り壁類、天井の補強を伴わない開口	※	※	※	※	※	※			5. 玄関マット等の排水管	※							5. 機器類付属制御壁の設置及び二次側電気配管配線工事				※	※	※	※									
	4. 間仕切り壁開口部の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※	※											6. 自動制御などの現場壁への電源接続		※														
	5. ブロック、れんがへの設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強	※								6. 洗面化粧台の製作及び設置	※							7. 設備用機器、付属制御壁への電源接続及び接地工事		※														
	6. ALC版、押出し成形モルタル板、PC版製の設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強	※						7. 同上給排水管接続					※					8. 自家発電設備用一次側給排水配管工事				※												
	7. 床や壁の石材面の設備機器取付け用開口	※						8. 同上陶製洗面器の設置（一体型を除く）					※					9. 自家発電運転用給排水設備工事																
	8. 防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※	※	9. ユニットバス・ユニットシャワー類の設置		※								10. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置																
	9. ユニットバスの換気扇の開口（メーカー規格外の場合）	※						10. 同上給排水管接続					※					11. 同上一次側電気配管配線		※														
	7 点検口・ガラリ	1. 床、壁及び天井の点検口の製作及び設置	※							12 消火設備等	11. オストメイト対応トイレバック（既製品）（汚物流し・シャワー・電気温水器・ライニング含む）			※				13 昇降機	1. 一般換気扇（壁付型を含む）、全熱交換器の設置				※				分 類	項 目	区分					
2. 外壁ガラリのチャンバーの製作及び設置		※	※			※		12. 同上給排水管接続					※				2. 同上用の取付枠の製作及び設置			※	建具付属の場合	※												
3. 内壁等に取りつく吹出口、吸込口の製作及び設置						※		13. 同上一次側電気配管配線			※					3. 同上電気配管配線工事（スイッチ含む）			※															
4. 同上化粧用特殊ガラリの製作及び設置		※				※		14. 電気湯沸器、電気温水器、電磁ヒーターの設置					※				4. ユニットバスの換気扇の設置					※												
5. 各室建具ガラリの製作及び設置		※						15. 同上一次側電気配管配線				※					5. 同上一次側電気配管配線工事				※													
								16. 既製化粧鏡の設置	※								6. 同上一次側電気配管配線工事					※												
								17. 特注化粧鏡の設置	※								7. 同上本体・スイッチとの結線																	
								18. 大便器等水平区画の耐火区画の製作及び設置					※				8. 同上取付け用の開口及び補強			※														
								19. 手すり	※								9. 電動ロールスクリーン、電動カーテンの取付け用下地補強			※														
								20. ベビーシート、ベビーチェア、介助用ベッド	※								10. ブラインドボックス等の電気配線用開口			※														
							21. ベーパーホルダー				※				11. 消火器（発電設備及び変電設備に必要な消火器は電気設備工事）			※																
							22. 洗濯機パン				※				12. 消火器ボックスの設置				※															
							23. 同上給排水管接続				※				2. 同上起動押釦、表示灯、電話の設置及び電気配管配線工事			※																
							24. 洗面器・衛生陶器の設置及び給排水管接続				※				3. 消火ポンプ 起動制御壁の設置及び二次側電気配管配線工事				※															
															4. 同上一次側電気配管配線工事				※															
															5. 排煙窓手動開放装置のリミットスイッチの設置			※																
															6. 同上一次側電気配管配線工事				※															
															7. ガス漏れ警報設備			※				※ 警報器のみの場合												
																						</												



付近見取り図

面積表		(単位：㎡)									
棟番号		②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
棟名		南棟	屋内運動場	プール付属棟	プール機械室	屋外便所	倉庫	倉庫	倉庫	渡り廊下	
構造		RC	S	W	W	S	S	S	S	S	
建築面積		659.26	890.82	31.00	14.00	16.00	31.00	31.00	7.00	19.50	
延べ面積	1階	50.45	—	—	—	—	—	—	—	—	
	4階	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	3階	593.82	—	—	—	—	—	—	—	—	
	2階	593.82	36.78	—	—	—	—	—	—	—	
	1階	613.44	779.40	31.00	14.00	16.00	31.00	31.00	7.00	19.50	
	合計	1,851.53	816.18	31.00	14.00	16.00	31.00	31.00	7.00	19.50	

棟番号		⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	申請以外	申請建物	合計
棟名		渡り廊下	危険物貯蔵庫	駐輪場	残菜庫	渡り廊下		① 北・中棟 ⑮ 渡り廊下	
構造		RC	RC	S	S	AL		RC AL	
建築面積		60.00	4.63	22.68	2.80	22.10	1,789.69	961.36 + (9.81) + (22.10) =983.27	2,751.05 + (9.81) + (22.10) =2,782.96
延べ面積	1階	—	—	—	—	—	50.45	26.59	77.04
	4階	—	—	—	—	—	—	475.96	475.96
	3階	—	—	—	—	—	593.82	475.96	1,069.78
	2階	—	—	—	—	—	630.60	862.54	1,493.14
	1階	0.00	4.63	22.68	2.80	—	1,572.45	906.13 + (9.81) =915.94	2,478.58 + (9.81) 2,488.39
	合計	0.00	4.63	22.68	2.80	—	2,847.32	2,747.18 + (9.81) =2,756.99	5,594.50 + (9.81) =5,604.31

凡例

H1

H2

±

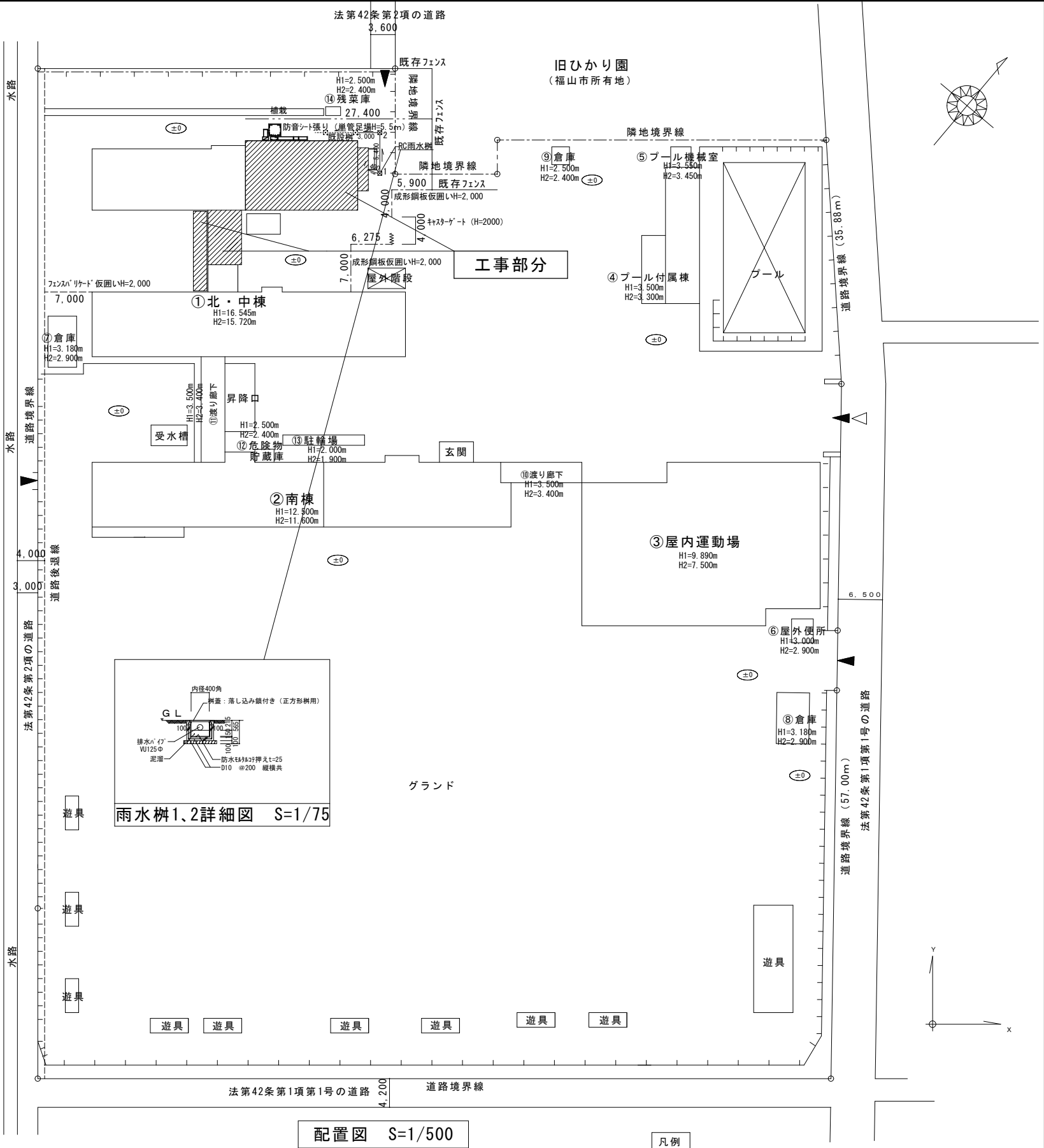
水勾配

最高の高さ

最高の軒の高さ

土地の高低

水勾配



仮設工事特記事項

①

②

③

④

工事車両出入口は原則として東側門(1箇所)のみとする。(監督員及び学校管理者と協議のこと)

車両通行部は地均し復旧を行う。

大型車両の出入り時には交通整理員または誘導員を配置する。

児童の移動が集中する時間帯(登下校時等)は重機・資材の搬入を避ける。

仮設計画書を事前に作成し、監督員の承諾を得ること。

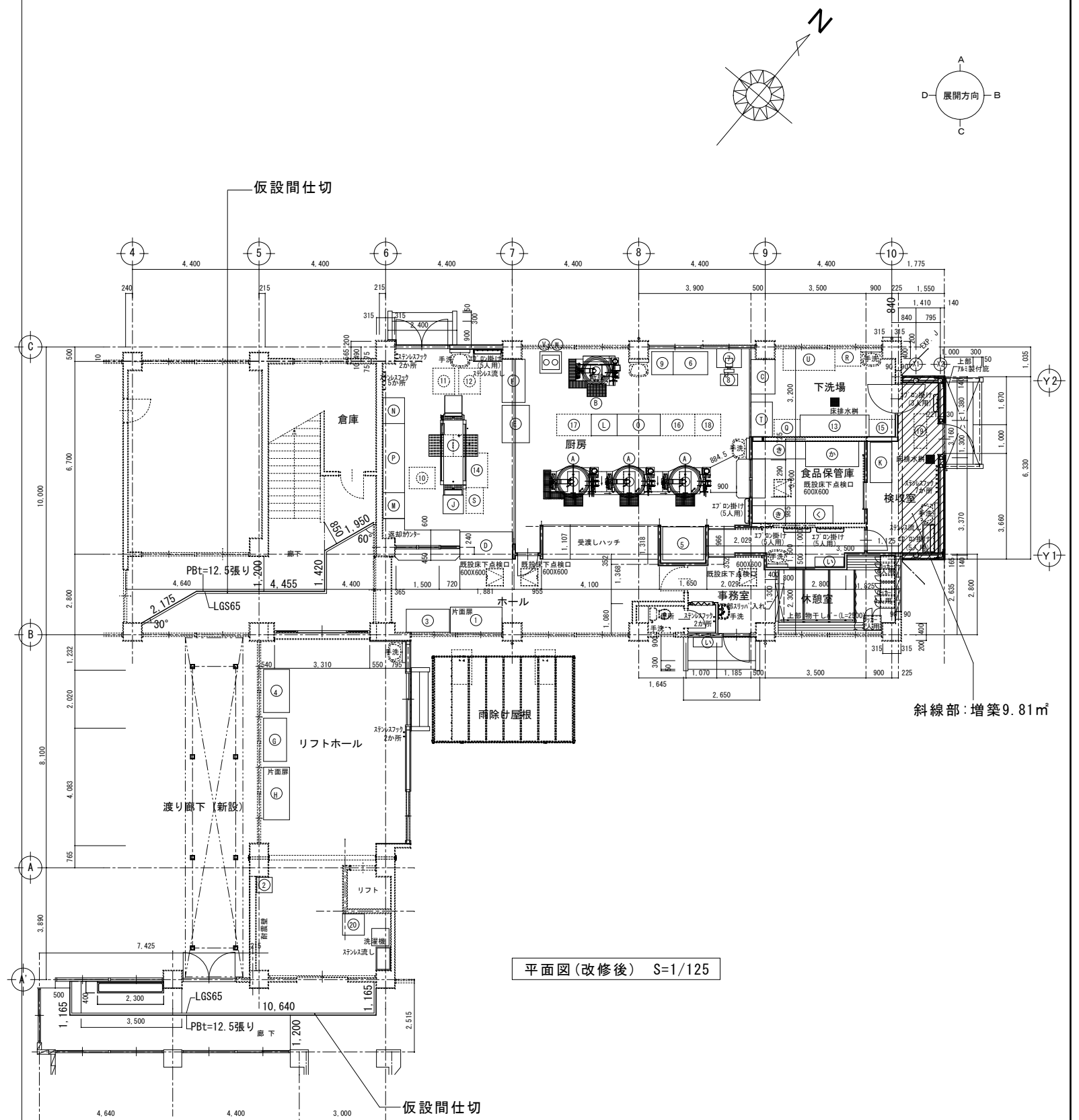
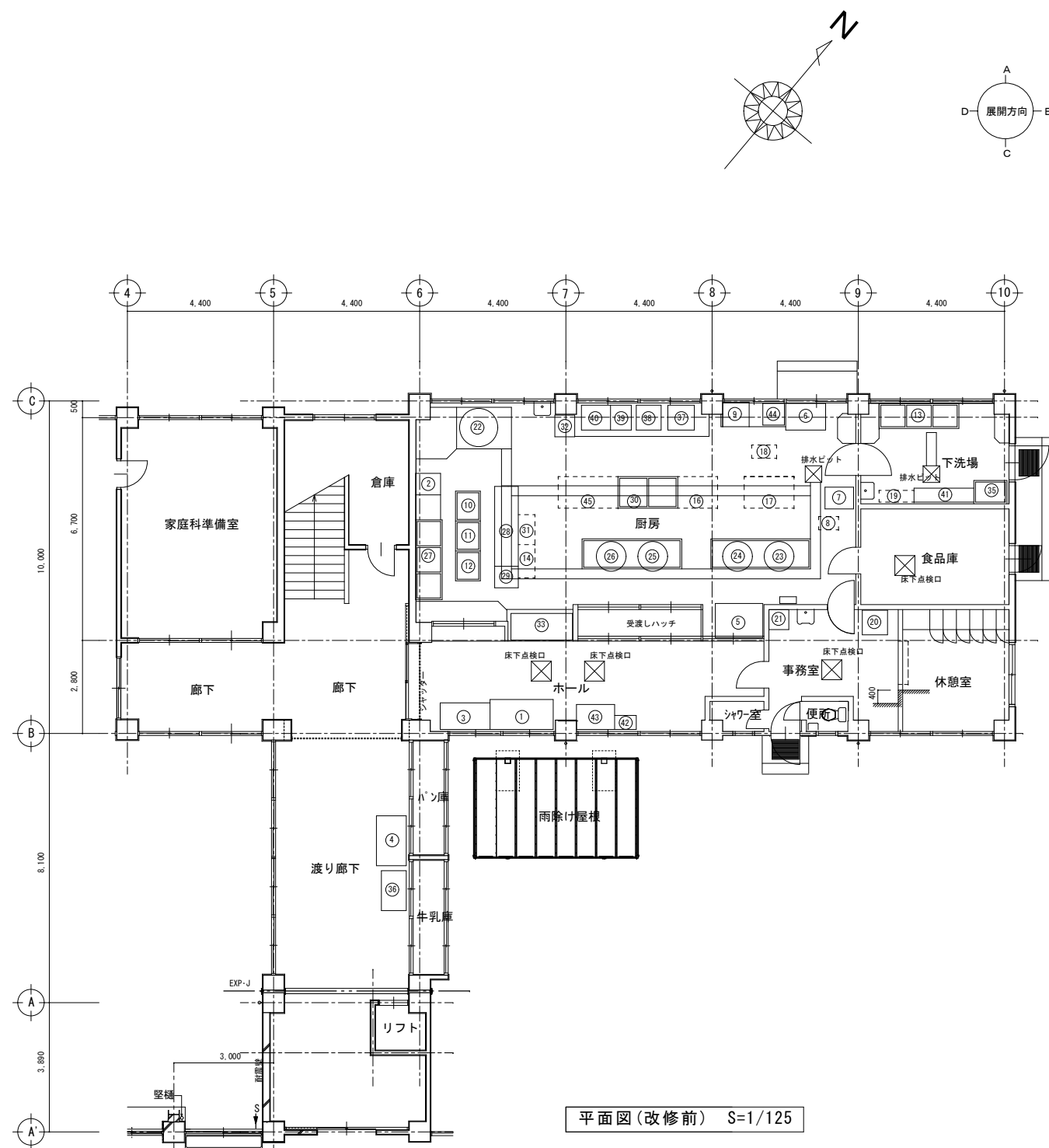
凡例	
	改修部分 給食棟・渡り廊下
	仮囲い：成形銅板・フェンスハリケード H=2.0m 防音シート H=5.5m
	キャスターゲート W=4.0m H=2.0m
	工事用車両進入路
	一般進入路(車両)

外部仕上表															
		床（犬走り）		巾　　木		壁		軒・軒裏		屋　　根		樋（増築部）			
既存部（既存接続部分）		C	水洗い洗浄、既存犬走り撤去	C	建物接続部分：表面サグ・ケレン　・高圧洗浄 劣化防止処理（金ツ塗り）	C	水洗い洗浄	C	水洗い洗浄	C	水洗い洗浄				
増築部	（既存ポーチ撤去）	C	モルタル金ツ押え 四半ツ目地切り	C	基礎コンクリート打放し仕上げ　モルタル塗り	S	押出成形セメント板 t=60　外装薄塗材E吹付			母屋C-1000×50×20×2.3 7スラブ・ルーフینگ＋　耐火野地板18 t 溶融合金メッキ銅板0.4mm　瓦棒葺き		軒樋：カラー塩化ビニール樹脂製（前高130） タテ樋：VP50φカラー（組み金物：ステンレスφ1100）			
	渡り廊下	C	コンクリート金ツ押え　ツ目地切り			S	柱：100×100×3.2　DP塗り			屋根：ルーフ・グレート（山高88）鉄板t=0.6 軒樋：カラーVP75φ（組み金物SUSφ1100）					

内部仕上表				*処理を行うアスベスト含有成形板の検査未調査の為、アスベストの有無未定																	
階	室名			床		巾木		腰壁・壁		天井				雑塗装 (家具を除く)		備考		室名			
				下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	天井高	天井廻縁	木部	鉄部						
1	厨房	改修前	C	モルタル金コテ下地 カラクリート仕上げ 排水ビット：グレーチング、内部防水モルタル塗り（下地共全て撤去）			C	モルタル下地陶器質100角タイル張り H=3400（下地共全て撤去） （タイル面：下地モルタル共撤去、塗装面：既存塗装撤去、梁型共）	C	石綿けい酸カルシウム板 t=6下地特殊ロックウール化粧板 t=12貼リ（300×600） 梁型：軽鉄下地（下地共全て撤去）	CH=3400				排水ビット、グレーチング 蓋付、ステンレスカンテ、フード 換気扇枠、7φ5可動グリ（ステンレス防虫網付）、平面黒板		改修前	厨房			
			改修後	C	無溶剤型珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上げ 珪矽樹脂リソ t=10 土間コンクリート t=150 土間コンクリート下 防湿層敷き（※リフレクティブル t=0.15）	C	珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上げ	C	珪矽塗りの上陶器質100角タイル張り H=1600 耐水PB t=12.5+珪矽板 t=6.0の上 陶器質100角タイル貼リ 珪矽塗りの上陶器質100角タイル張り H=1600 既存打放し面下地処理の上 結露防止塗材塗り 既存珪矽面下地処理の上 結露防止塗材塗り	LGS LGS CB C C	無石綿珪酸カルシウム板 t=6.0貼りの上 結露防止塗材塗り（RA種） 	CH=2900				服掛：桧100×140L=1500 フック6ヶ所 黒板（7φ5枠9900×900） 7φ5可動グリ（320×620）ステンレス防虫網付 7φ5水切 排水ビット 集水樹 グレーチング（ステンレス網付）390×390） 天井点検口（6ヶ所） 手洗面台：3ヶ所 エプロン掛 5人用：2ヶ所 ステンレスフック：7ヶ所 ステンレス地流し ステンレス床見切 回転蓋下部ビット フタ付下部ビット 返却カンテ 缶取出し口付食品カンテ グリ、フタ付 天井点検口：3ヶ所					
		ホール		改修前	C	モルタル金コテ下地ビニール床シート貼リ t=2.5（ノンスリップタイプ） （下地共全て撤去）	M	ビニール巾木 H=100 （下地共全て撤去）	C	モルタル金コテ磨き EP（A）-2塗り、一部軽鉄下地の珪酸カルシウム板 t=6 （下地共全て撤去）	LGS	有孔化粧石膏ボード t=9.5貼リ 455X910クラフト紙裏貼リ （下地共全て撤去）	CH=2640	木製 25x35撤去					受渡しバッチ、室名札、返却カンテ 床下点検口（ステンレス600×600 2ヶ所） ステンレスラップ 22φ		改修前
			改修後		C	既設珪矽下地処理の上 ビニール床シート t=2.5張り	M	下地処理の上 ビニール巾木 H=100張り	LGS	新設壁：PB t=12.5無石綿けい酸カルシウム板 t=6 EP-G 2回塗り	LGS	化粧石膏ボード t=9.5 張り	CH=2640	塩ビ製廻縁					受渡しバッチ 返却カンテ 室名札：3ヶ所（受渡し口、事務室、返却カンテ） 天井点検口：2ヶ所 床下点検口（既存使用）： ステンレス600×600 2ヶ所 ステンレスラップ 22φ 設備：食器消毒保管庫（1830×950×1800）		
	前室	改修前																	改修前	前室	
			改修後	C	珪矽 金ツ押えの上 厨房用防滑ビニール床シート t=2.0張り	M	下地処理の上 ビニール巾木 H=100 LGS PB t=12.5の上 ビニール巾木張り H=100	C	既存珪矽面：下地処理の上 EP-G 2回塗り LGS 新設壁：PB t=12.5無石綿けい酸カルシウム板 t=6 EP-G 2回塗り	LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 EP-G 2回塗り	CH=2640	塩ビ製廻縁			手洗面台：1ヶ所 エプロン掛 5人用：2ヶ所 下足入れ：1002×348×890（サ3SX-D44F1同等品） 室名札：2ヶ所（事務室、検収室） 天井点検口：1ヶ所					
		事務室 休養室	改修前	C	モルタル下地 磁器25角モザイクタイル張り 畳敷き t=55 一部ブナ化粧ブライフローリング貼リ t=15	C	モルタルコテ磨き（ステンレス目地棒 6 X 6） 畳寄せ（下地共全て撤去） ビニール巾木 H=100（下地共全て撤去）	C	珪矽仕上げ EP（A）塗り一部100角タイル張り H=1000（下地共全て撤去） 珪矽仕上げ EP（A）塗り一部100角タイル張り H=1000（下地共全て撤去）	W	化粧石膏ボード t=9.5張り（杉紐）底目地貼リ（下地共全て撤去） 便所：ケイカル板 t=6 パーライト吹付（浴室用）	CH=2690 CH=2290 CH=2525	木製 25x35撤去			室名札、下足箱・天井点検口（1ヶ所） 床下点検口（ステンレス600×600 1ヶ所） ステンレスラップ 22φ ロッカー H=1850（6人分）、換気扇用枠（サツ組込）		改修前	事務・休養室		
				改修後	C	事務室：珪矽金ツ押えの上 ビニールシート t=2.5張り W 休憩室：畳敷き t=55、板張り部 フローリング張り	M	下地処理の上 ビニール巾木張り H=100 LGS PB t=12.5の上 ビニール巾木張り H=100	C	既存珪矽面：下地処理の上 ビニールクロス貼リ CB 新設壁部：珪矽塗りの上 ビニールクロス貼リ LGS PB t=12.5の上 ビニールクロス貼リ 面台部分：耐水PB t=12.5の上 ビニールクロス貼リ	LGS CB LGS	化粧石膏ボード t=9.5 張り 化粧石膏ボード t=9.5 張り	CH=2690	塩ビ製廻縁		下足入れ（外部出入口）：1002×348×890（サ3SX-D44F1同等品） スチール製ロッカー：4人用（サ3LK-4F1同等品）：2個 2人用（サ3LK-2F1同等品）：1個 上部物干しバー（L=2500） カテン 約1800×900×600（サ3BB-HB23WN同等品）：1個 天井点検口：2ヶ所 手洗面台：1ヶ所 床下点検口（既存使用）： ステンレス600×600 1ヶ所 ステンレスラップ 22φ					
食品庫	改修前	C	モルタル金コテ下地（防塵塗装）	C	モルタル金コテ磨き	C	モルタル金コテ磨き（一部下地共撤去）	LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 Vカット突付下地パーライト吹付 t=6（浴室用） （下地共全て撤去）	CH=3300					造り付棚（木製）、脚立（7φ5製）H=1200、ステンレス換気扇枠 床下点検口（ステンレス）600×600（1ヶ所）、ステンレスラップ 22φ		改修前	食品保管庫			
		改修後	C	既設珪矽下地処理の上 厨房用防滑ビニール床シート t=2.0張り	M	下地処理の上 ビニール巾木張り H=100 LGS ケイカル板 t=6.0の上 ビニール巾木張り H=100	C	既存珪矽面：下地処理の上 EP-G 2回塗り LGS 新設壁：耐水PB t=12.5 無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0の上 EP-G 2回塗り	LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 EP-G 2回塗り	CH=3300	塩ビ製廻縁		缶取出し口付食品カンテ 天井点検口：1ヶ所 床下点検口（既存使用）： ステンレス600×600 1ヶ所 ステンレスラップ 22φ 中量ラック 1850×870（サ3MM-AW08635F1N同等品）：1ヶ所 1850×600（サ3MM-AW08625F1N同等品）：2ヶ所 950×600（サ3MM-A08325F1N同等品）：1ヶ所							
	下洗場	改修前	C	モルタル金コテ下地 カラクリート仕上げ 排水ビット：グレーチング、内部防水モルタル塗り（下地共全て撤去）	C	陶器質100角タイル張り（下地共全て撤去） 陶器質100角タイル張り撤去	C	モルタル下地100角陶器質タイル貼リ H=2000 モルタル金コテ磨き VE塗り H=2000 以上（一部下地共撤去）	LGS	石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 下地特殊ロックウール化粧板 t=12貼リ（300X600） （下地共全て撤去）	CH=3000	塩ビ製廻縁 撤去			排水樹グレーチング（ステンレス網付）390×390）7φ5可動グリ（320×620） ステンレス防虫網付、7φ5水切、服掛：桧100×140L=1500、フック6ヶ所 換気専用枠（サツ組込）		改修前		下洗場		
			改修後	C	土間コンクリート t=150 珪矽樹脂リソ t=10 無溶剤型珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上げ 土間コンクリート下 防湿層敷き（※リフレクティブル t=0.15）	C	珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上 	C	珪矽塗りの上 陶器質100角タイル張り H=1600 既存珪矽面：下地処理の上 結露防止塗材塗り 耐水PB t=12.5 無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0の上 EP-G 2回塗り	LGS LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 下地 結露防止塗材塗り 	CH=2900	塩ビ製廻縁		手洗面台：1ヶ所 天井点検口：1ヶ所 排水樹（小径グレーチング）200×200×200 3槽ツグ面台（再利用）						
検収室	改修前	C	モルタル金コテ下地（防塵塗装）（下地共全て撤去）	C	モルタル金コテ磨き（下地共全て撤去）	C	モルタル金コテ磨き（下地共全て撤去）	LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 Vカット突付下地パーライト吹付 t=6（浴室用） （下地共全て撤去）	CH=3300	塩ビ製廻縁			造り付棚（木製）、脚立（7φ5製）H=1200、ステンレス換気扇枠 床下点検口（ステンレス）600X600（1ヶ所）、ステンレスラップ 22φ		改修前	検収室				
		改修後		土間コンクリート t=150（防湿層敷き ※リフレクティブル t=0.15） 珪矽樹脂リソ t=10 無溶剤型珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上げ 既設土間：珪矽金ツ押えの上 無溶剤型珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上げ	C	エポキシ樹脂系ベース防滑塗装仕上 珪矽樹脂系ベース防滑塗装仕上	C	既存モルタル部：下地処理の上 100角タイル張り 耐水PB t=12.5+無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0の上 100角タイル張り 既存モルタル部：下地処理の上 結露防止塗材塗り 耐水PB t=12.5+無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0の上 結露防止塗材塗り	LGS LGS C LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 下地 結露防止塗材塗り ガラス板24K t=100（増築部天井裏） 	CH=2,640	塩ビ製廻縁		（耐火被覆） エプロン掛 3人用：1ヶ所 エプロン掛 5人用：1ヶ所 ステンレスフック：7ヶ所 室名札：3ヶ所（前室、食品保管庫、下洗いの場） ステンレス地流し 天井点検口：2ヶ所 排水樹（小径グレーチング）200×200×200							
	シャワー室	改修前	C	土間コンクリート下 防湿層敷き（※リフレクティブル t=0.15） 2.5角モザイクタイル （下地共全て撤去）			C	モルタル下地100角陶器質タイル貼リ（下地共全て撤去）	LGS	無石綿けい酸カルシウム板 t=6.0 Vカット突付下地パーライト吹付 t=6（浴室用） （下地共全て撤去）	CH=2525				室名札 桧（桧）2段 t=25 SOP ビニールクロス H=2000（レール共）			改修前	便所		
			改修後	C	モルタル 金コテ押えの上 厨房用防滑ビニール床シート t=2.0張り 新設土間コンクリート t=150 防湿層敷き（※リフレクティブル t=0.15）	PB	ビニール巾木 H=100	C	既存モルタル部：下地処理の上 ビニールクロス貼リ LGS PB t=12.5の上 ビニールクロス貼リ	LGS	化粧石膏ボード t=9.5 張り	CH=2600	塩ビ製廻縁		【便所前室】ステンレスフック：2ヶ所 【便所】木製面台 棚板（集成材）CL塗り						
牛乳庫 パン庫	改修前	C	モルタル金コテ下地 ステンレス t=1.0（※リソ貼リ）（下地共全て撤去）			C	モルタル金コテ磨き仕上げ（下地共全て撤去）	C	ステンレス貼リ t=0.8張り（※リソ貼リ）（下地共全て撤去）					パン庫棚：ステンレス4段		改修前	リフトホール				
		改修後		土間コンクリート t=150珪矽金ツ押えビニール床シート t=2.5張り 既設珪矽下地処理の上 珪矽金ツ押えビニール床シート t=2.5張り	C	珪矽仕上げ上 ビニール巾木 H=100張り	C	既存珪矽面：下地処理の上EP-G2回塗り LGS 新設壁：PB t=12.5無石綿けい酸カルシウム t=6 EP-G2回塗り	LGS	化粧石膏ボード t=9.5貼リ 455X910 グラス紙裏貼リガラス板24K t=100	CH=2640	塩ビ製廻縁		手洗面台：1ヶ所 ステンレスフック：2ヶ所 天井点検口：3ヶ所							
特記				*) 室名札：アクリル製（300X60程度）																	

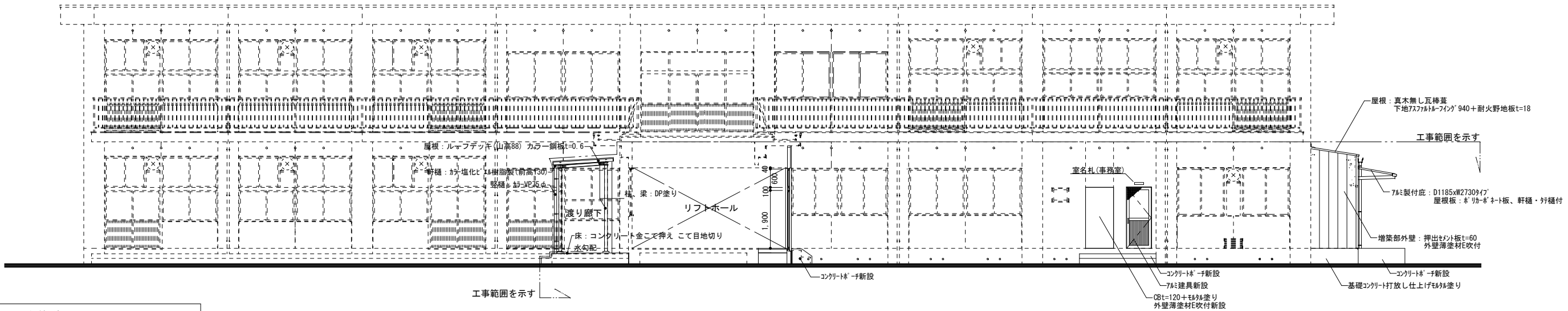
凡 例	C	コンクリート下地	W	木造下地	AB	吸音板下地	OS	オイルステン	VP	ビニール系ペイント	LGS	軽量鉄骨下地	EP (AEP)	アクリル系エマルジョンペイント	SOP	合成樹脂調合ペイント塗	A2：100% A3：71%
	CB	コンクリートブロック下地	PB	プラスチックボード下地	M	モルタル下地	OP	油性調合ペイント	AP (AE)	アクリル系エナメルペイント	KB	ケイカル板下地	CL	クリアラッカー			

		藤 岡 建 築 設 計 室			福山市建設局 建築部 営繕課		工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事		図面 A-C
		広島県知事登録第22〔1〕0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良造 福山市御幸町津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437			設計 2025年 3月	図面名称 仕上表		縮尺	

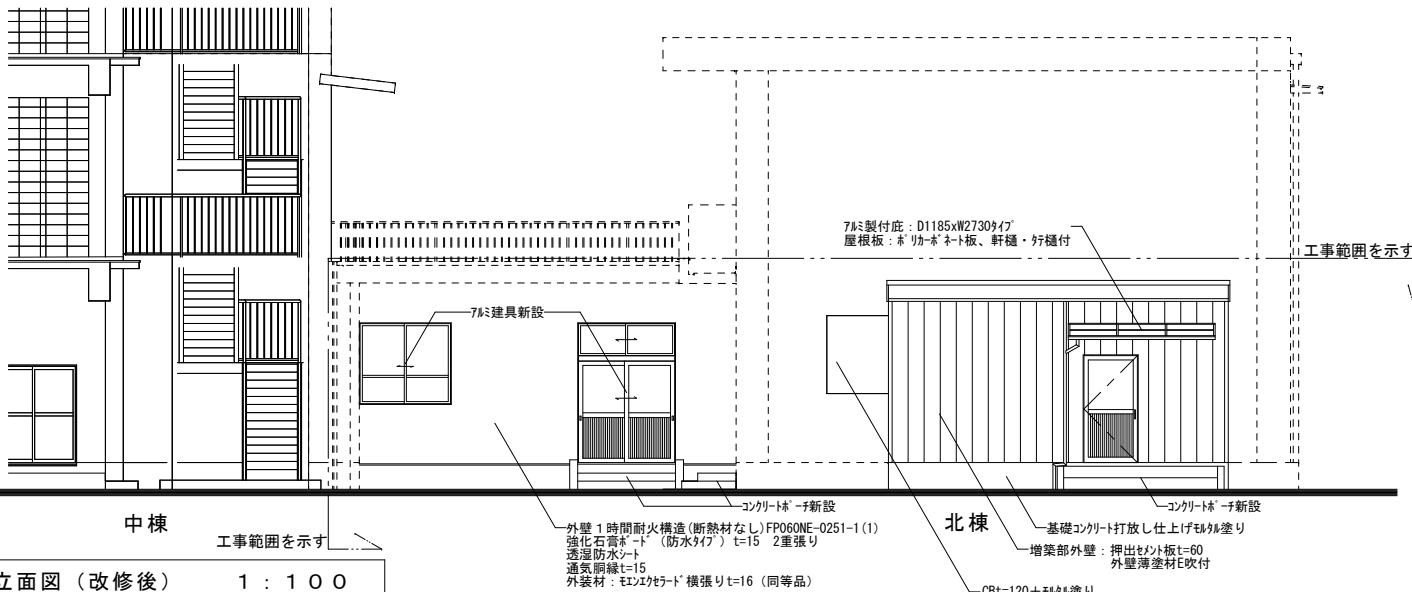


斜線部：増築9.81m²

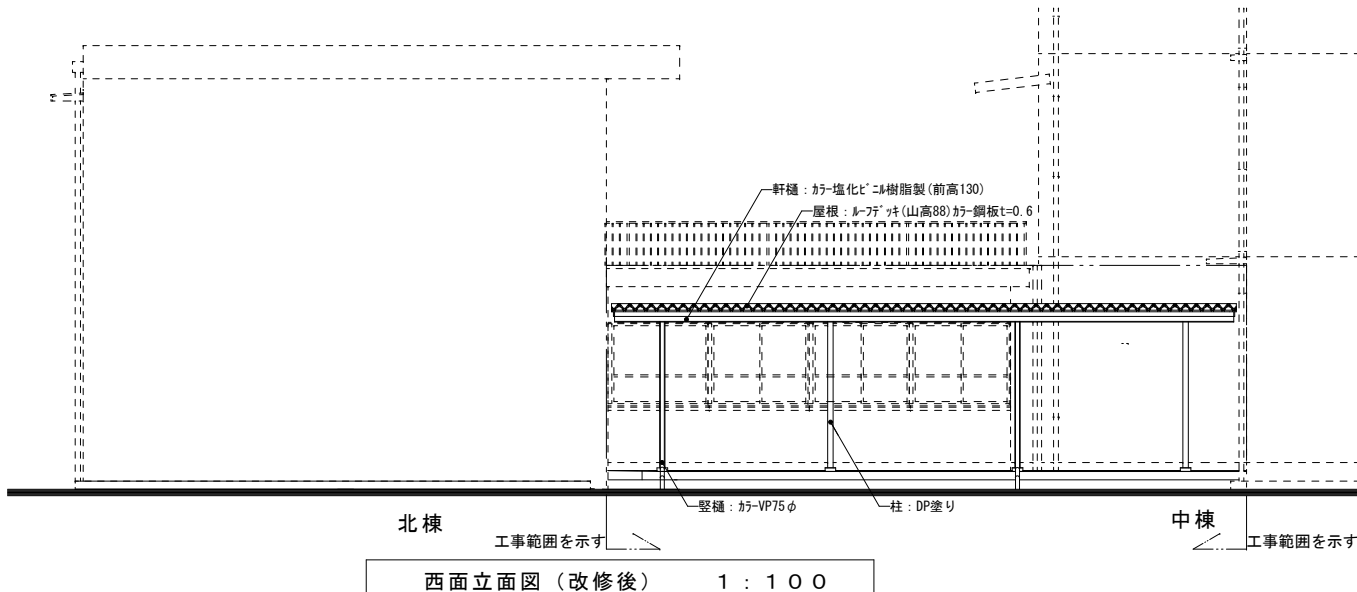
A2 : 100%
A3 : 71%



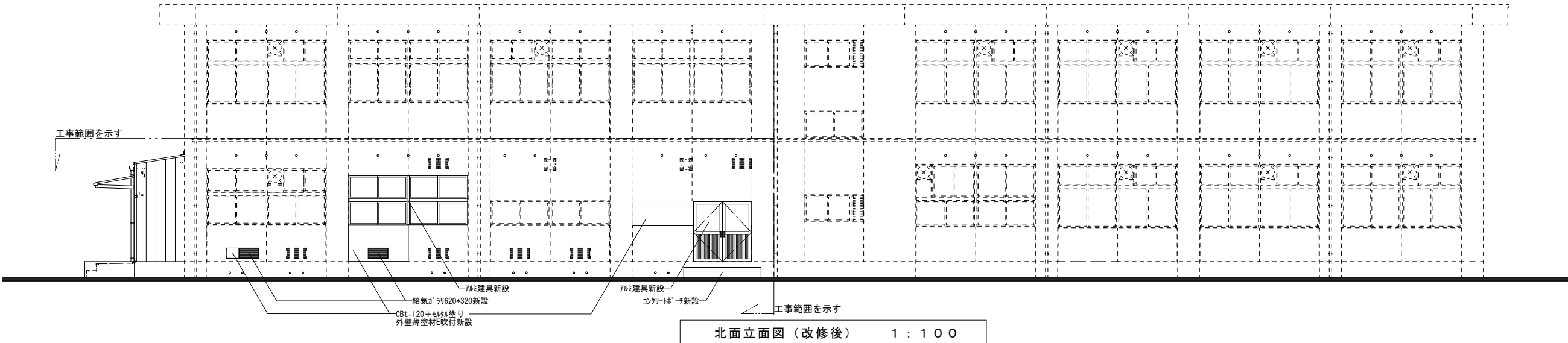
南面立面図（改修後） 1 : 1 0 0



東面立面図（改修後） 1 : 1 0 0

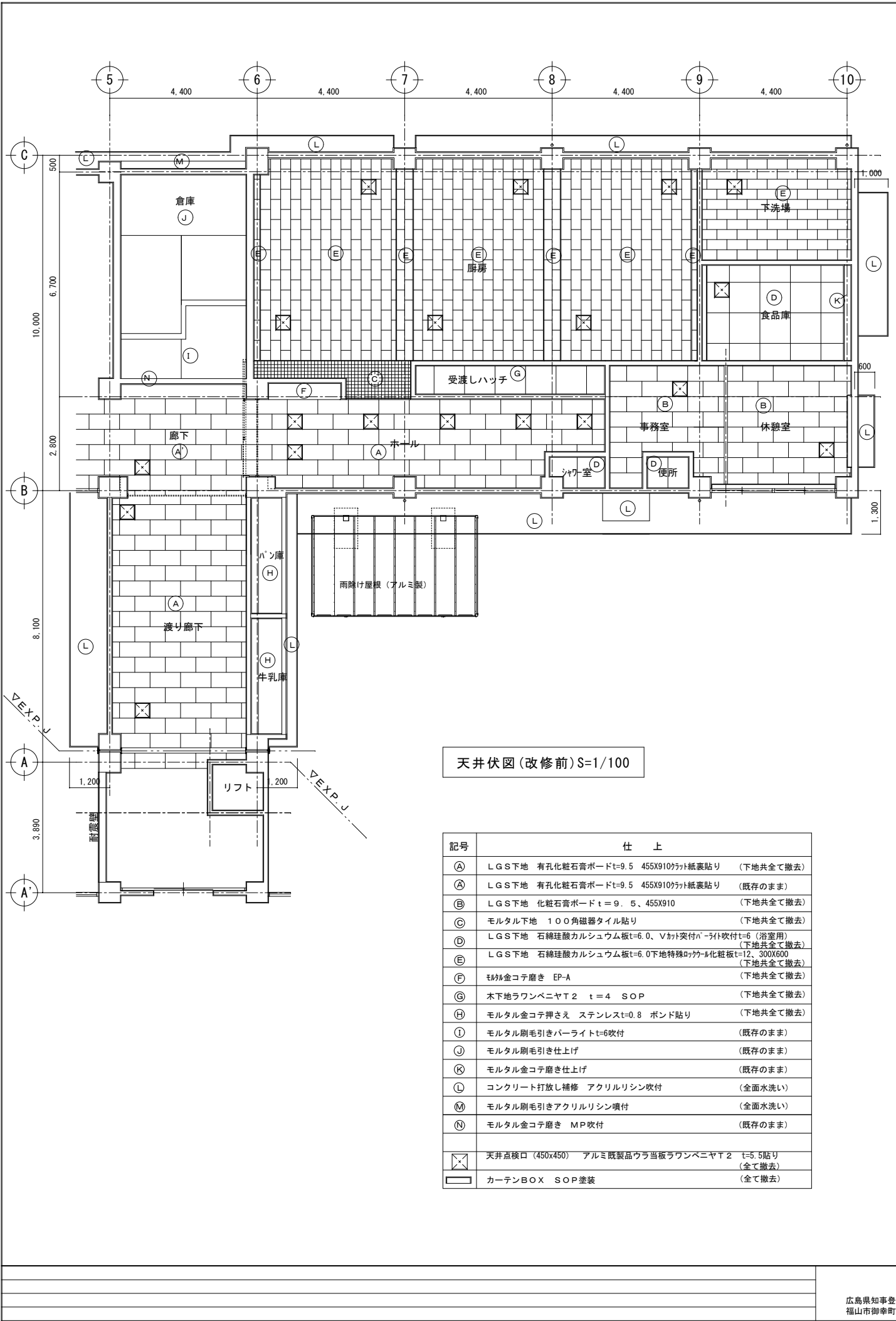


西面立面図（改修後） 1 : 1 0 0



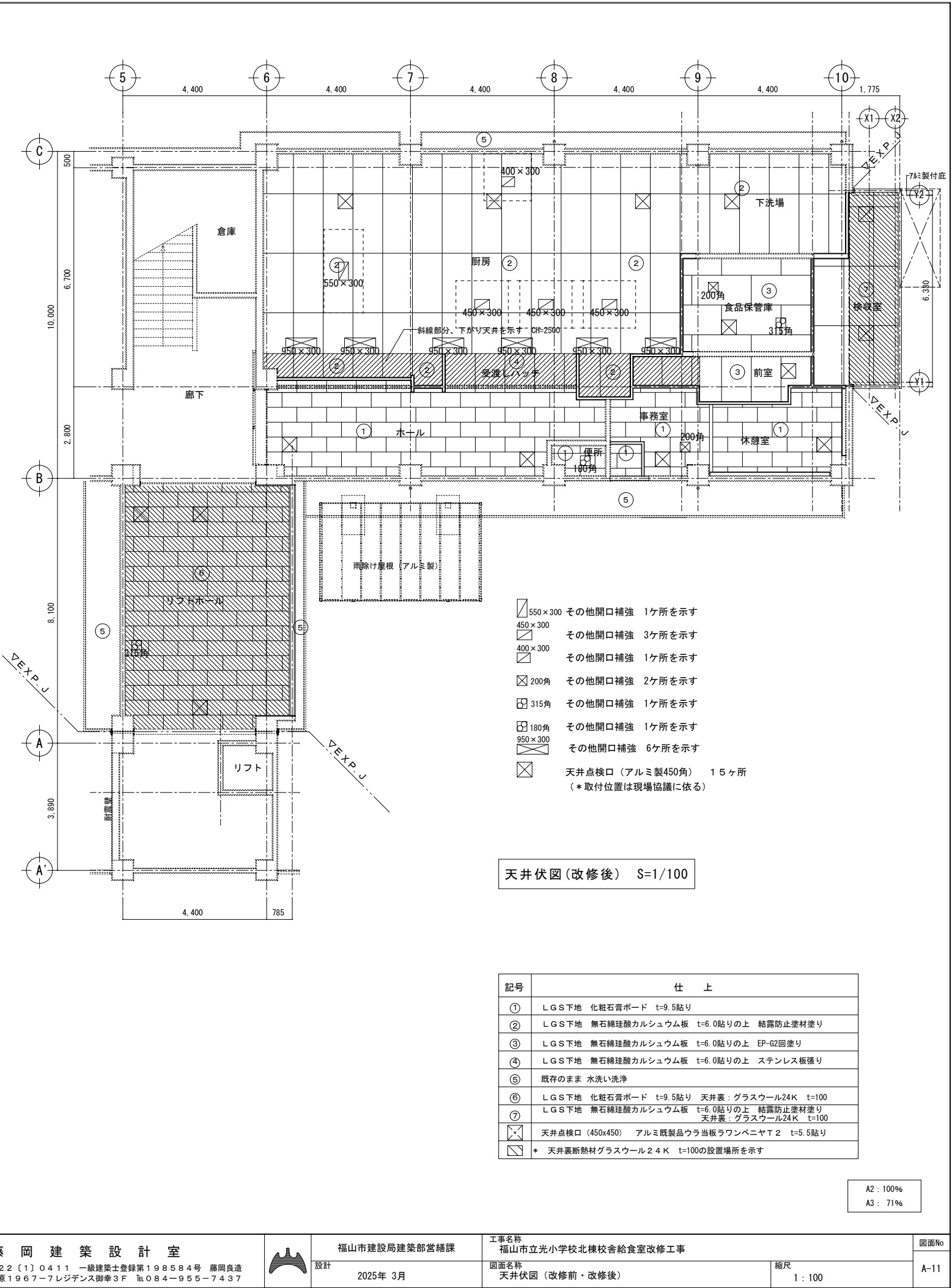
北面立面図（改修後） 1 : 1 0 0

A2 : 100%
A3 : 71%



天井伏図(改修前)S=1/100

記号	仕 上
Ⓐ	ＬＧＳ下地 有孔化粧石膏ボードt=9.5 455X910ラット紙裏貼り (下地共全て撤去)
Ⓐ	ＬＧＳ下地 有孔化粧石膏ボードt=9.5 455X910ラット紙裏貼り (既存のまま)
Ⓑ	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t = 9. 5、455X910 (下地共全て撤去)
Ⓒ	モルタル下地 100角磁器タイル貼り (下地共全て撤去)
Ⓓ	ＬＧＳ下地 石綿珪酸カルシウム板t=6.0、Vカット突付ﾊﾞｰﾗｲﾄ吹付t=6 (浴室用) (下地共全て撤去)
Ⓔ	ＬＧＳ下地 石綿珪酸カルシウム板t=6.0下地特殊ﾛｯｶｰ化粧板t=12、300X600 (下地共全て撤去)
Ⓕ	モルタル金コテ磨き EP-A (下地共全て撤去)
Ⓖ	木下地ラウンベニヤT2 t=4 SOP (下地共全て撤去)
Ⓕ	モルタル金コテ押さえ ステンレスt=0.8 ポンド貼り (下地共全て撤去)
①	モルタル刷毛引きﾊﾞｰﾗｲﾄt=6吹付 (既存のまま)
Ⓖ	モルタル刷毛引き仕上げ (既存のまま)
Ⓚ	モルタル金コテ磨き仕上げ (既存のまま)
Ⓛ	コンクリート打放し補修 アクリルリシン吹付 (全面水洗い)
Ⓜ	モルタル刷毛引きアクリルリシン噴付 (全面水洗い)
Ⓝ	モルタル金コテ磨き MP吹付 (既存のまま)
ⓧ	天井点検口 (450x450) アルミ既製品ウラ当板ラウンベニヤT2 t=5.5貼り (全て撤去)
□	カーテンBOX SOP塗装 (全て撤去)

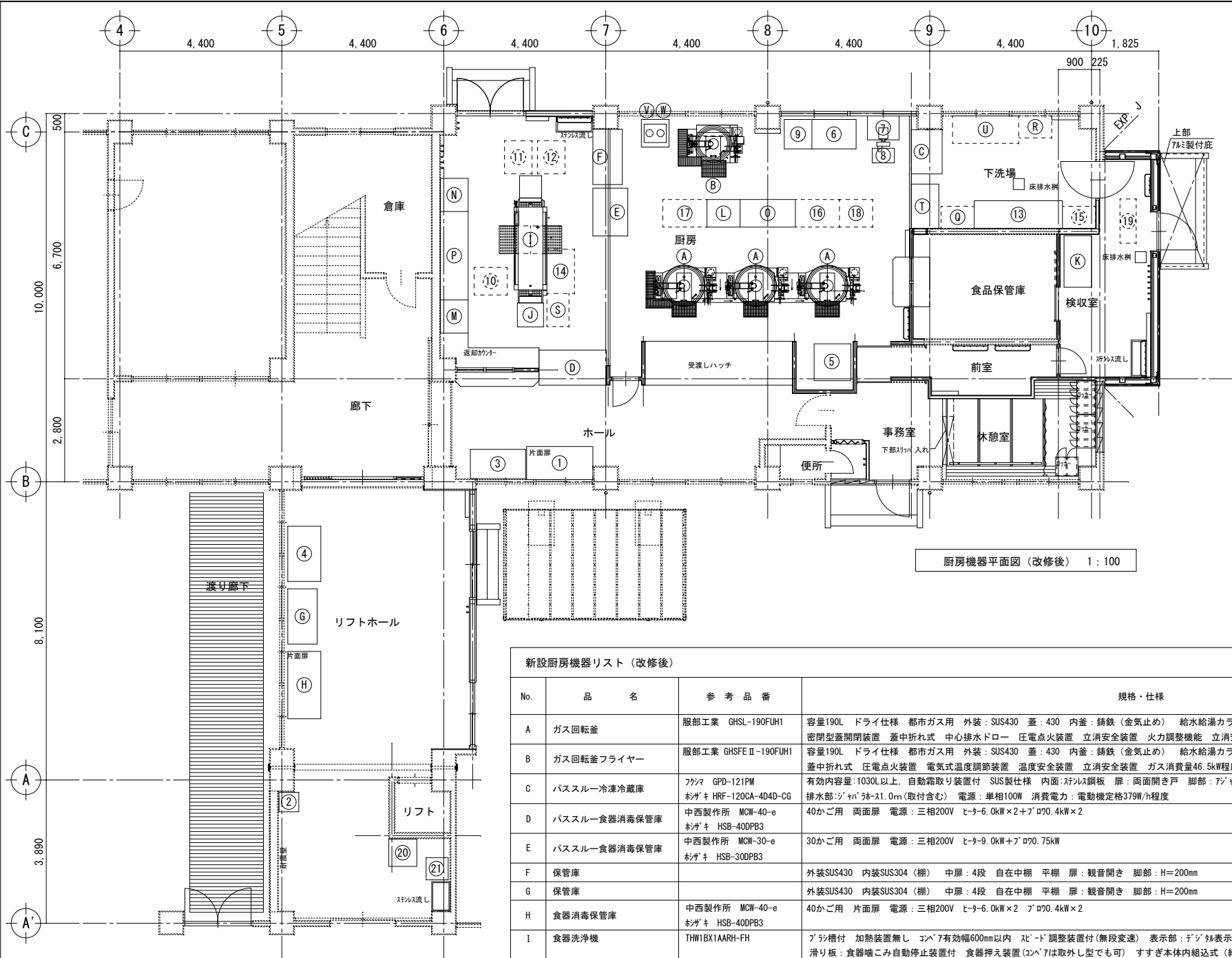


- 550×300 その他開口補強 1ヶ所を示す
- 450×300 その他開口補強 3ヶ所を示す
- 400×300 その他開口補強 1ヶ所を示す
- 200角 その他開口補強 2ヶ所を示す
- 315角 その他開口補強 1ヶ所を示す
- 180角 その他開口補強 1ヶ所を示す
- 950×300 その他開口補強 6ヶ所を示す
- 天井点検口 (アルミ製450角) 15ヶ所
(＊取付位置は現場協議に依る)

天井伏図(改修後) S=1/100

記号	仕 上
①	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5貼り
②	ＬＧＳ下地 無石綿珪酸カルシウム板 t=6.0貼りの上 結露防止塗材塗り
③	ＬＧＳ下地 無石綿珪酸カルシウム板 t=6.0貼りの上 EP-G2回塗り
④	ＬＧＳ下地 無石綿珪酸カルシウム板 t=6.0貼りの上 ステンレス板張り
⑤	既存のまま 水洗い洗浄
⑥	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5貼り 天井裏：グラスウール24K t=100
⑦	ＬＧＳ下地 無石綿珪酸カルシウム板 t=6.0貼りの上 結露防止塗材塗り 天井裏：グラスウール24K t=100
ⓧ	天井点検口 (450x450) アルミ既製品ウラ当板ラウンベニヤT2 t=5.5貼り
ⓧ	＊ 天井裏断熱材グラスウール24K t=100の設置場所を示す

A2 : 100%
A3 : 71%

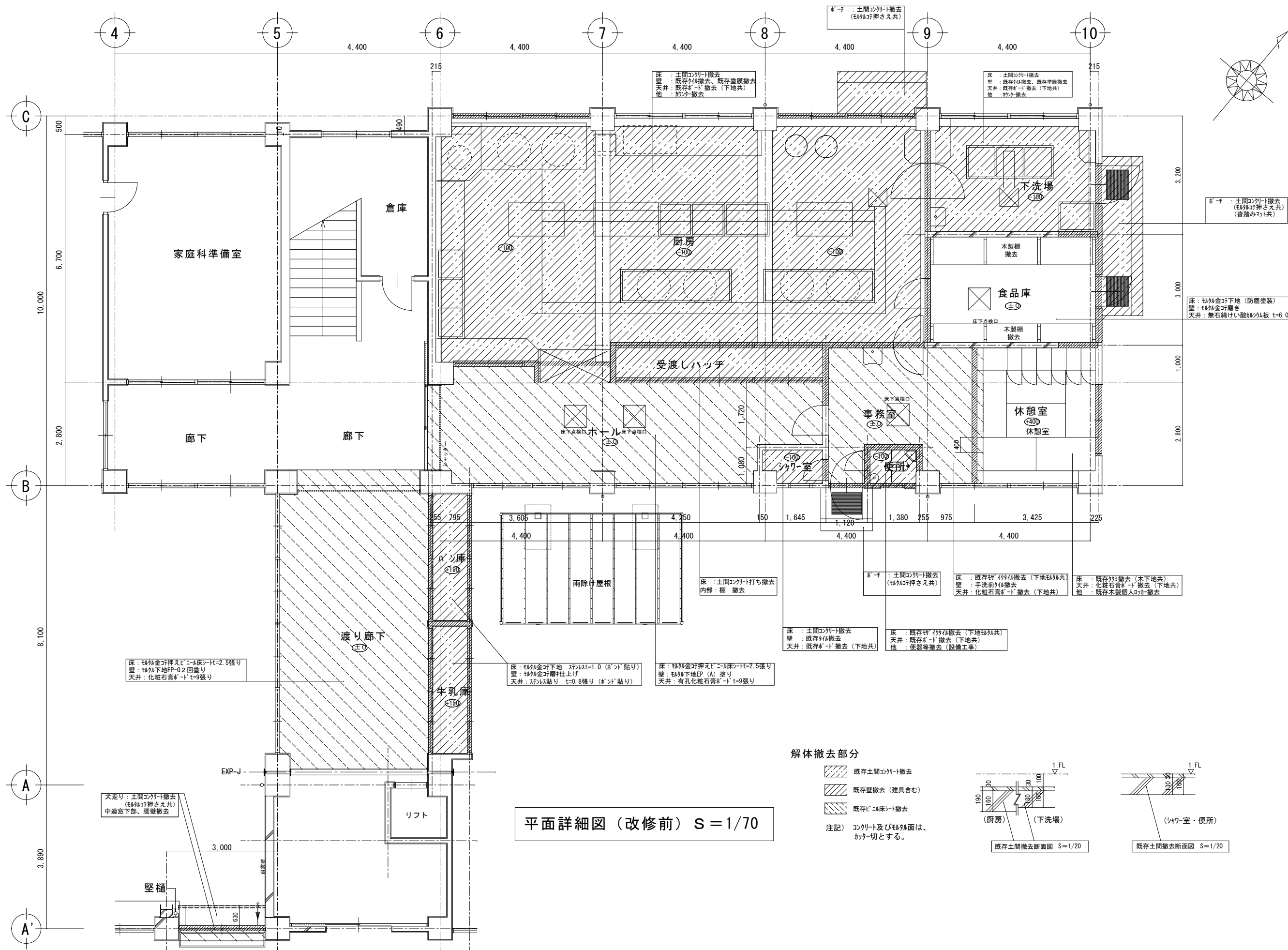


厨房機器平面図（改修後） 1：100

既存備品リスト（改修後）			
No.	品 名	寸 法	撤去・再利用
1	食器消毒保管庫（40か）用	1800*900*1800H	再利用
2	食器消毒保管庫（20か）用	540*530*1830H	再利用
3	保管庫	1500*800*1800H	再利用
4	牛乳用保冷库	1500*900*1970H	再利用
5	真空冷却器	1430*1150*1660H	再利用
6	冷凍冷蔵庫	1200*800*1910H	再利用
7	野菜裁断機	860*655*990H	再利用
8	裁断機作業台	400*600*990H	再利用
9	冷蔵庫	800*750*1900H	再利用
10	1層式水槽（移動式）ドライ仕様	900*750*800H	再利用
11	1層式水槽（移動式）ドライ仕様	900*750*800H	再利用
12	1層式水槽（移動式）ドライ仕様	900*750*800H	再利用
13	3層水槽	2400*750*800H	再利用
14	調理台（移動式）ドライ仕様	1200*750*800H	再利用
15	移動式作業台 ドライ仕様	900*600*800H	再利用
16	移動式作業台 ドライ仕様	1200*750*800H	再利用
17	移動式作業台 ドライ仕様	1200*750*800H	再利用
18	移動ラック 4段	900*750*1500H	再利用
19	移動ラック	1200*440*1500H	再利用
20	家庭用冷蔵庫	760*740*1820H	再利用
21	洗濯機	8kg	再利用

新設厨房機器リスト（改修後）											
No.	品 名	参 考 品 番	規 格 ・ 仕 様	台 数	寸 法 (mm)			電 気 (60Hz, kW)			備 考
					W	D	H	単相100V	単相200V	三相200V	
A	ガス回転釜	服部工業 GHSL-190FUH1	容量190L ドライ仕様 都市ガス用 外装：SUS430 蓋：430 内釜：铸铁（金気止め） 給水給湯カラン付 密閉型蓋開閉装置 蓋中折れ式 中心排水ドロアー 圧電点火装置 立消安全装置 火力調整機能 立消安全装置 ガス消費量46.5kW程度	3							移設（手城小より取外し運搬、再取付）
B	ガス回転釜フライヤー	服部工業 GHSFEⅡ-190FUH1	容量190L ドライ仕様 都市ガス用 外装：SUS430 蓋：430 内釜：铸铁（金気止め） 給水給湯カラン付 密閉型蓋開閉装置 蓋中折れ式 圧電点火装置 電気式温度調節装置 温度安全装置 立消安全装置 ガス消費量46.5kW程度 電源：単相100V20W	1							移設（手城小より取外し運搬、再取付）
C	バススルー冷凍冷蔵庫	フクヤマ GPD-121PM おザキ HRF-120CA-4D4D-CG	有効内容量：1030L以上、自動霜取り装置付 SUS製仕様 内面：ステンレス鋼板 扉：両面開き戸 脚部：アジャスター高さ80mm～150mm 排水部：シンク排水×1.0m（取付含む） 電源：単相100W 消費電力：電動機定格379W/h程度	1	1200	840	1950	0.379			
D	バススルー食器消毒保管庫	中西製作所 MCW-40-e おザキ HSB-400PB3	40かご用 両面扉 電源：三相200V ヒータ6.0kW×2+ブロー0.4kW×2	1	1830	930	1800			12.8	
E	バススルー食器消毒保管庫	中西製作所 MCW-30-e おザキ HSB-300PB3	30かご用 両面扉 電源：三相200V ヒータ9.0kW+ブロー0.75kW	1	1300	950	1900			9.75	
F	保管庫		外装SUS430 内装SUS304（棚） 中扉：4段 自在中棚 平棚 扉：観音開き 脚部：H=200mm	1	1500	800	1800				
G	保管庫		外装SUS430 内装SUS304（棚） 中扉：4段 自在中棚 平棚 扉：観音開き 脚部：H=200mm	1	1500	800	1800				
H	食器消毒保管庫	中西製作所 MCW-40-e おザキ HSB-400PB3	40かご用 片面扉 電源：三相200V ヒータ6.0kW×2 ブロー0.4kW×2	1	1830	930	1800			12.8	
I	食器洗浄機	THWIBX1AARH-FH	ブラ槽付 加熱装置無し コンベア有効幅600mm以内 スピンド調整装置付（無段変速） 表示部：デジタル表示 滑り板：食器噛こみ自動停止装置付 食器押え装置（コンベアは取外し型でも可） すずぎ本体内部組込式（給湯・給水最終仕上げ） 電源：三相200V-1.8kW 洗浄：強化磁気食器 食器籠230H程度 食缶300Hが洗浄可能な物 処理能力：3000～6000枚/h（直径150mmの食器） 備考：残菜がシンクやバスに詰まらない方式で本体が簡単に清掃できる物 ブラシ2個（碗用1、皿用1）付	1	2050	850	1450以上				
J	食器洗浄機受け台	福山市仕様	ドライ仕様 材質：SUS304 水槽深さは80mmとし、水槽内部（食器洗浄機側除く）3面に緩衝材を張り付ける。 水槽は洗浄機出口側に簡易固定可能とし、固定部は本体出口板の下部になること。 水槽内にスノコ状のレール（ステンレス棒直径10～13mm間隔40mm）を洗浄機側で水槽上部より10mm下りて下る勾配を設ける。 レールの固定は洗浄機側に設けたアングルに引っ掛け脱着可能にする。（容易に外れない事） レールには取外し可能な（下部側が切れた物）合成樹脂カバーを設ける。 カバー取付後のレール直径は15mm以内 脚部：アングル、アジャスター付で80mmの調整可能 排水部：シンク排水×2000mm付	1	710	670	740～820				
K	球根皮むぎ器	アイベ P-48D	ドライ仕様 能力：260kg/h 水槽・キャスター付 電源：三相200V-0.4kW（12A） 排水50A	1	750	1400	827			0.4	
L	1層式水槽		移動式 ドライ仕様 水槽深さ300mm 残菜籠（SUS）付大型排水栓（オーバーフロー排水付） シンク排水×38φ1500mm付 材質：SUS304 槽部：1.2t以上 化粧板：0.8t 脚部：パイプ径38φ以上 厚さ1.2t キャスター径100mm（ワレタ仕様） 対角スリット付	1	900	750	800				
M	1層式水槽		移動式 ドライ仕様 水槽深さ300mm 残菜籠（SUS）付大型排水栓（オーバーフロー排水付） シンク排水×38φ1500mm付 材質：SUS304 槽部：1.2t以上 化粧板：0.8t 脚部：パイプ径38φ以上 厚さ1.2t キャスター径100mm（ワレタ仕様） 対角スリット付	1	900	750	800				
N	1層式水槽		移動式 ドライ仕様 水槽深さ300mm 残菜籠（SUS）付大型排水栓（オーバーフロー排水付） シンク排水×38φ1500mm付 材質：SUS304 槽部：1.2t以上 化粧板：0.8t 脚部：パイプ径38φ以上 厚さ1.2t キャスター径100mm（ワレタ仕様） 対角スリット付	1	900	750	800				
O	2層式水槽		ドライ仕様 ガッガート200H 水槽深さ300mm 残菜籠（SUS）付大型排水栓（オーバーフロー排水付） シンク排水×38φ1000mm付 材質：SUS304 槽部：1.2t以上 化粧板：0.8t 脚部：パイプ径38φ以上 厚さ1.2t	1	1500	750	800				
P	3層式水槽		ドライ仕様 ガッガート200H 水槽深さ300mm 残菜籠（SUS）付大型排水栓（オーバーフロー排水付） シンク排水×38φ1000mm付 材質：SUS304 槽部：1.2t以上 化粧板：0.8t 脚部：パイプ径38φ以上 厚さ1.2t	1	2400	750	800				
Q	移動式作業台		ドライ仕様 材質：トップSUS430 1.2t以上 キャスター100φワレタ 対角スリット付 脚部：パイプ径38φ以上 SUS304 暑さ1.2t以上 アジャスター：SUS304	1	900	760	800				
R	移動式作業台		ドライ仕様 材質：トップSUS430 1.2t以上 キャスター100φワレタ 対角スリット付 脚部：パイプ径38φ以上 SUS304 暑さ1.2t以上 アジャスター：SUS304	1	900	760	800				
S	移動式作業台		ドライ仕様 材質：トップSUS430 1.2t以上 キャスター100φワレタ 対角スリット付 脚部：パイプ径38φ以上 SUS304 暑さ1.2t以上 アジャスター：SUS304	1	900	760	800				
T	移動ラック		ラック3段（1段目の高さ450mm） 3段ともスノコ形状 脚部：パイプ（SUS304） キャスター径100mm（ワレタ仕様） 対角スリット付	1	1200	750	1390				
U	パンラック		ラック4段 4段ともスノコ形状 脚部：パイプ（SUS304） 38φ	1	1800	750	1800				
V	IHコンロ	TIC-2.5CP	ヒータ：1口 電源：単相200V 消費電力：2.5kW コンセント式 揚げ物温度調整付 自動湯沸し付	2	600	500	120				
W	コンロ台		甲板：SUS430 NO.4仕上1.2t 足部：SUS304 38φ	1	750	750	800				

A2：100%
A3：71%

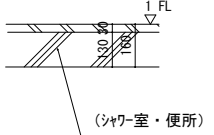
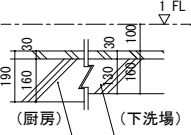


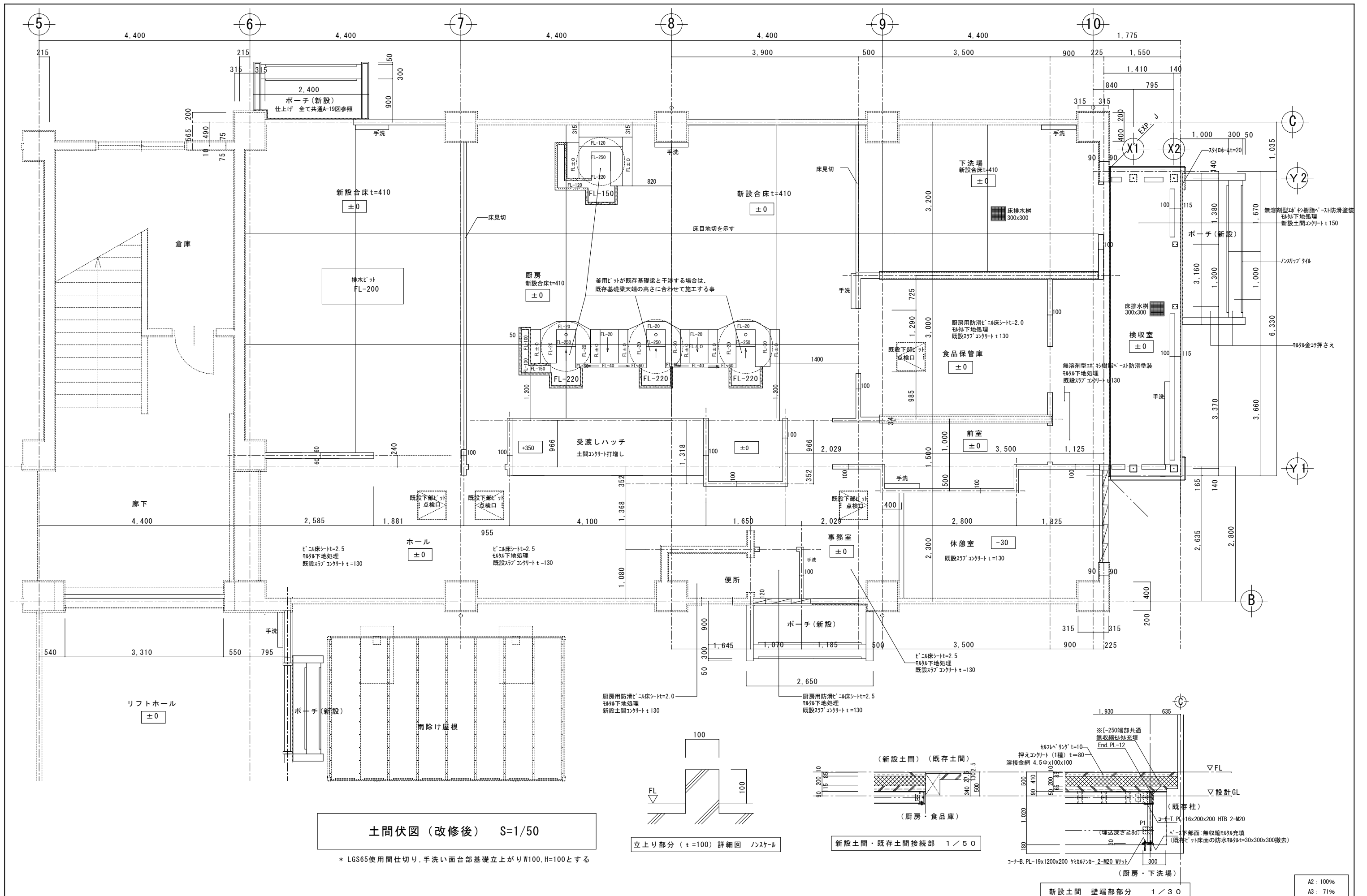
平面詳細図（改修前）S = 1/70

解体撤去部分

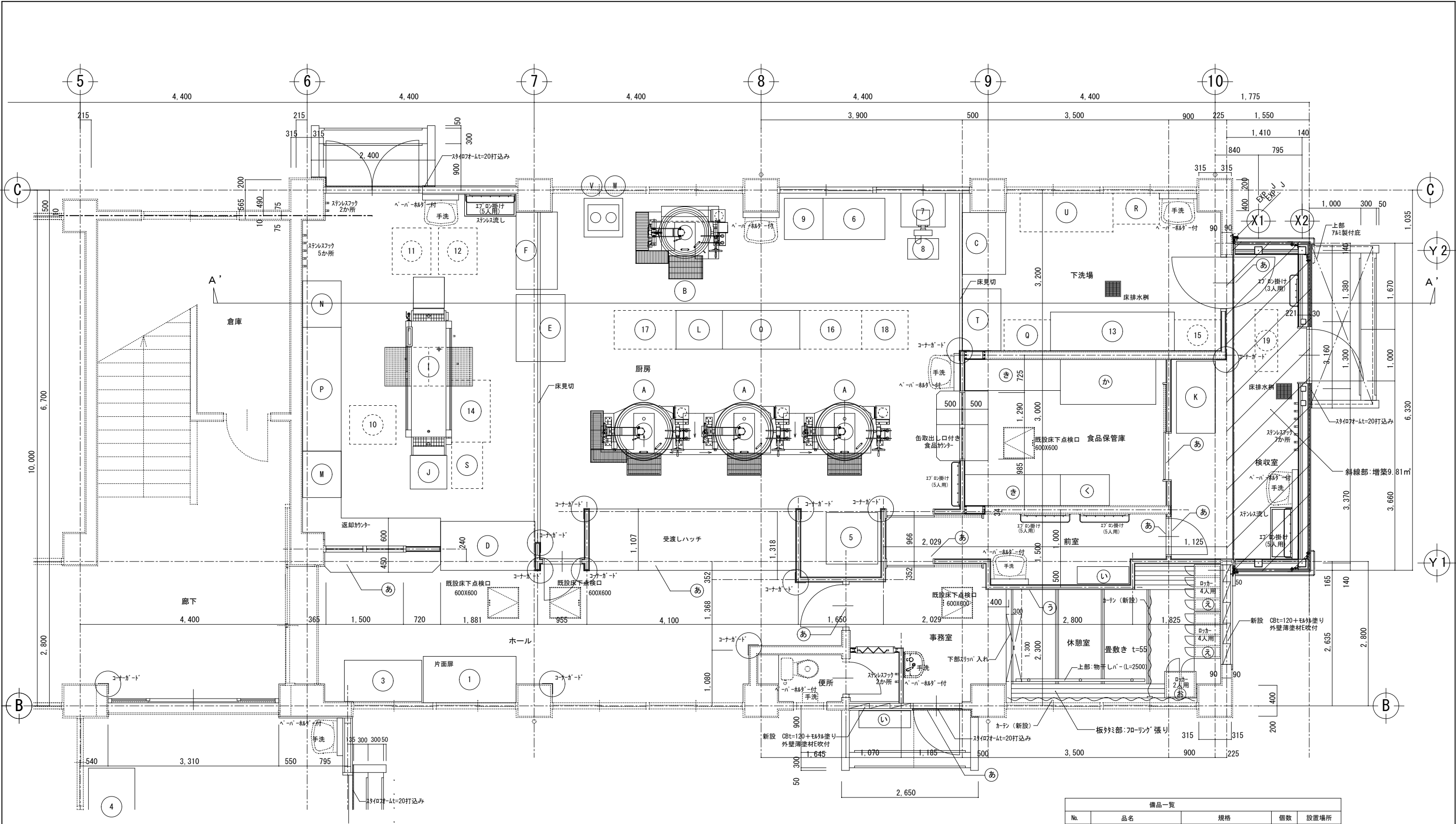
- 既存土間コンクリート撤去
- 既存壁撤去（建具含む）
- 既存ビニール床シート撤去

注記）コンクリート及び既存壁面は、
カッター切とする。





			藤岡建築設計室			福山市建設局建築部営繕課		工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事		図面No
			広島県知事登録第22〔1〕0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良造 福山市御幸町中津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437			設計	2025年 3月	図面名称 土間伏図（改修後）	縮尺 1：50	A-15

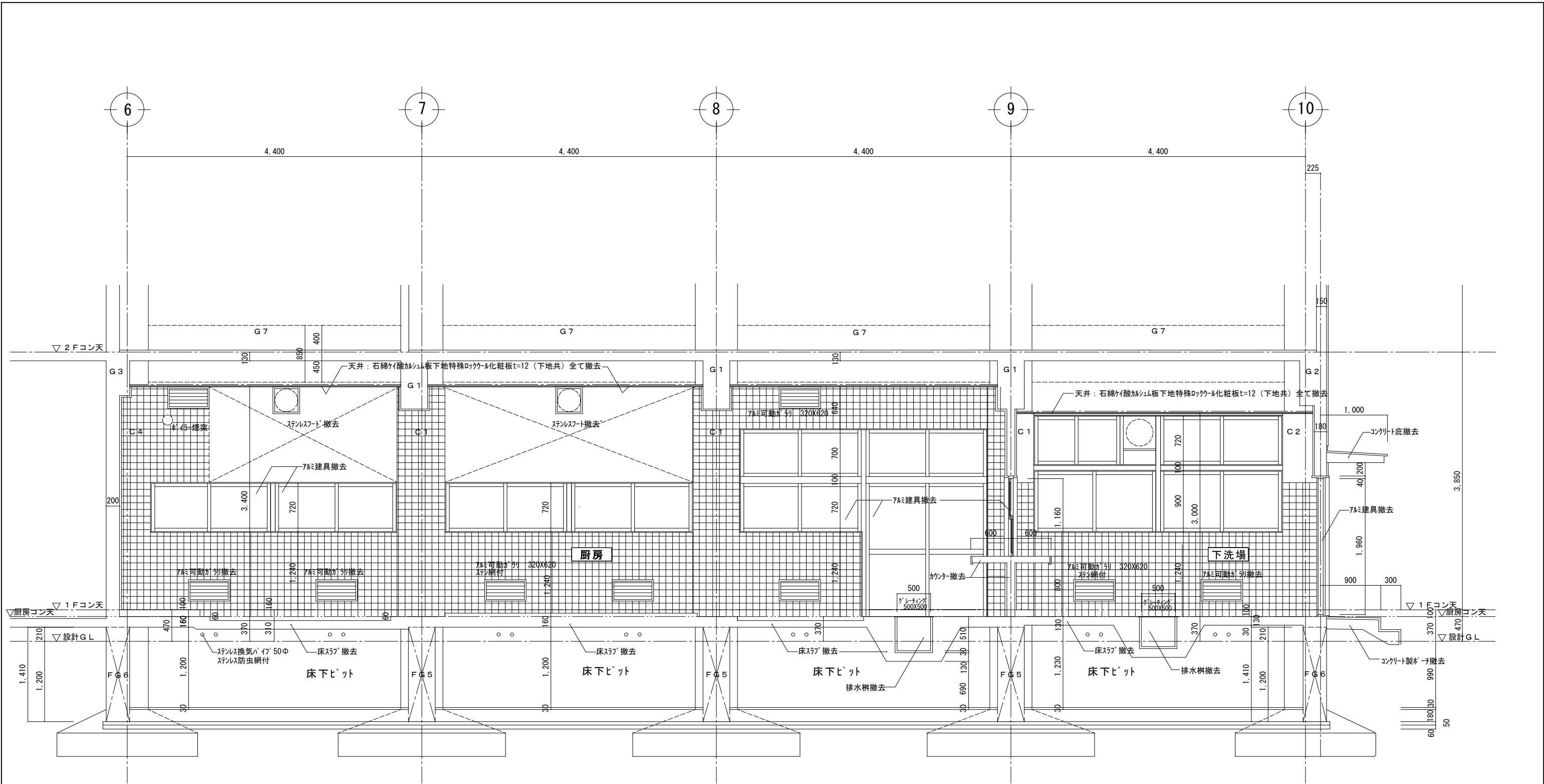


平面詳細図（改修後） S=1/50

コーナガード、SUST=1.0
50X50X1000

備品一覧				
No.	品名	規格	個数	設置場所
あ	室名札	アクリル製 300×60×11程度	9	各室
い	シューズBOX	コクヨSX-D44F1同等品 1002×348×890	2	前室 事務室
う	ホワイトボード	コクヨWB-HB23NN同等品 900×600	1	事務室
え	スチール製ロッカー	4人用(コクヨLK-4F1同等品)	2	休憩室
お	スチール製ロッカー	2人用(コクヨLK-2F1同等品)	1	休憩室
か	中量ラック	コクヨMM-AW0863SF1N同等品 1850×870×2400	1	食品保管庫
き	中量ラック	コクヨMM-AW0862SF1N同等品 1850×600×2400	2	食品保管庫
く	中量ラック	コクヨMM-A08325F1N同等品 950×600×2400	1	食品保管庫

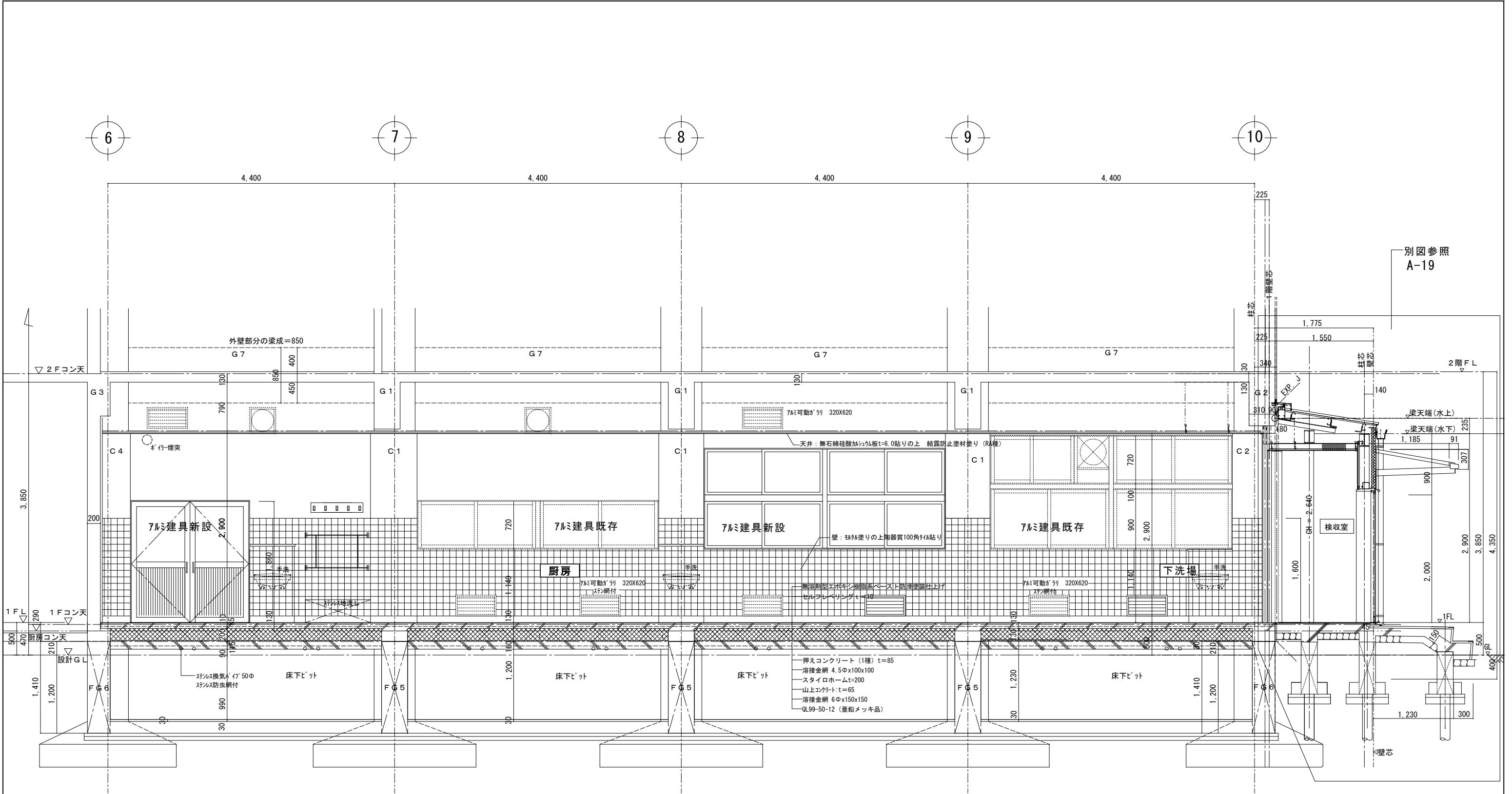
A2 : 100%
A3 : 71%



A - A 断面詳細図 (改修前) S=1/40

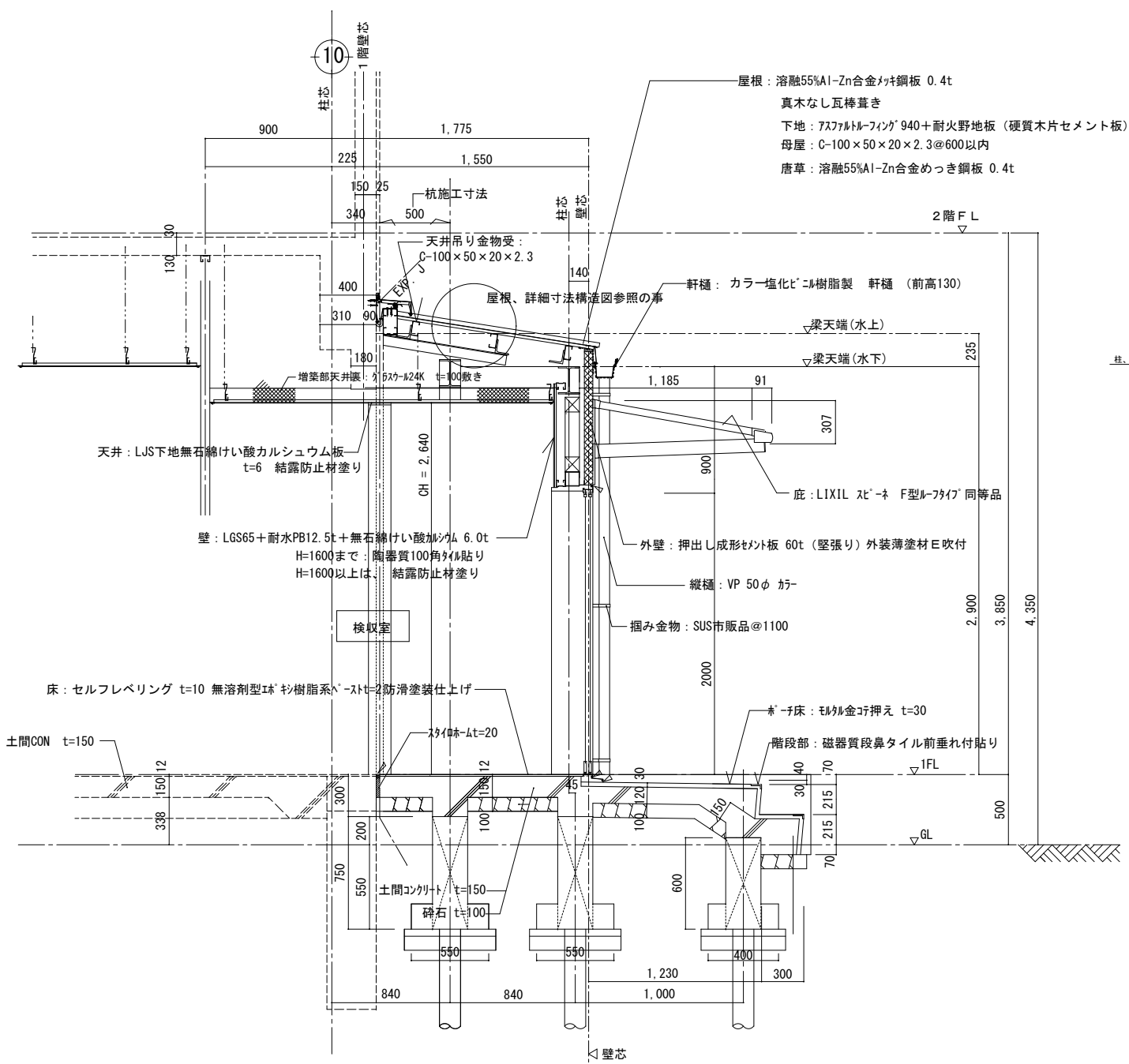
* 内装壁100角タイル (下地等共) 全て撤去

A2 : 100%
A3 : 71%



A' - A' 断面詳細図 (改修後) S=1/40

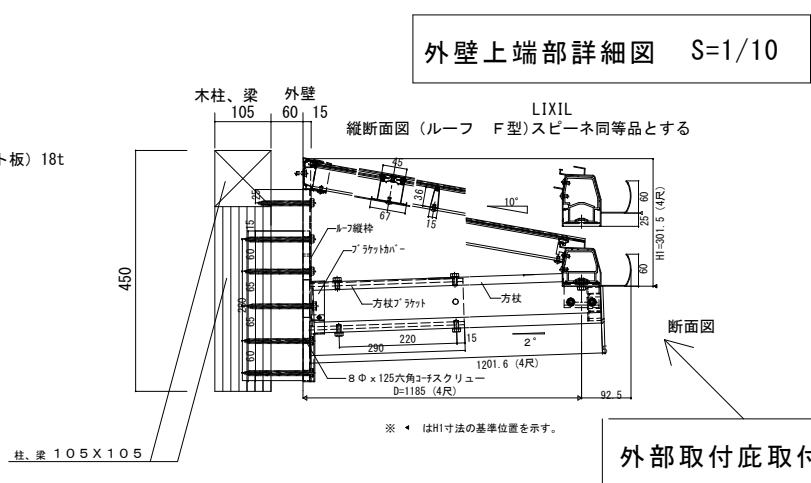
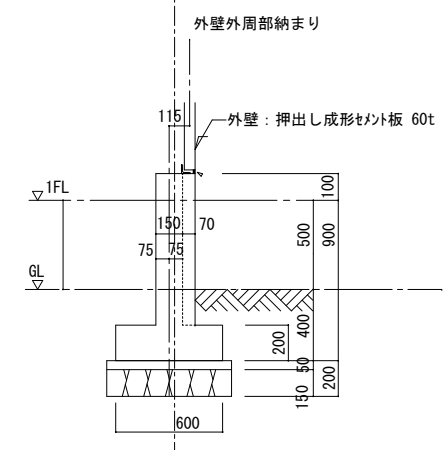
A2 : 100%
A3 : 71%



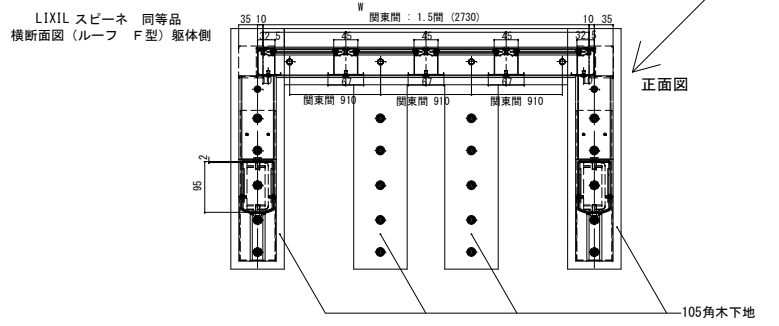
検収室入口部断面詳細図 S=1/30

▽ 印部：弾性コーキング 15角 を示す

外壁下端部詳細図 S=1/30



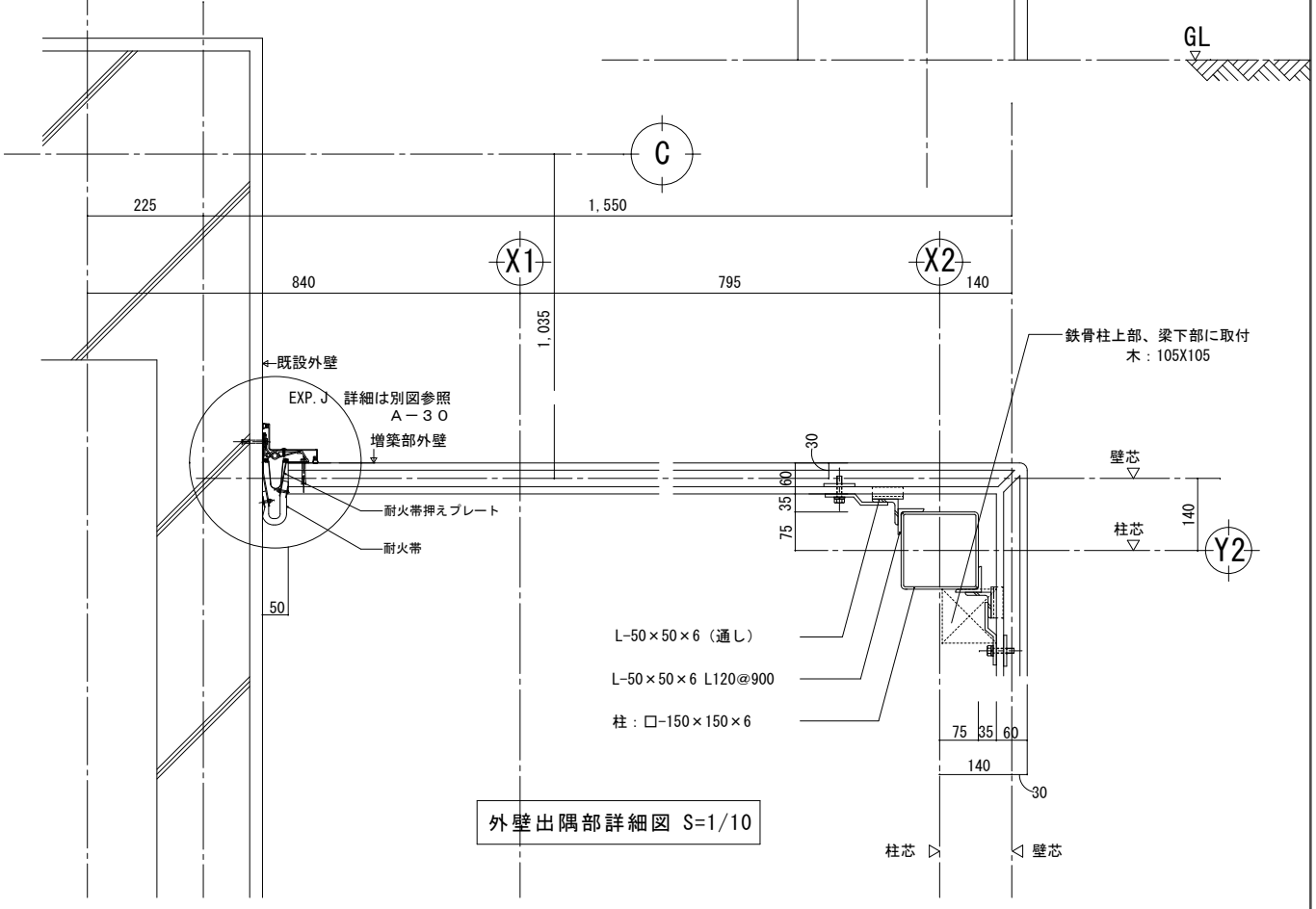
外壁上端部詳細図 S=1/10



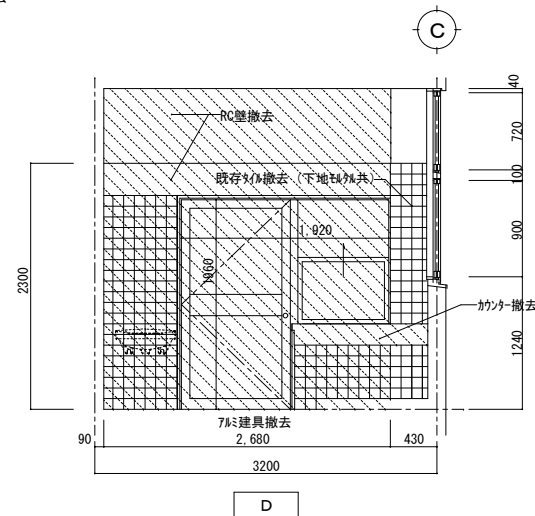
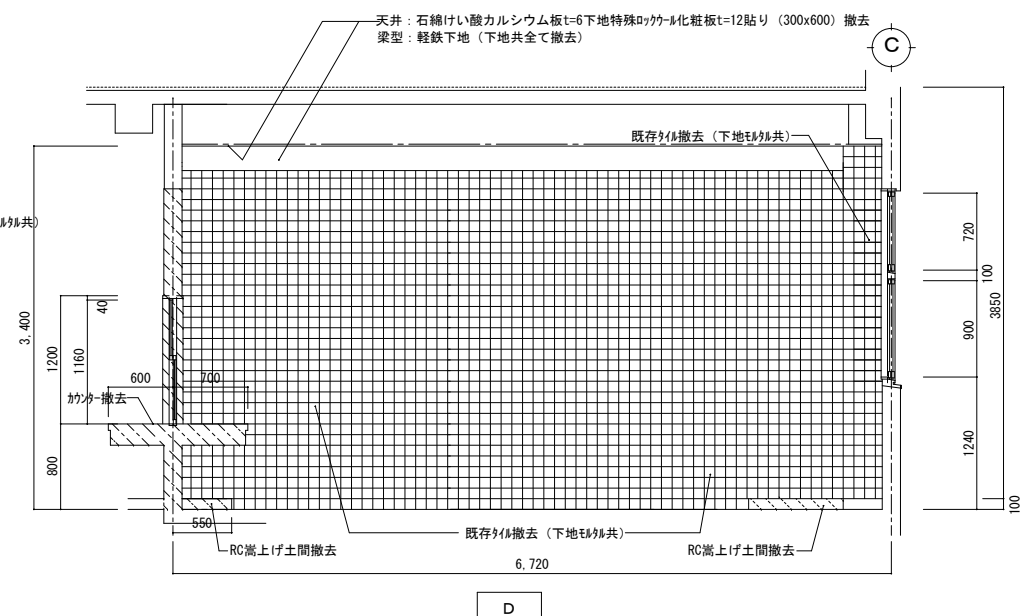
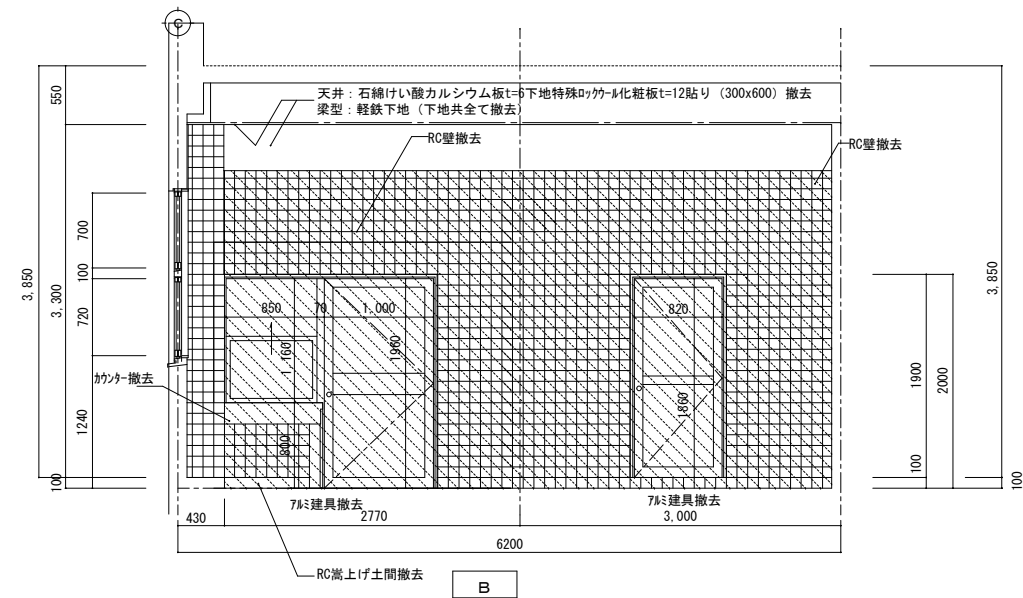
外部取付底取付詳細図 S=1/10

外壁下端部詳細図 S=1/10

註：外幅木高さは、押出し成型セメント板60t 割付に依り決定する。

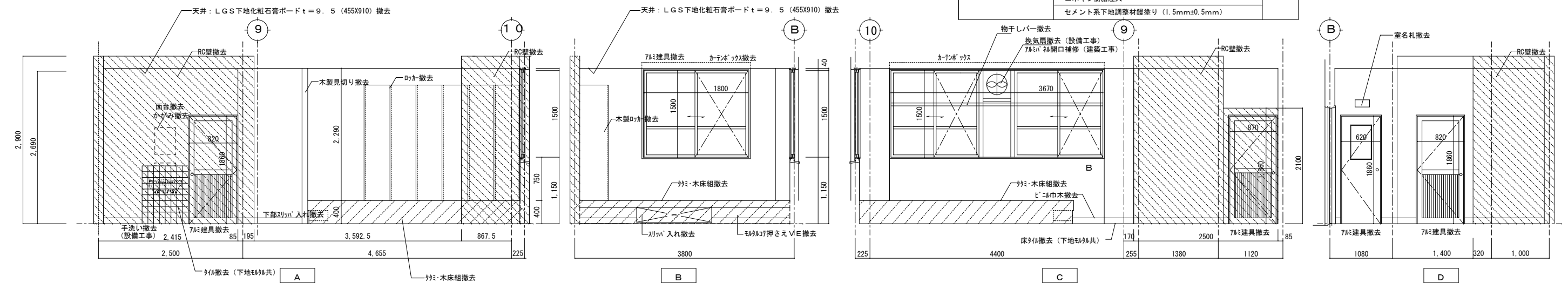


外壁出隅部詳細図 S=1/10

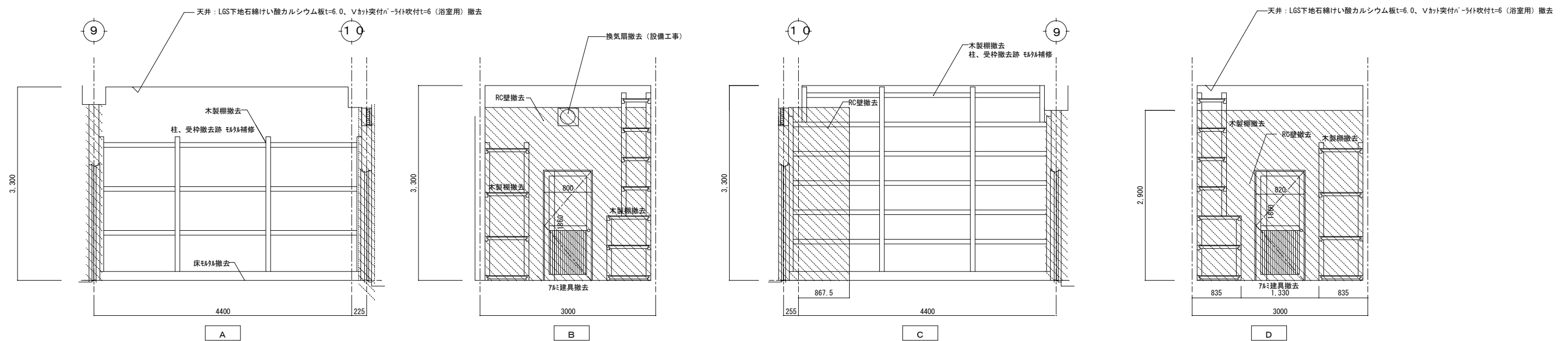


A2 : 100%
A3 : 71%

事務・休憩室

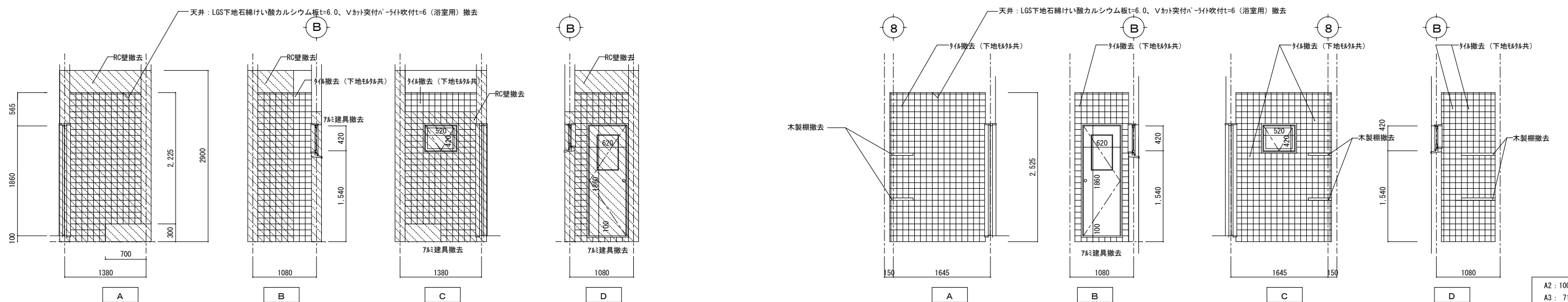


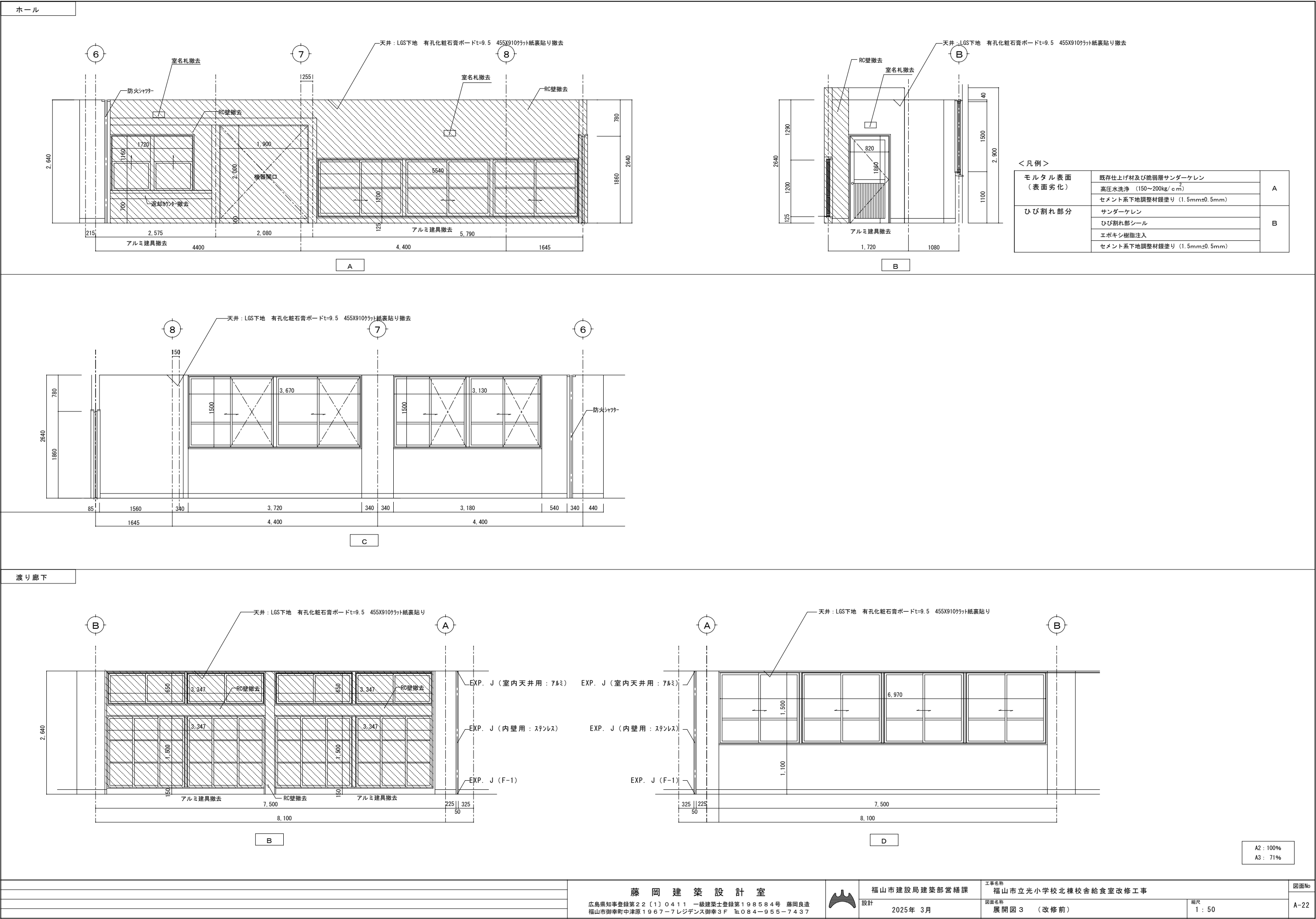
食品庫

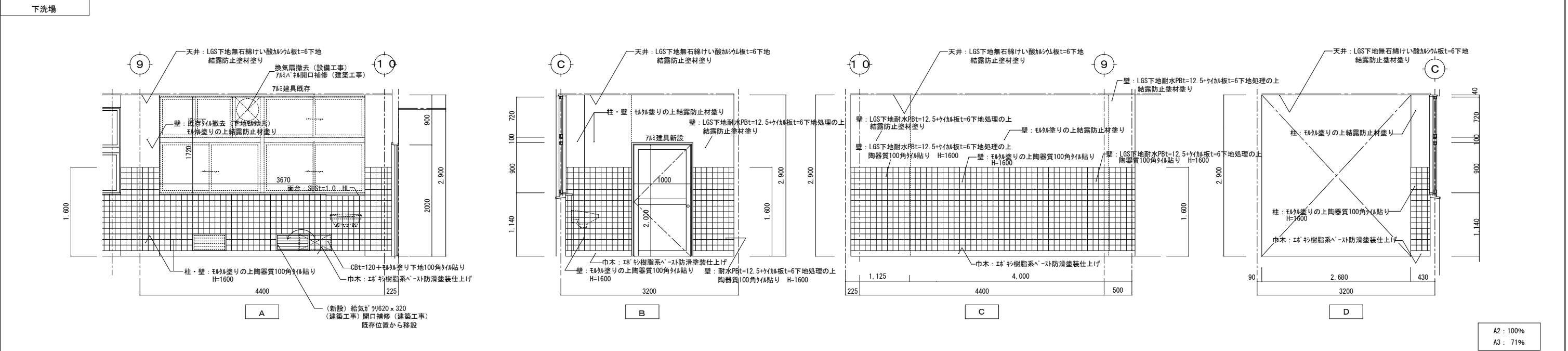
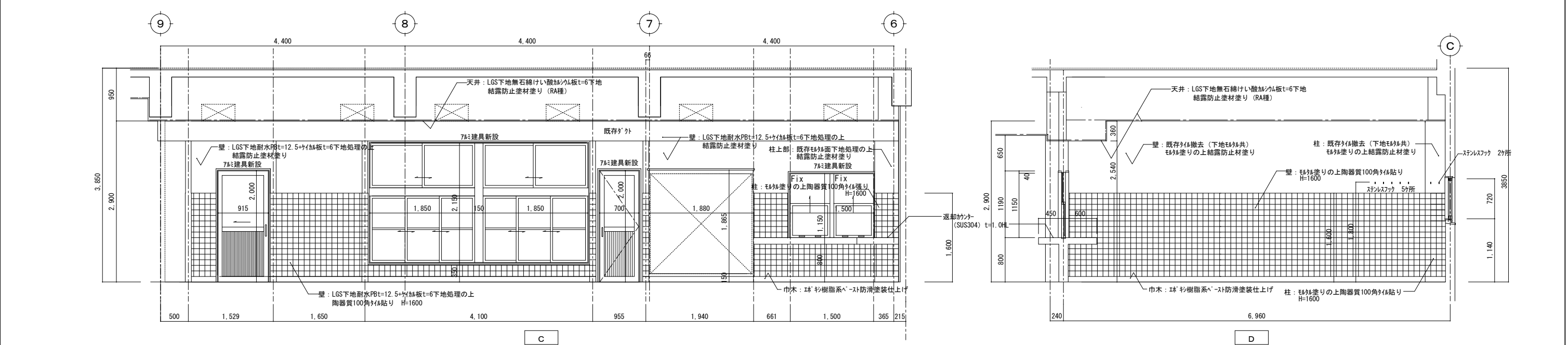
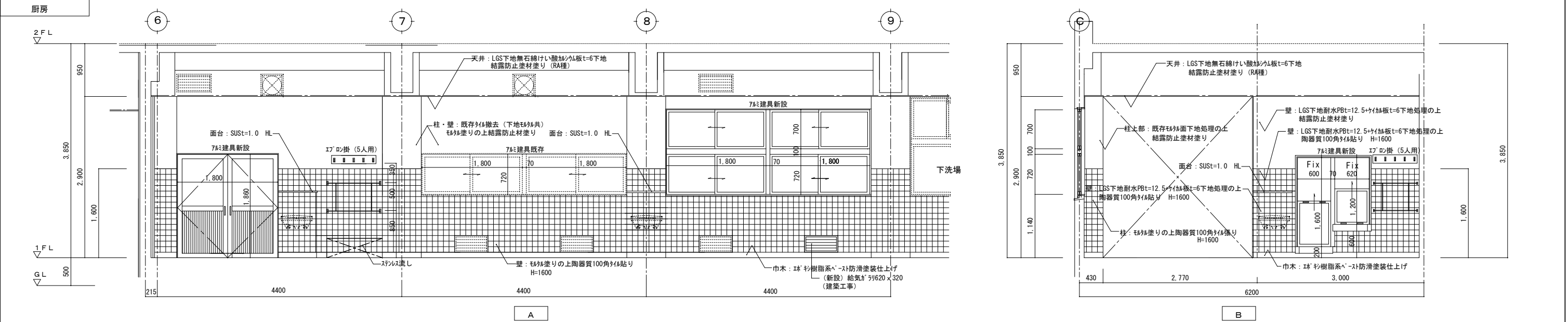


便所

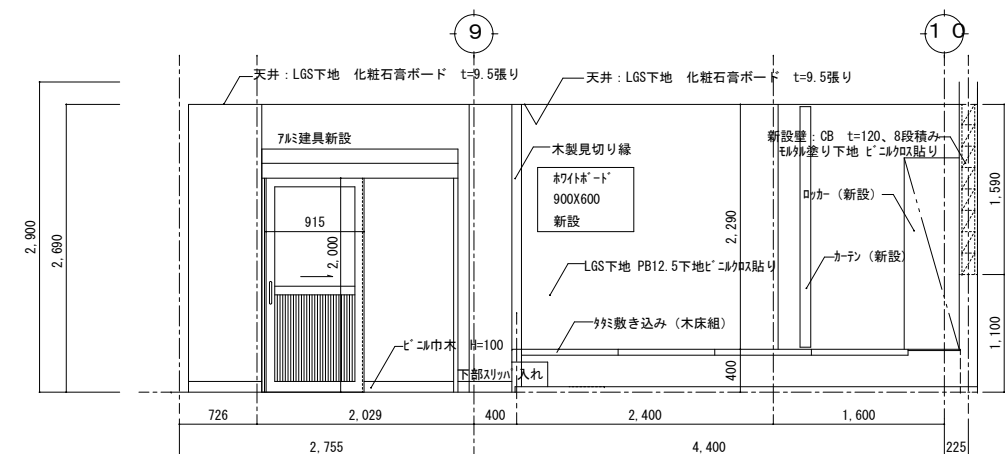
シャワー室



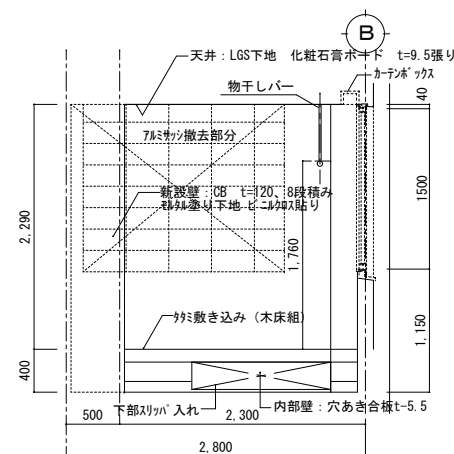




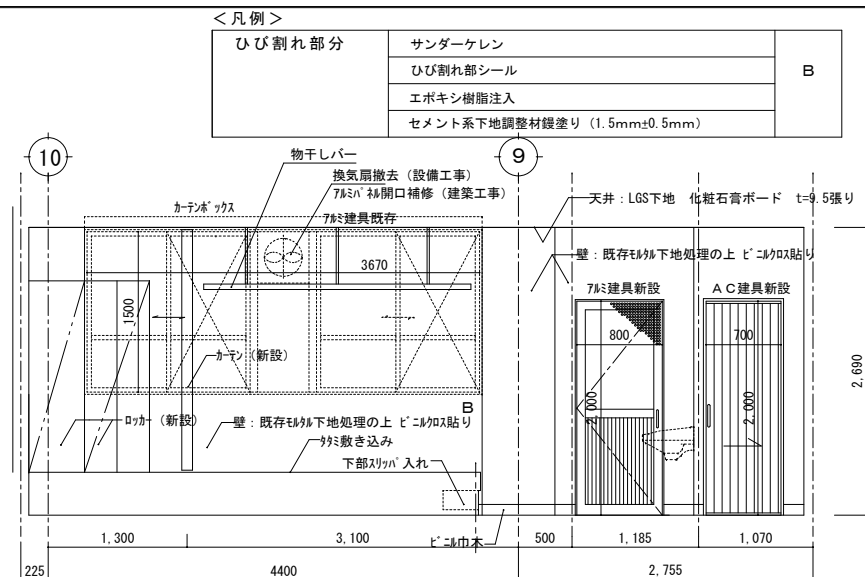
事務・休憩室



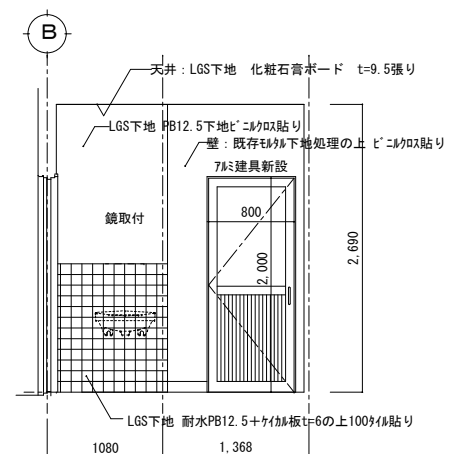
A



B

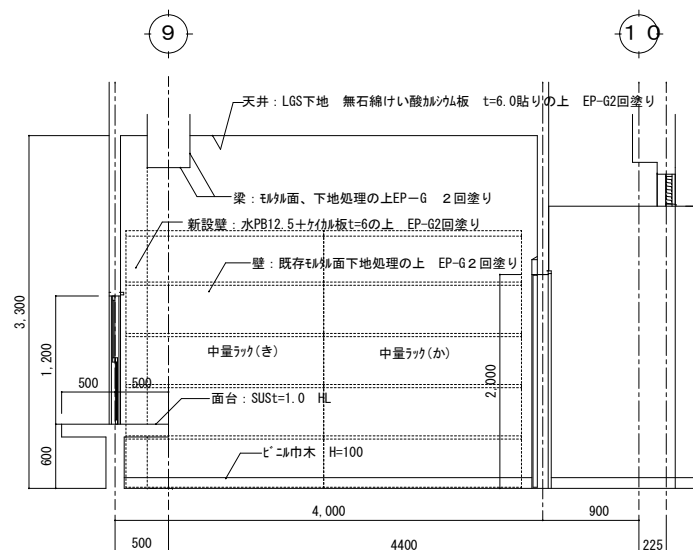


C



D

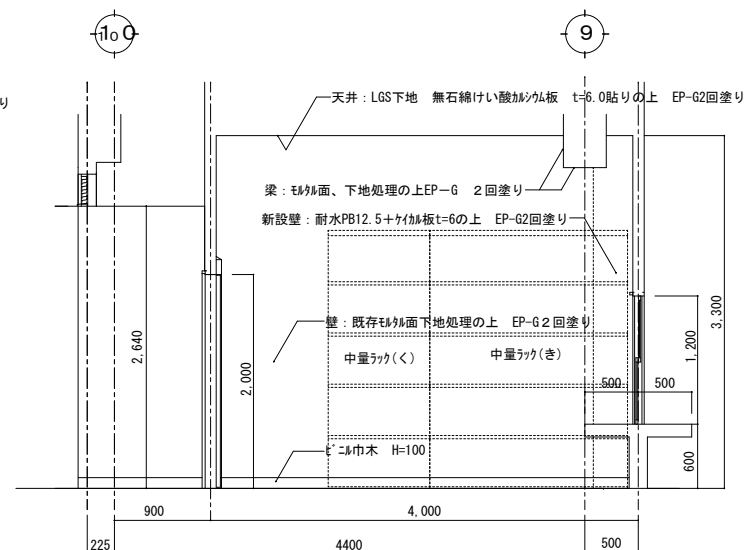
食品保管庫



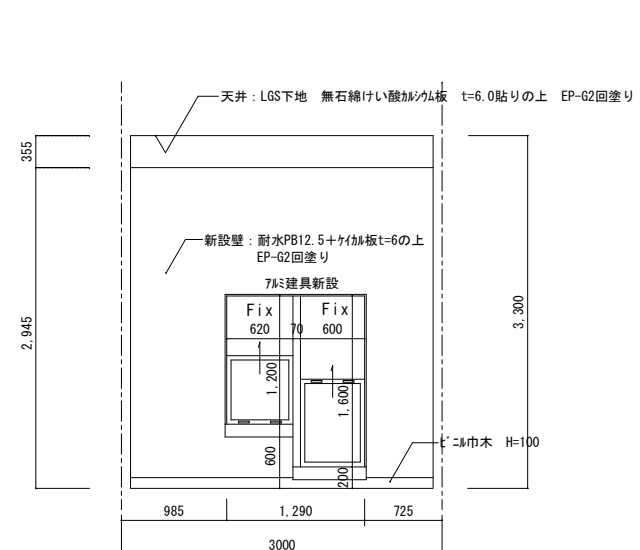
A



B



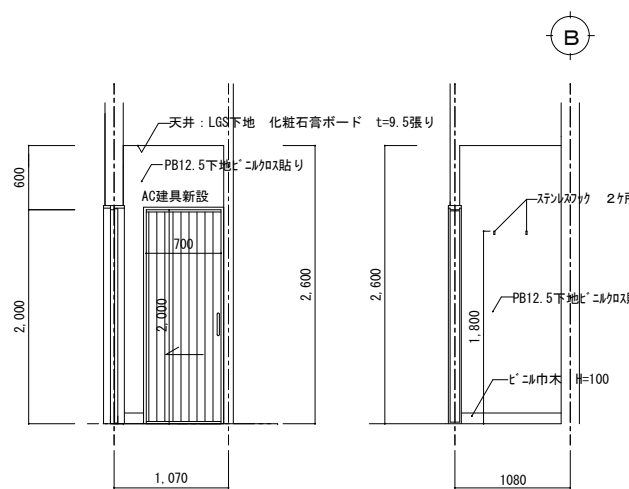
C



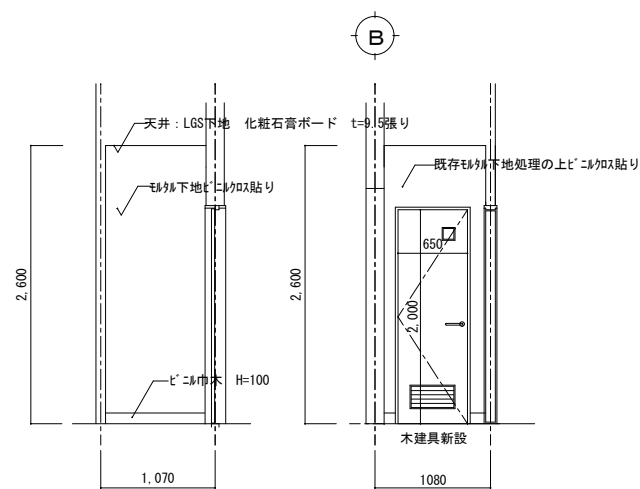
D

便所前室

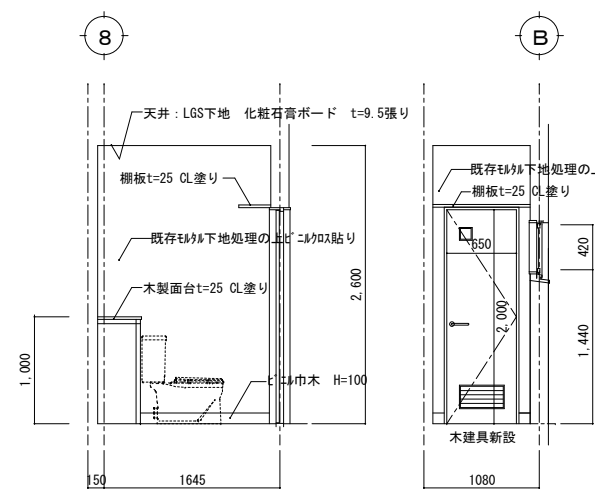
便所



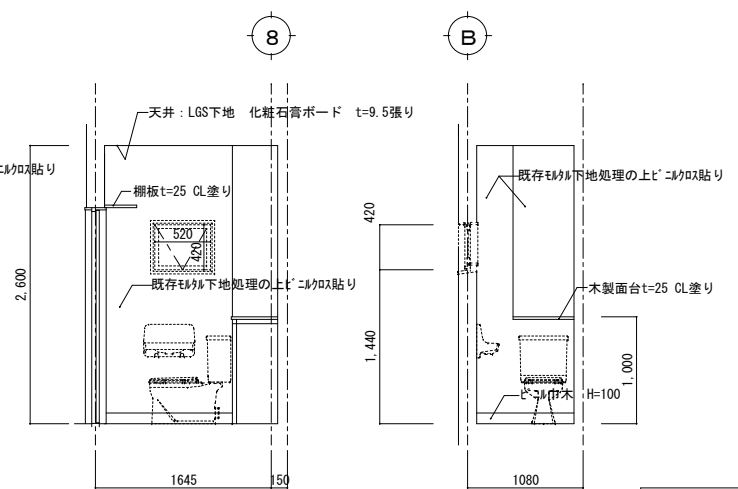
A



D



A

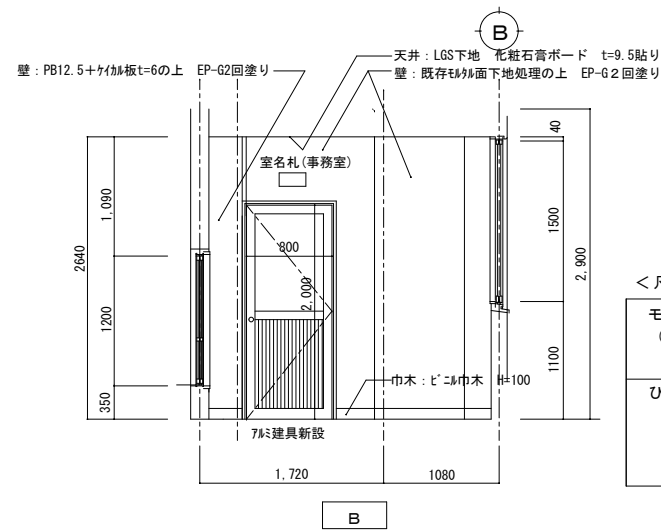
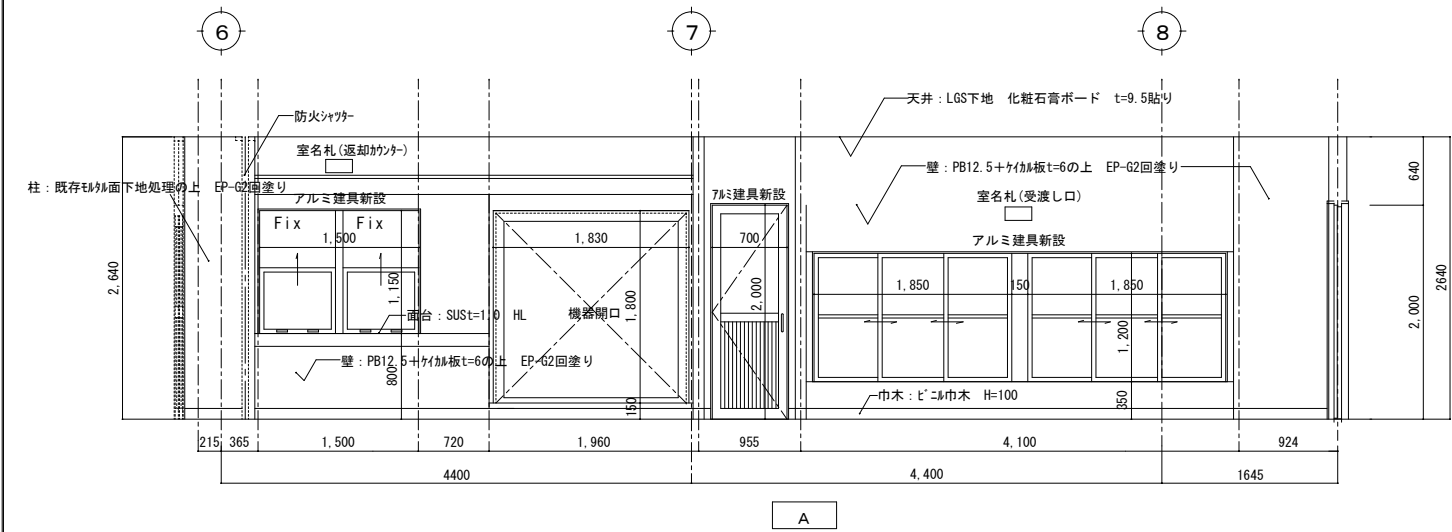


D

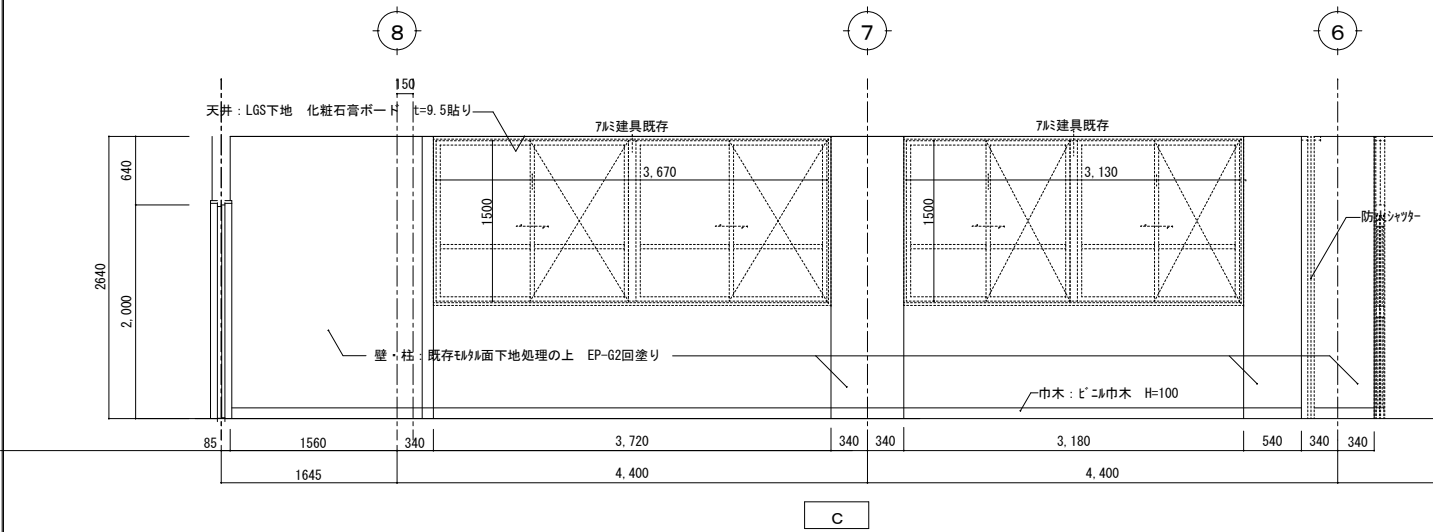
A2 : 100%

A3 : 71%

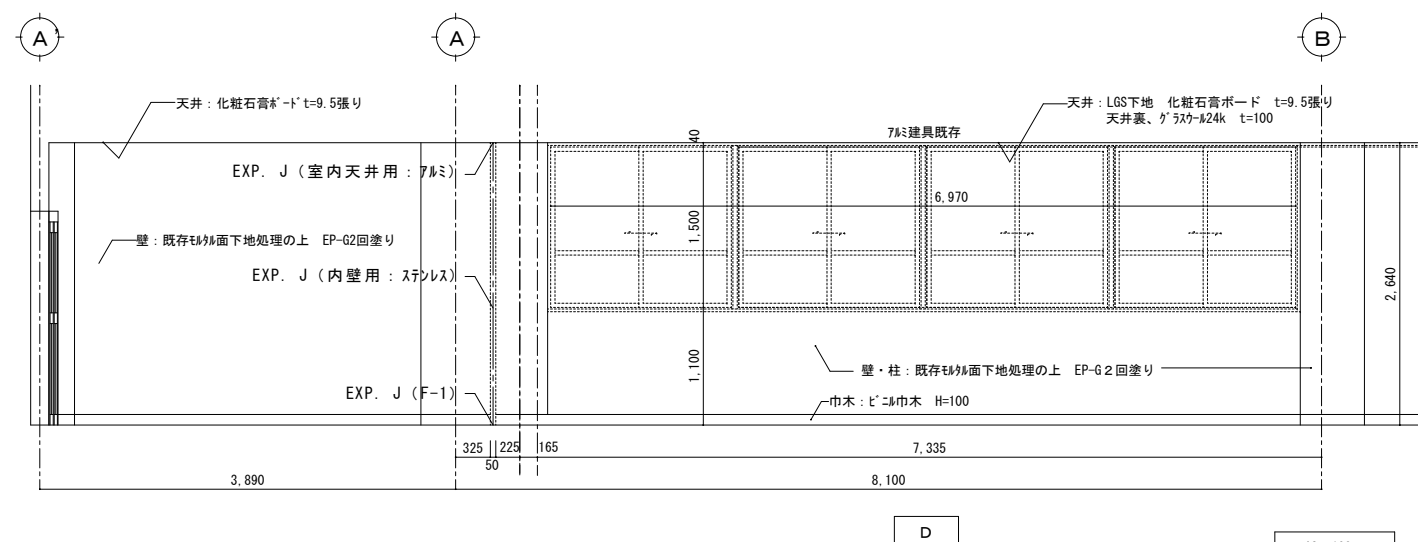
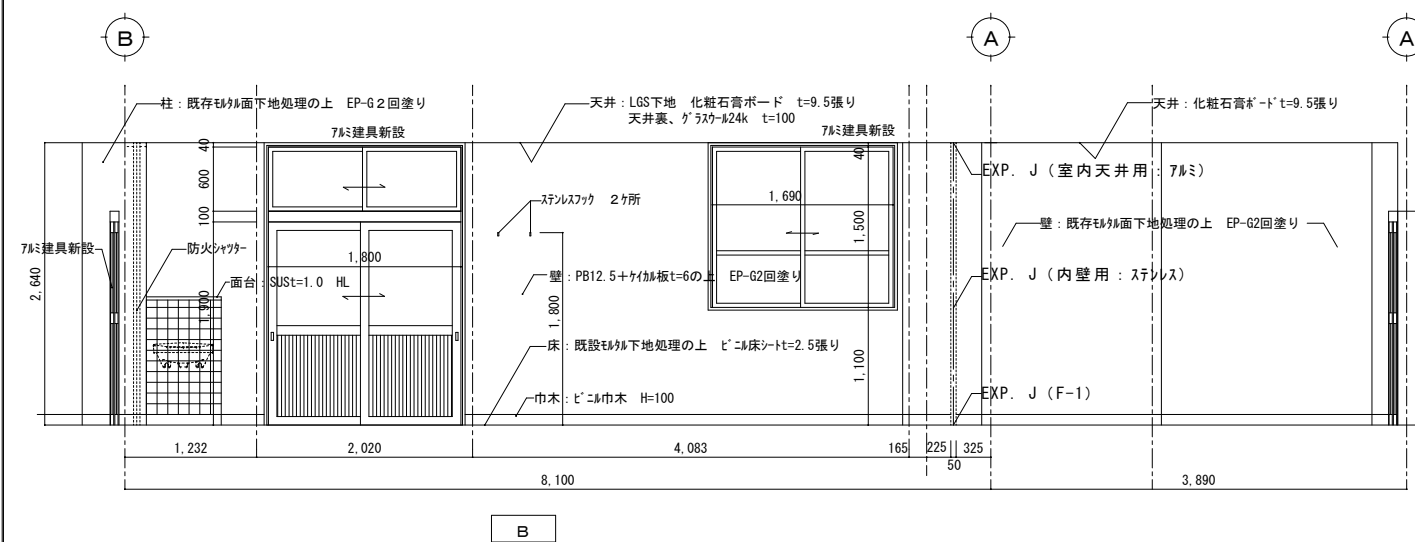
ホール



< 凡例 >		
モルタル表面 (表面劣化)	既存仕上材及び脆弱層サンダーケレン	A
	高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	
	セメント系下地調整材鍍塗り (1.5mm±0.5mm)	
ひび割れ部分	サンダーケレン	B
	ひび割れ部シール	
	エポキシ樹脂注入	
	セメント系下地調整材鍍塗り (1.5mm±0.5mm)	



リフトホール



A2 : 100%
A3 : 71%

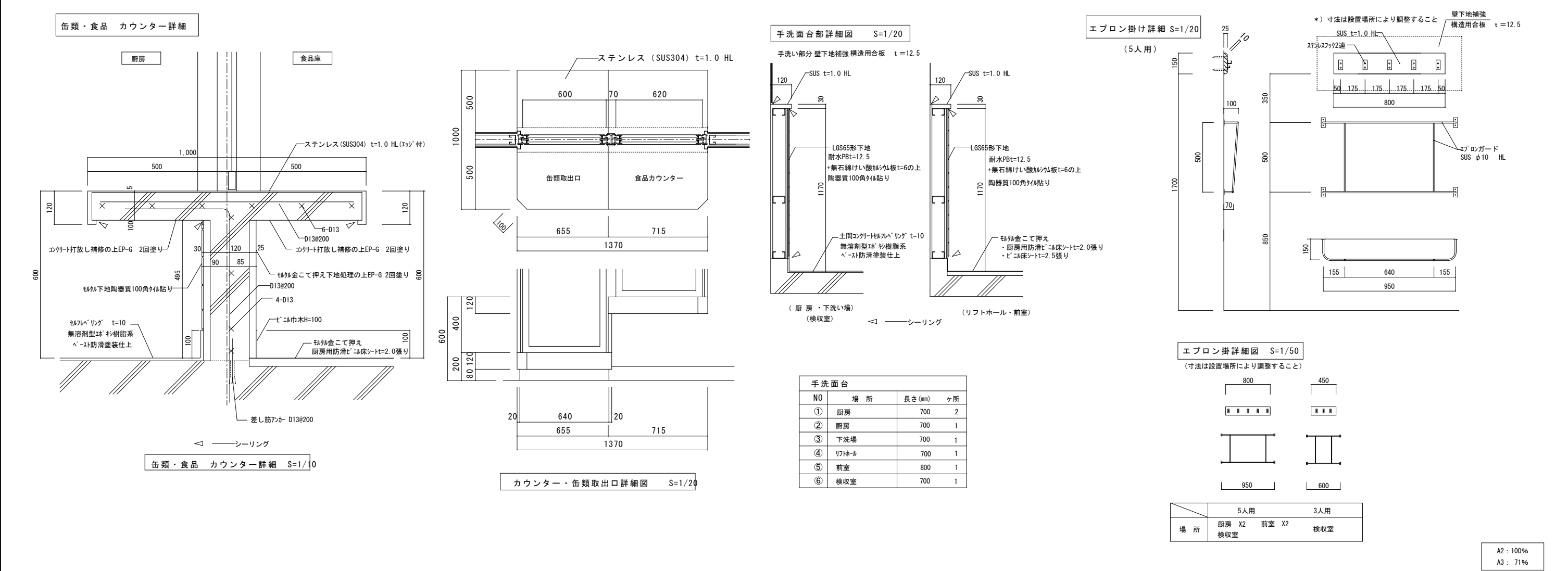
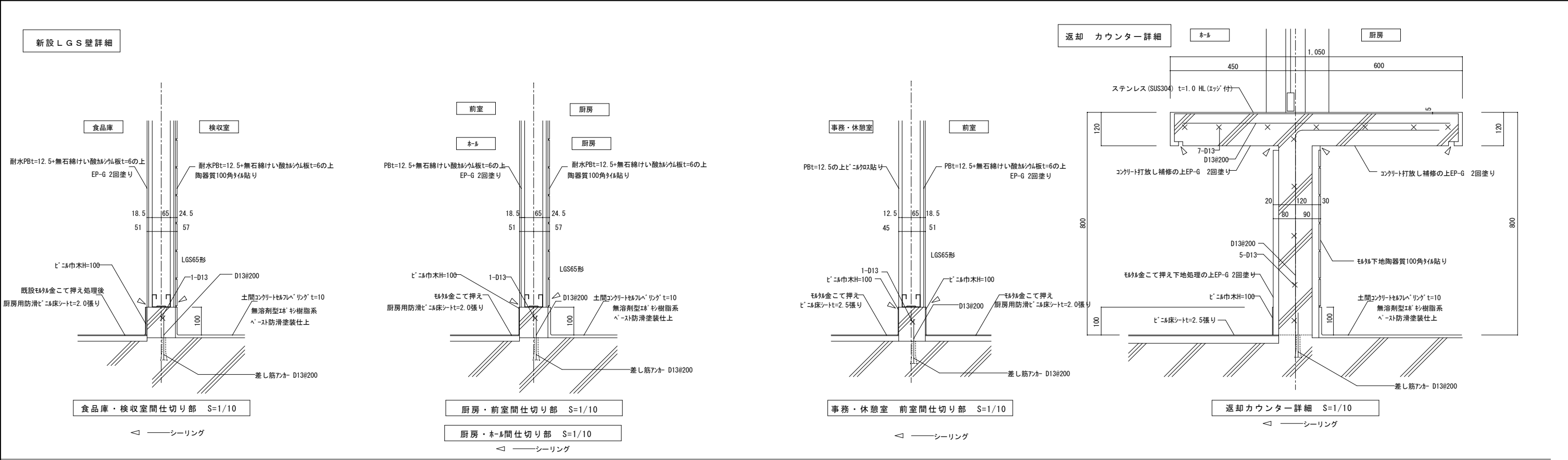
前室



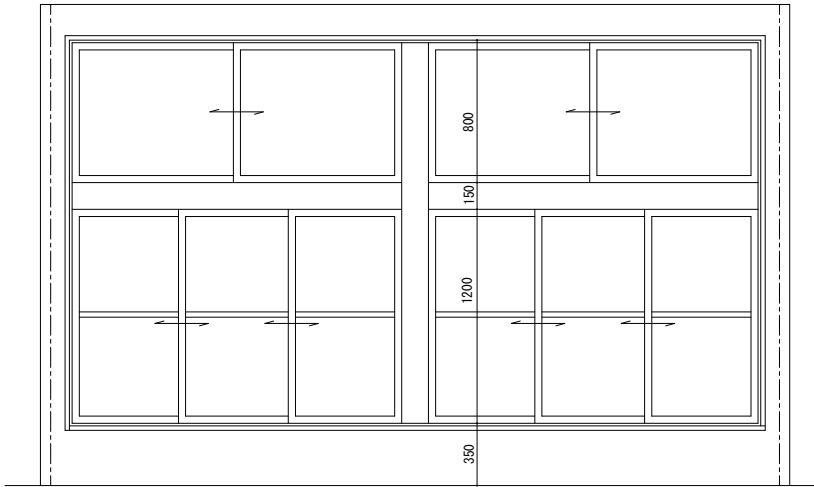
検収室



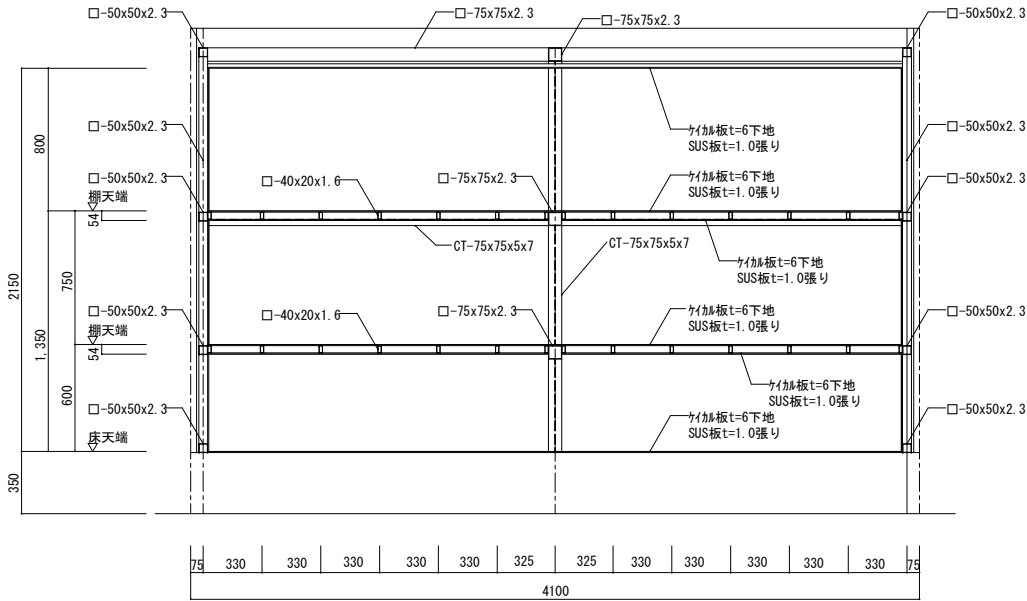
A2 : 100%
A3 : 71%



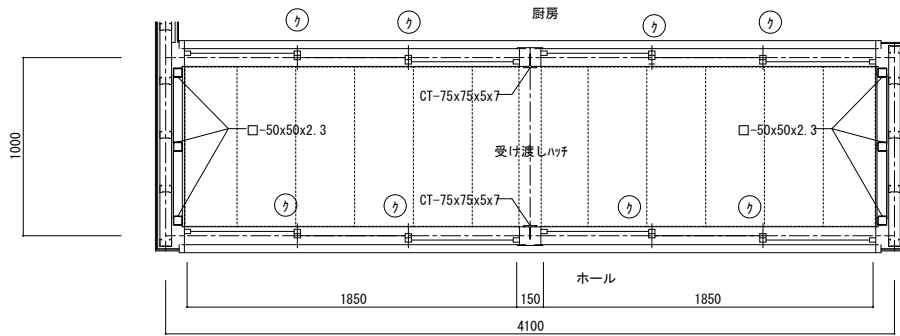
受け渡しハッチ詳細



立面図 S=1/30

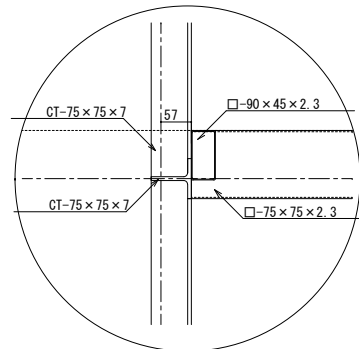


断面図 S=1/30

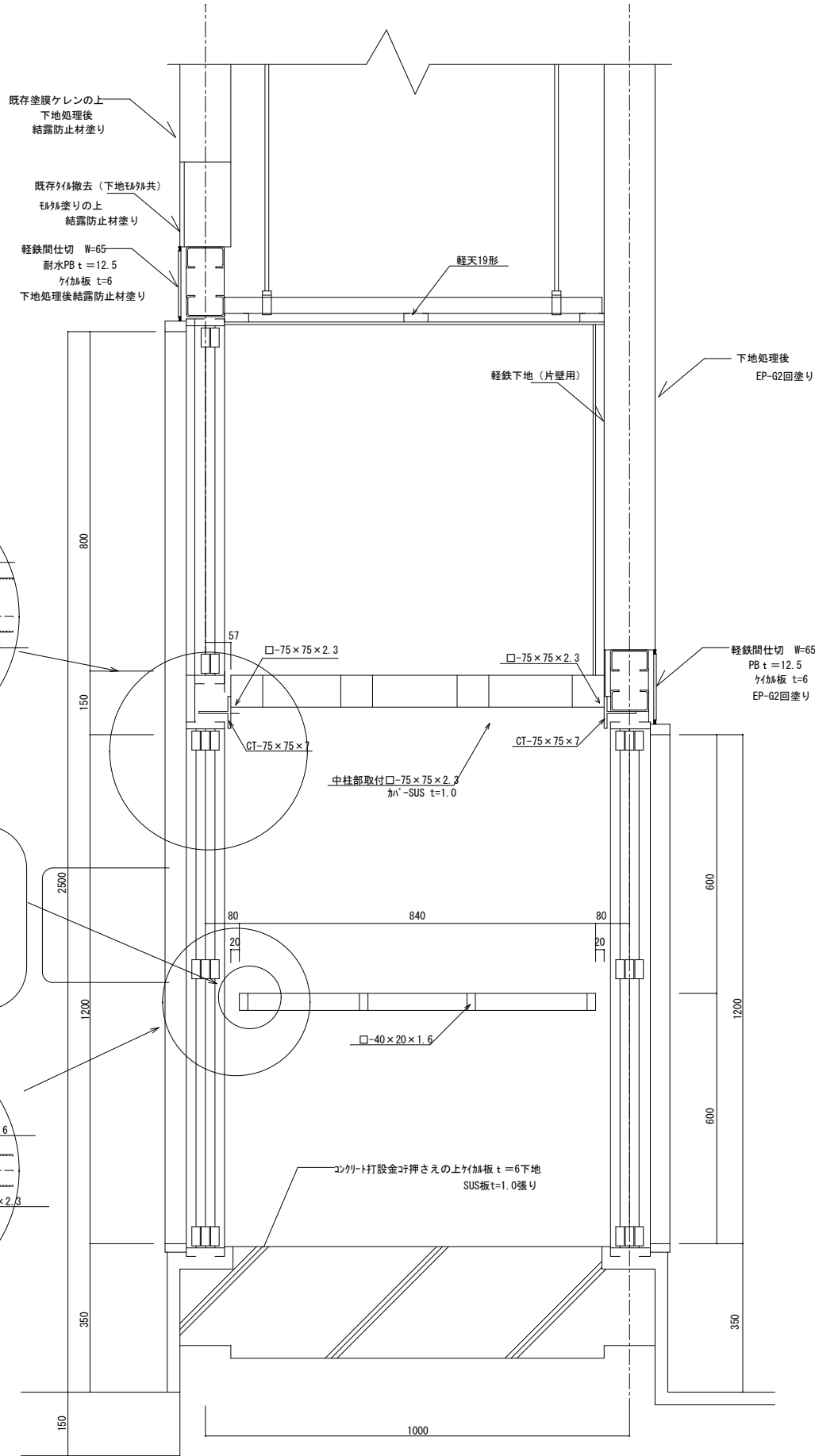
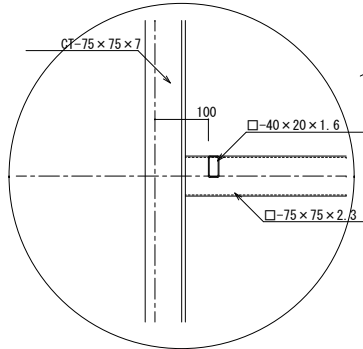
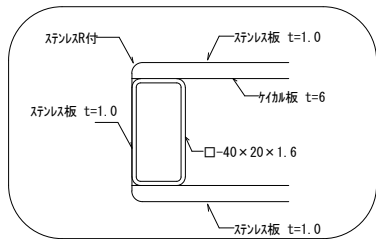


ク レントを示す

平面図 S=1/30



断面図 S=1/10

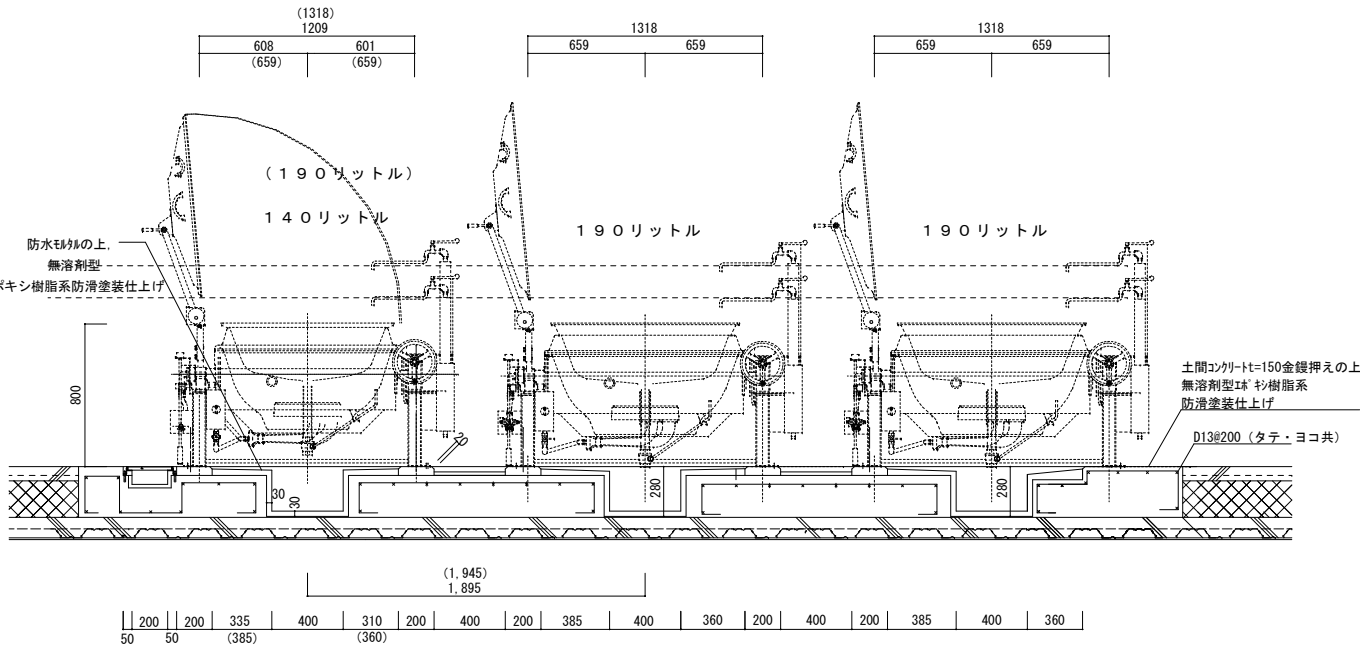


断面詳細図 S=1/10

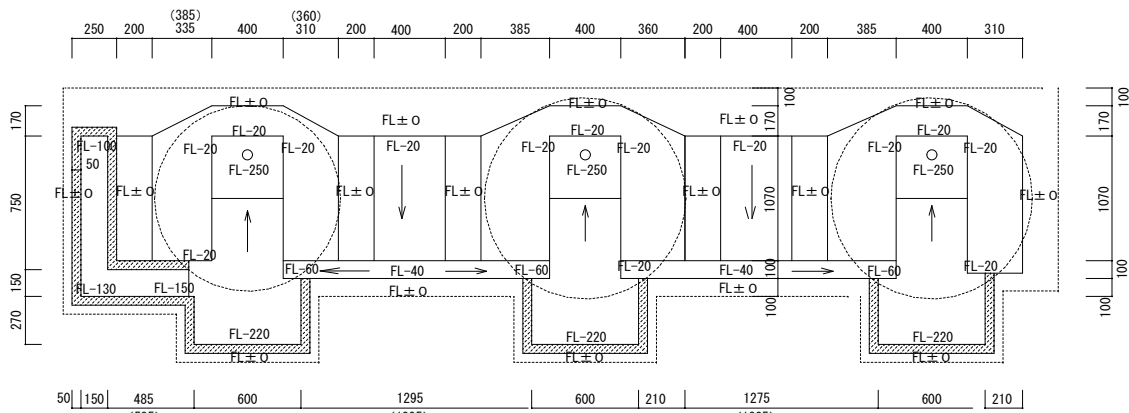
A2 : 100%
A3 : 71%

回転釜用ビット・洗浄コーナービット詳細

※（ ）は190リットル配置時の寸法を示す

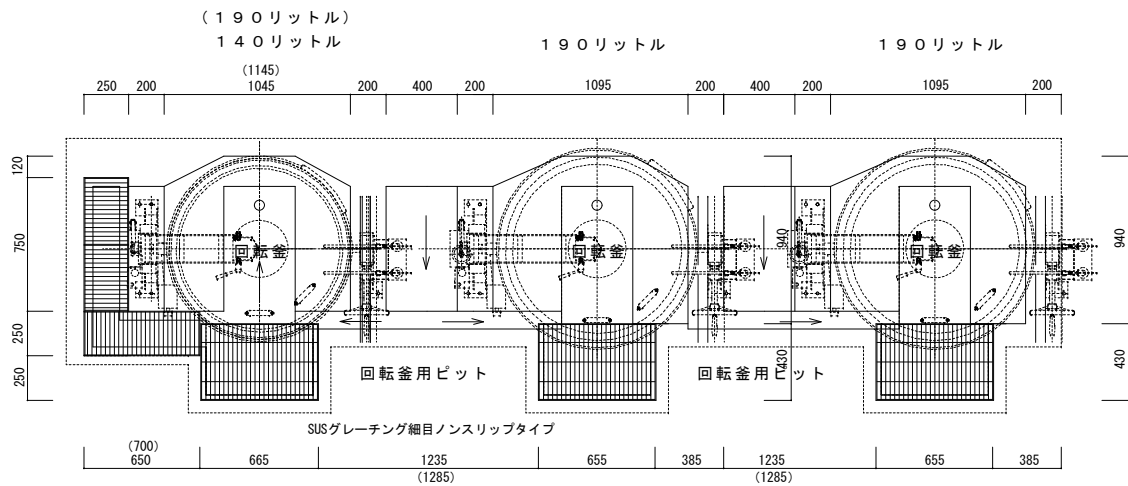


回転釜床断面詳細図 S=1/30



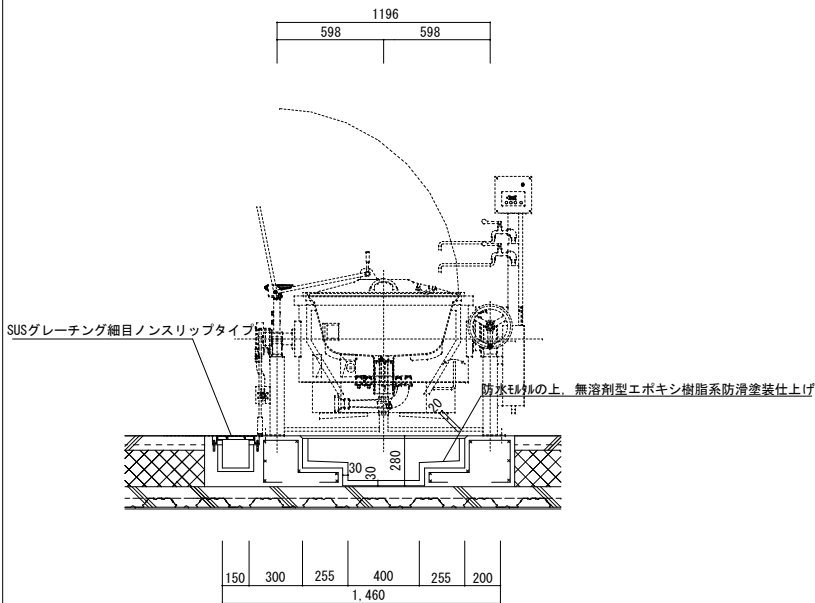
回転釜ビット躯体図 S=1/30

* 設置寸法は、平面詳細図（改修後スラブレベル図）参照の事

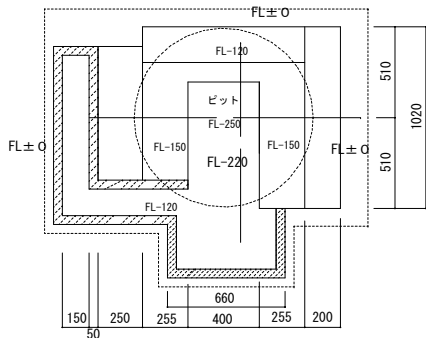


回転釜ビット平面詳細図 S=1/30

※回転釜の大きさを確認すること

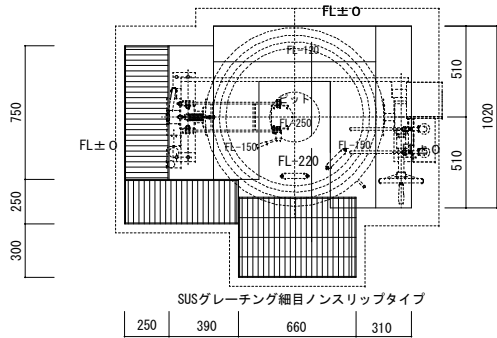


丸型フライヤー専用床断面詳細図 S=1/30



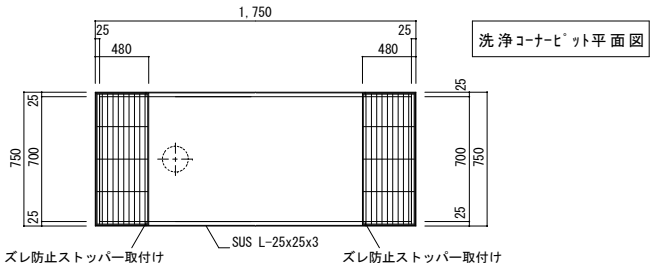
丸型フライヤービット躯体図 S=1/30

* 設置寸法は、平面詳細図（改修後スラブレベル図）参照の事

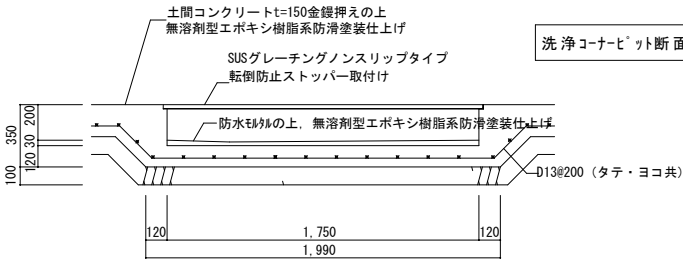


丸型フライヤービット平面詳細図 S=1/30

※丸型フライヤーの大きさを確認すること

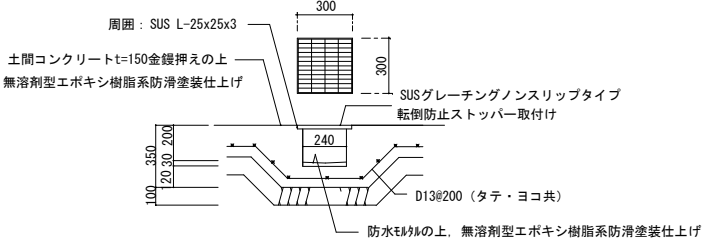


洗浄コーナービット断面図



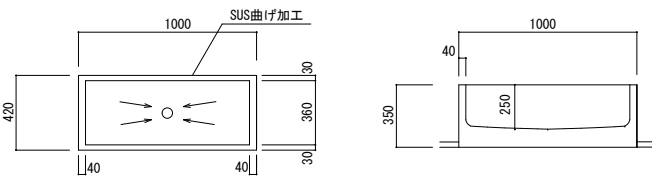
※洗浄機の大きさを確認すること

洗浄コーナービット断面詳細図 S=1/30



ビット断面詳細図 S=1/30

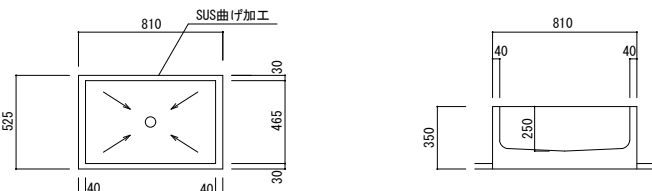
検収室・下洗場（各1ヶ所）



厨房・検収室（各1ヶ所）

ステンレス地流し詳細図 S=1/30

※ 排水金物との取合いを設備施工業者と協議。

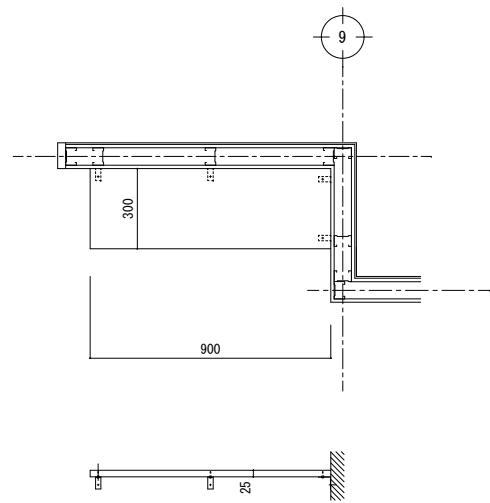


リフトホール（1ヶ所）

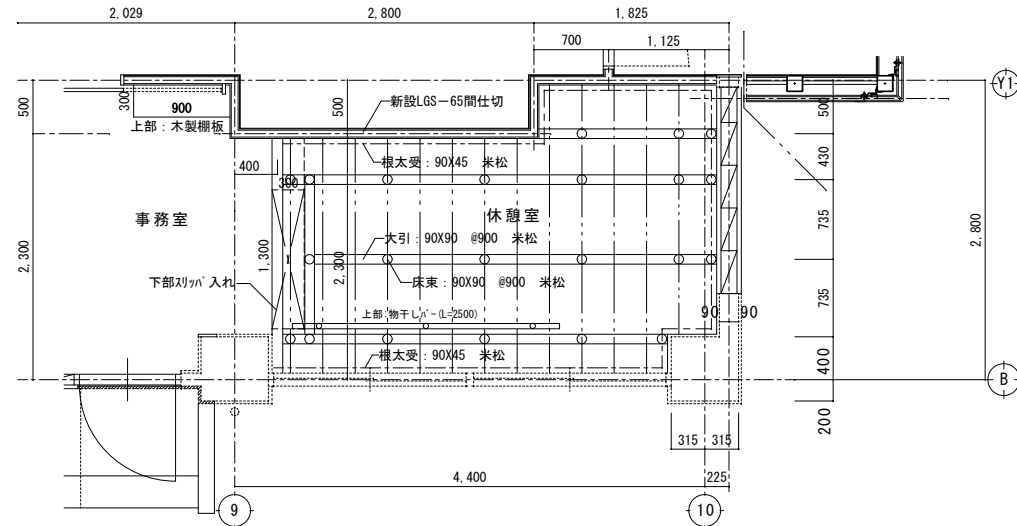
ステンレス地流し詳細図 S=1/30

※ 排水金物との取合いを設備施工業者と協議。

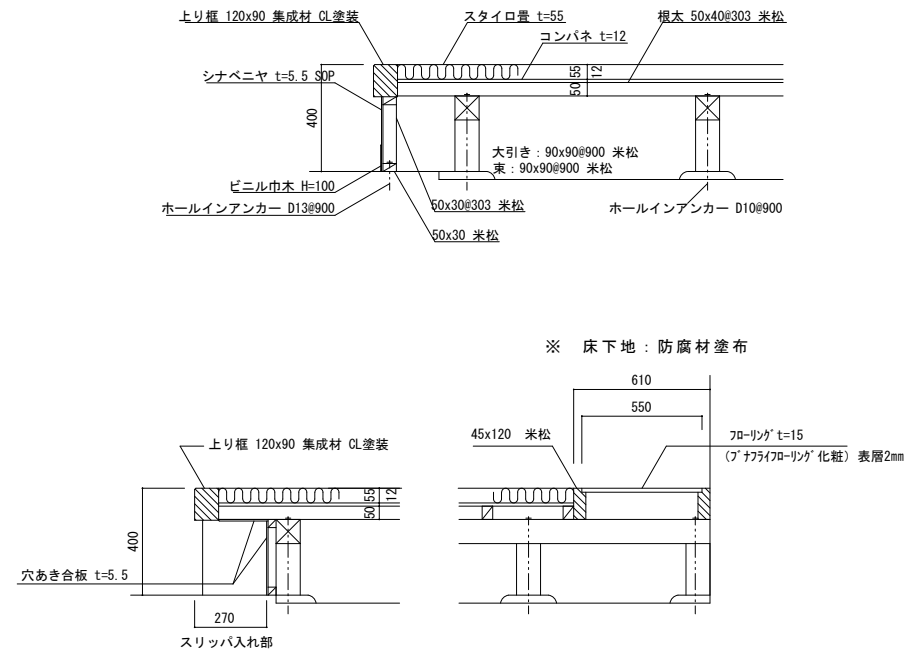
A2：100%
A3：71%



木棚板詳細図 S=1/20



木組床伏図 S=1/50

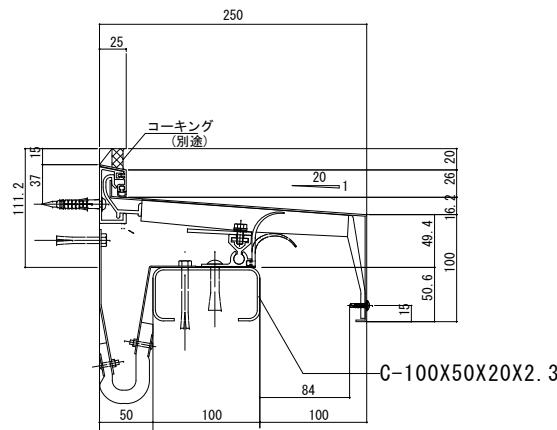


断面詳細図 S=1/20

事務・休憩室木組床詳細図

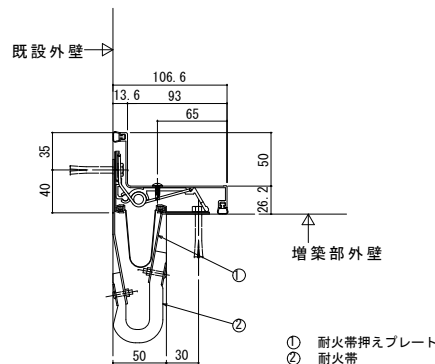
7R製EXP. J詳細図

50-RCE-250 (耐火仕様) 組合わせ
50-BCE



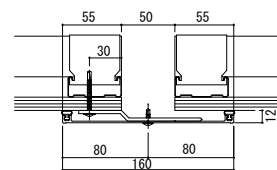
屋根と外壁詳細図 S=1/5

50-ECE (耐火仕様)



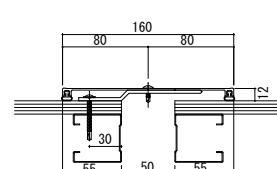
外壁コーナー詳細図 S=1/5

50-IE

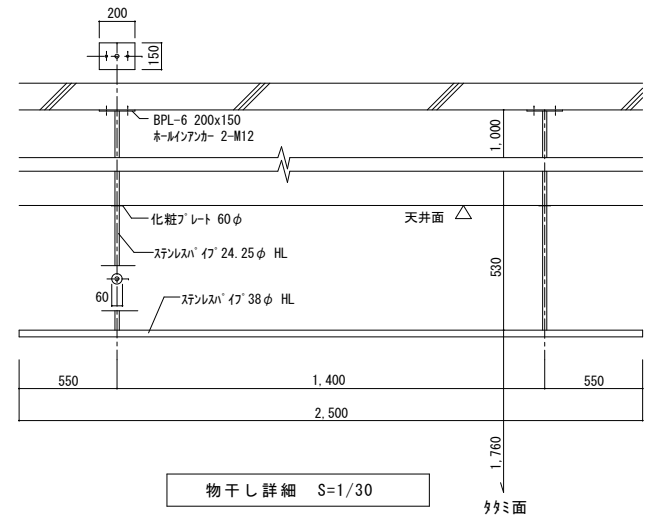


天井と天井 詳細図 S=1/5

50-IE



内壁と内壁 詳細図 S=1/5



物干し詳細 S=1/30

A2 : 100%
A3 : 71%

藤岡建築設計室

広島県知事登録第22〔1〕0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良造
福山市御幸町中津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437



福山市建設局建築部営繕課

設計 2025年 3月

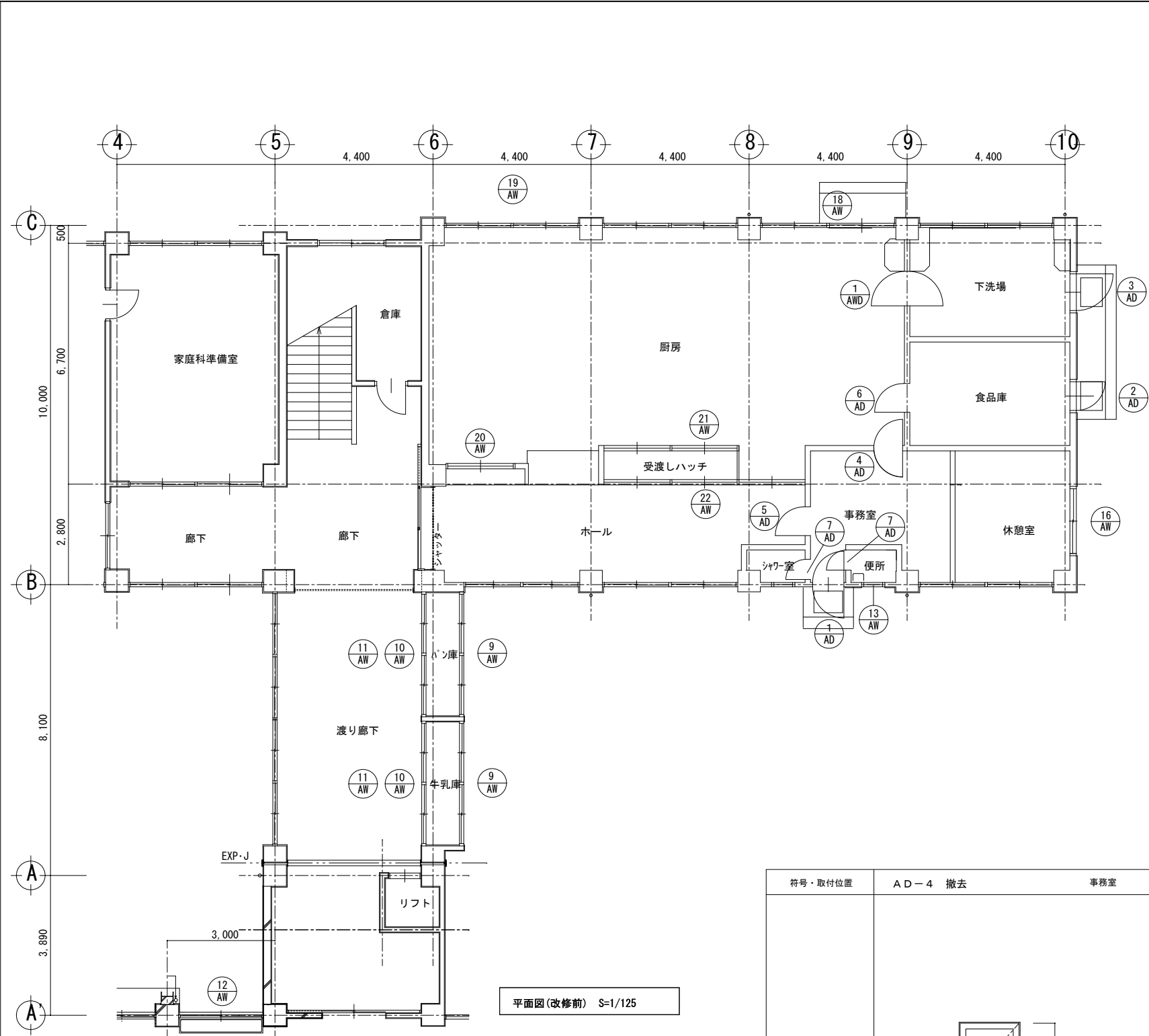
工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

図面名称 部分詳細図 4

縮尺 1:10 1:20 1:30 1:50

図面No

A-30



平面図(改修前) S=1/125

建具工事特記事項

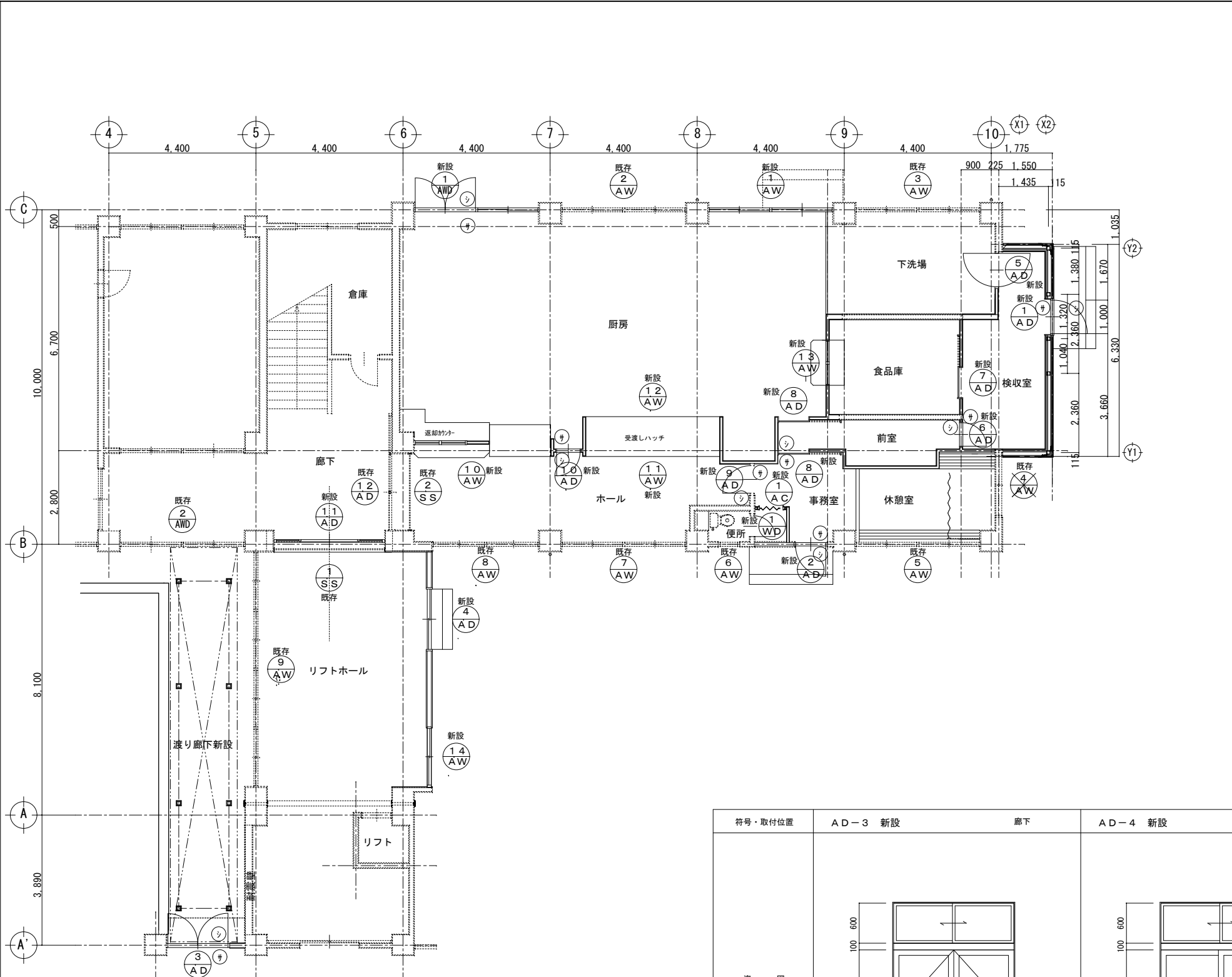
- ・アルミ建具の取付は新設・移設共、溶接留めの上、モルタルト口詰めとする。
- ・アルミ建具は全て現場確認し、監督員と協議の上、寸法等決定すること。
- ・サッシの調整は、既設・移設・新設を問わず、全てのサッシについて行う。
- ・ドアチェックのストップは監督員と協議の上決定する。
- ・防虫網張及び可動網戸の網はステンレス製とする。
- ・既存サッシ共ガラス面のクリーニングを行う。

* 7&建具、木建具：撤去の部分は立面図（改修前）、展開図（改修前）参照の事
* この建具配置図、建具表は撤去部分専用の建具図面とします

符号・取付位置	AWD－１ 撤去	厨房	AD－１ 撤去	事務室
姿 図				
数 量	1		1	
仕上・見込	7&シムバ－		7&シムバ－	
ガ ラ ス	強化透明5mm 腰：7&ミバ 枠3mm		透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm	
金 物	丁番、ドアフィッ、シリンダ－錠、7&ミ鎖縁、ステンス下枠、可動ステンス網戸 付属金物一式		丁番、ドアフィッ、シリンダ－錠、7&ミ鎖縁、ステンス下枠 可動ステンス網戸 付属金物一式	
備 考				

符号・取付位置	AD－２ 撤去	食品庫	AD－３ 撤去	下洗場
姿 図				
数 量	1		1	
仕上・見込	7&シムバ－		7&シムバ－	
ガ ラ ス	型板強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm		型板強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm	
金 物	丁番、ドアフィッ、シリンダ－錠、7&ミ鎖縁、戸当 付属金物一式、ステンス下枠		丁番、ドアフィッ、シリンダ－錠、ステンス下枠 付属金物一式	
備 考				

符号・取付位置	AD－４ 撤去	事務室	AD－５ 撤去	事務室	AD－６ 撤去	食品庫	AD－７ 撤去	便所、シャワー室
姿 図								
数 量	1		1		1		2	
仕上・見込	7&シムバ－		7&シムバ－		7&シムバ－		7&シムバ－	
ガ ラ ス	強化透明5mm 腰：7&ミバ 枠3mm		強化透明5mm 腰：7&ミバ 枠3mm		7&ミ5mm (クリアー) 腰：7&ミバ 枠4mm		透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm	
金 物	丁番、ドアフィッ、シリンダ－錠、ステンス下枠、付属金物一式		シリンダ－錠、ステンス下枠、付属金物一式		SCP-5 (同等品)、7&ミ鎖縁、押板 付属金物一式		丁番、ドアフィッ、シリンダ－錠、ステンス下枠 付属金物一式	
備 考								

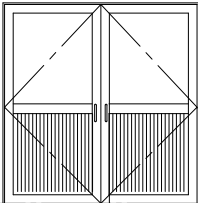
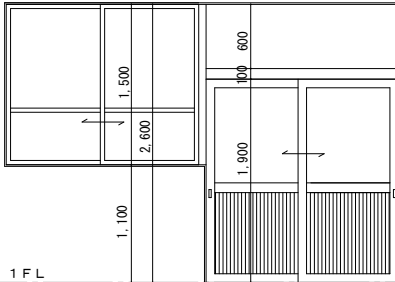


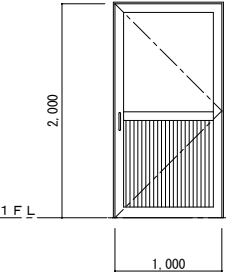
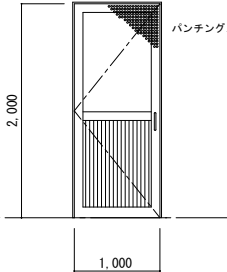
建具配置図 S=1/100

建具工事特記事項

- ・アルミ建具の取付は新設・移設共、溶接留めの上、モルタルト口詰めとする。
- ・アルミ建具は全て現場確認し、監督員と協議の上、寸法等決定すること。
- ・サッシの調整は、既設・移設・新設を問わず、全てのサッシについて行う。
- ・ドアチェックのストップは監督員と協議の上決定する。
- ・防虫網張及び可動網戸の網はステンレス製とする。
- ・既存サッシ共ガラス面のクリーニングを行う。

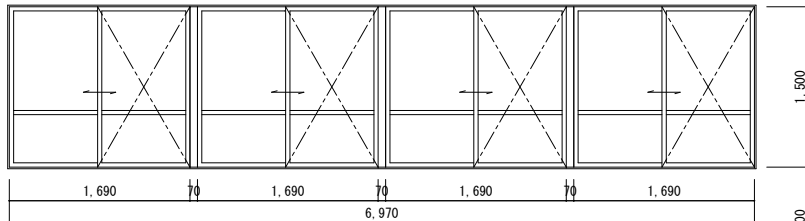
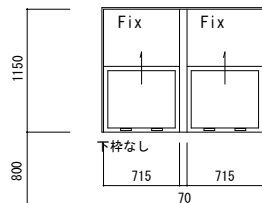
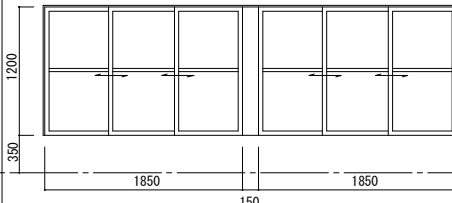
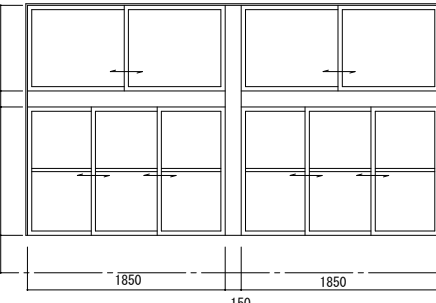
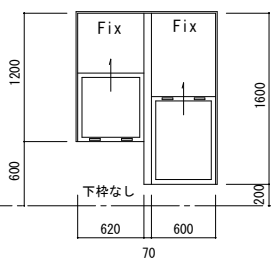
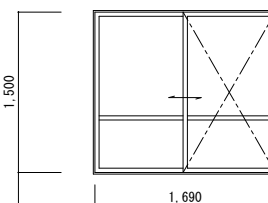
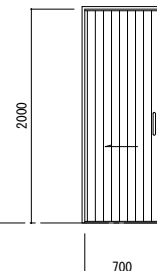
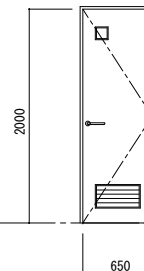
* 7&建具、木建具：撤去の部分は立面図（改修前）、展開図（改修前）参照の事

符号・取付位置	AWD－1 新設	厨房	AWD－2 既存	廊下
壁 図	 1,800 3,670		 1,500 1,500 2,600 2,600 1,100 1,800 70 1,800	
	1 F L		1 F L	

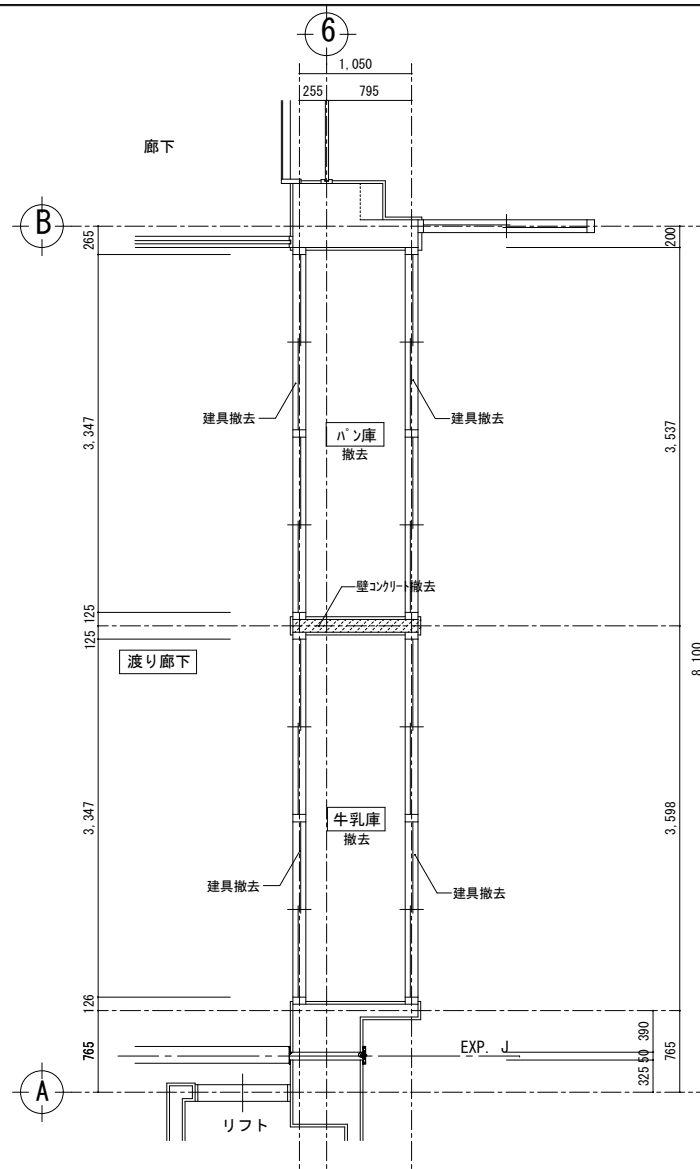
符号・取付位置	A D－1 新設		検収室	A D－2 新設		事務室
姿 図						
				採風勝手口ドアパンチングメタルE型		
数 量	1			1		
仕上・見込	7&シムバ－		70	7&シムバ－		100
ガ ラ ス	型板強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			型板強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm		
金 物	丁番、ドアチェック、シリナー錠、7&ミ額縁、戸当 付属金物一式、ステンレス下枠、ケースハンドル プッシュプル錠、ステンレス網戸			丁番、ドアチェック、シリナー錠、7&ミ額縁、水切り ステンレス網戸、戸当、ステンレス下枠、ケースハンドル 付属金物一式 両ハンド		
備 考						

符号・取付位置	AD－3 新設		廊下	AD－4 新設		リフトホール	AD－5 新設		下洗場	AD－6 新設		前室
姿 図												
	1 F L											
数 量	1			1			1			1		
仕上・見込	7&ミシムバ－			70			7&ミシムバ－			70		
ガ ラ ス	強化透明5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			強化透明5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			7&ミ5mm (クリアー) 腰：7&ミバ 枠4mm			透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm		
金 物	丁番、ドアチェック、シリナー錠、7&ミ額縁、ステンス下枠、フリス落し 可動ステンス網戸 付属金物一式 両開戸			シリナー錠、ステンス下枠、7&ミ額縁、引手、可動ステンス網戸 付属金物一式 SUS戸車			SCP-5 (同等品)、7&ミ額縁、押板 付属金物一式			丁番、ドアチェック、シリナー錠、7&ミ額縁、ステンス下枠、戸当 付属金物一式 プッシュプル錠		
備 考												

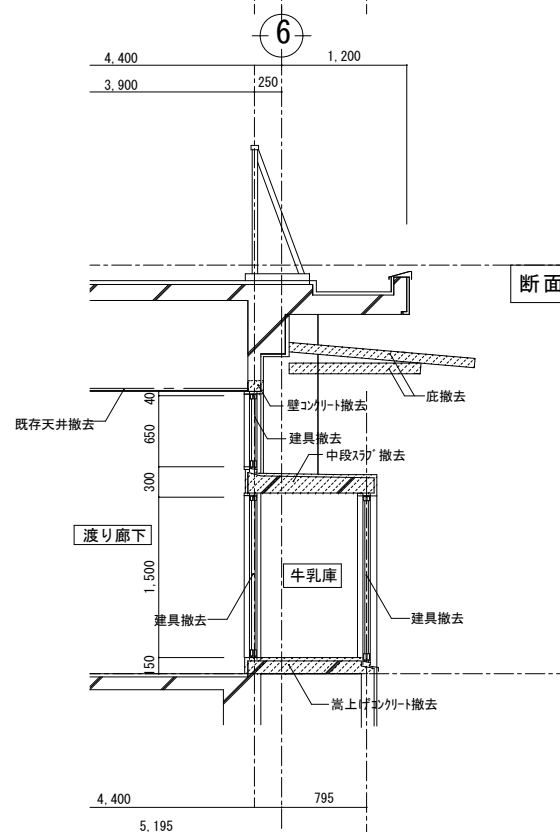
符号・取付位置		AD－7 新設		食品庫	AD－8 新設		前室	AD－9 新設		事務室	AD－10 新設		厨房	AD－11 新設		リフトホール	AD－12 既存		ホール
姿 図	1 F L																		
		900			915			800			700			740 1,730 740			2,310		
		1			2			1			1			1			1		
		7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 100			7&ミシ&ミバ－ 100		
ガ ラ ス		透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			型板強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm			透明強化5mm 腰：7&ミバ 枠3mm					
金 物		7&ミ額縁、引手棒L=300、7&ミ&ミリ (ステン&ミ網付) ステン&ミ下枠 付属金物一式			ステン&ミ下枠、7&ミ額縁、引手棒L=300、シリン&ミ錠 (事務-前室のみ) 付属金物一式 番指り			丁番、ド&ミット、シリン&ミ錠、7&ミ額縁、戸当 付属金物一式、ステン&ミ下枠 プッシュプル錠			丁番、ド&ミット、シリン&ミ錠、7&ミ額縁、ステン&ミ下枠、戸当 付属金物一式 プッシュプル錠			クレセント 付属金物一式 ステン&ミ下枠 SUS戸車			クレセント 付属金物一式 がラス&ミル打替え		
備 考					ハンガー吊り戸														
符号・取付位置		SS－1 既存		リフトホール	SS－2 既存		ホール			AW－1 新設		厨房	AW－2 既存		厨房	AW－3 既存		下洗場	
姿 図	1 F L																		
		3,280			2,270						1,800 70 1,800 3,670			1,800 70 1,800 3,670			1,300 450 70 1,800 3,670		
		1			1						1			1			1		
		スチール スラット PL-1.6			スチール スラット PL-0.8						7&ミシ&ミバ－ 70 強化透明5mm			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70		
ガ ラ ス											7&ミ額縁、引手、可動ステン&ミ網戸 付属金物一式			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 建具周囲コー&ミグ 打ち替え			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 7&ミバ 枠塞ぎ 建具周囲コー&ミグ 打ち替え		
金 物		標準金物一式 巻上&ミックス (二重扉錠付)			標準金物一式 巻上&ミックス (二重扉錠付)						7&ミ額縁、引手、可動ステン&ミ網戸 付属金物一式			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 建具周囲コー&ミグ 打ち替え			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 7&ミバ 枠塞ぎ 建具周囲コー&ミグ 打ち替え		
備 考																			
符号・取付位置		AW－4 既存撤去		休憩室	AW－5 既存		休憩室	AW－6 既存		便所	AW－7 既存		ホール	AW－8 既存		ホール			
姿 図	1 F L																		
		1,900			1,540 70 450 70 1,540			520			1,800 70 1,800			1,530 70 1,530					
		1			1			1			1			1					
		7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70			7&ミシ&ミバ－ 70					
ガ ラ ス											ステン&ミ固定網戸取替 (ステン&ミ網 メッシュ18) 7&ミ額縁取替 建具金物調整 がラス&ミル打替え 建具周囲コー&ミグ 打ち替え			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 建具周囲コー&ミグ 打ち替え					
金 物		ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) 建具金物調整 網戸張替え 建具周囲コー&ミグ 打ち替え がラス&ミル 打替え			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 7&ミバ 枠塞ぎ 建具周囲コー&ミグ 打ち替え			ステン&ミ固定網戸取替 (ステン&ミ網 メッシュ18) 7&ミ額縁取替 建具金物調整 がラス&ミル打替え 建具周囲コー&ミグ 打ち替え			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 建具周囲コー&ミグ 打ち替え			ステン&ミ網戸張替 (ステン&ミ網 メッシュ18) がラス&ミル打替え 建具金物調整 建具周囲コー&ミグ 打ち替え					
備 考																			

符号・取付位置		AW－ 9 既存（網戸改修）		リフトホール		AW－ 1 0 新設		厨房		AW－ 1 1 新設		ホール		AW－ 1 2 新設		厨房		AW－ 1 3 新設		食品庫					
姿 図	1 F L																								
数 量	1						1						1						1						
仕上・見込	7&ミシ&ハゐ		70				7&ミシ&ハゐ		70				7&ミシ&ハゐ		70				7&ミシ&ハゐ		70				
ガ ラ ス									7&リ&ライト5mm								7&リ&ライト5mm								
金 物	ステン&ス網戸張替（ステン&ス網 メッシュ18） 建具金物調整								7&ミ&額縁、厨房側&レ&ント				ステン&ス下枠（フラット&レ&ル）、7&ミ&額縁、ステン&ス引手、&レ&ント（受け渡しハ&ッチ側）				ステン&ス下枠（フラット&レ&ル）、7&ミ&額縁、ステン&ス引手、&レ&ント（厨房側）、ステン&ス戸車				7&ミ&額縁、バ&ラン&サ装置、引手（両側）ストップ 付				
備 考	網戸張替え 建具周囲&キ&ン&グ 打ち替え ガ&ラス&ミ&ル：打替え								付属金物一式				付属金物一式 S U S t = 1. 5				付属金物一式				付属金物一式 &レ&ント（食品保管庫側に取付）				
符号・取付位置	AW－ 1 4 新設		リフトホール				A C－ 1 新設		便所前室				WD－ 1 新設		便所										
姿 図	1 F L																								
数 量	1						1						1												
仕上・見込	7&ミシ&ハゐ		70				塩ビ（防炎品）						7&amin&化&紐&合板		36										
ガ ラ ス	強化透明5mm												7&リ&ライト5mm												
金 物	7&ミ&額縁、引手、可動ステン&ス網戸								レ&ル ハ&ッチ （7&ミ&押出し形材）								丁番、表示錠（非常開錠付）				レ&バー&ハンド&ル、ガ&タリ、戸当り&フ&ック				
備 考	付属金物一式								取手 マ&グ&ネット キャ&ッチ ク&ッション&ゴ&ム								付属金物一式								
符号・取付位置																									
姿 図	1 F L																								
数 量																									
仕上・見込																									
ガ ラ ス																									
金 物																									
備 考																									

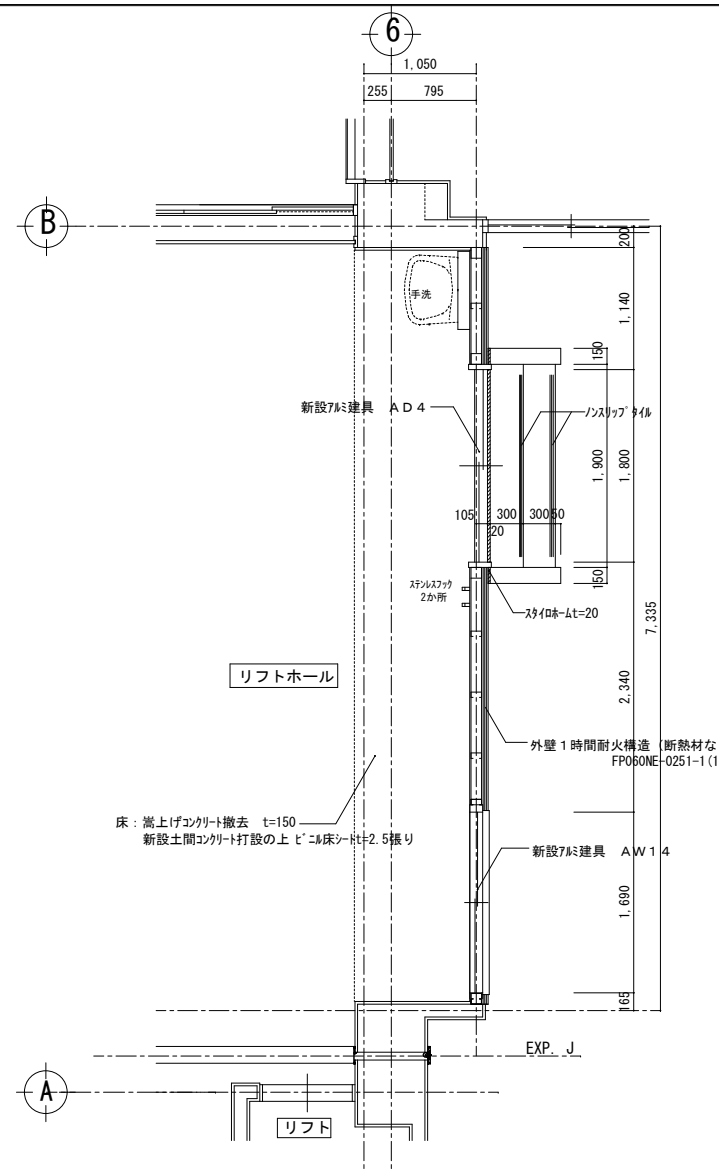
		藤 岡 建 築 設 計 室				福山市建設局建築部営繕課		工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事		図面名称 建具表 3（改修後）		縮尺 1：50		図面No A-35	
		広島県知事登録第22〔1〕0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良進		福山市御幸町中津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437		設計 2025年 3月									



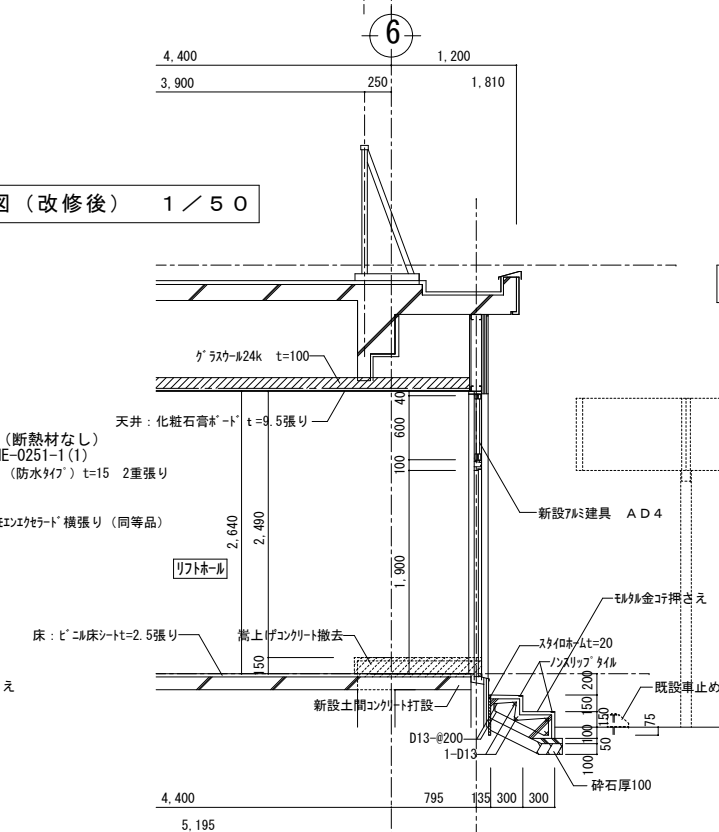
平面詳細図（改修前） 1 / 5 0



断面詳細図（改修前） 1 / 5 0

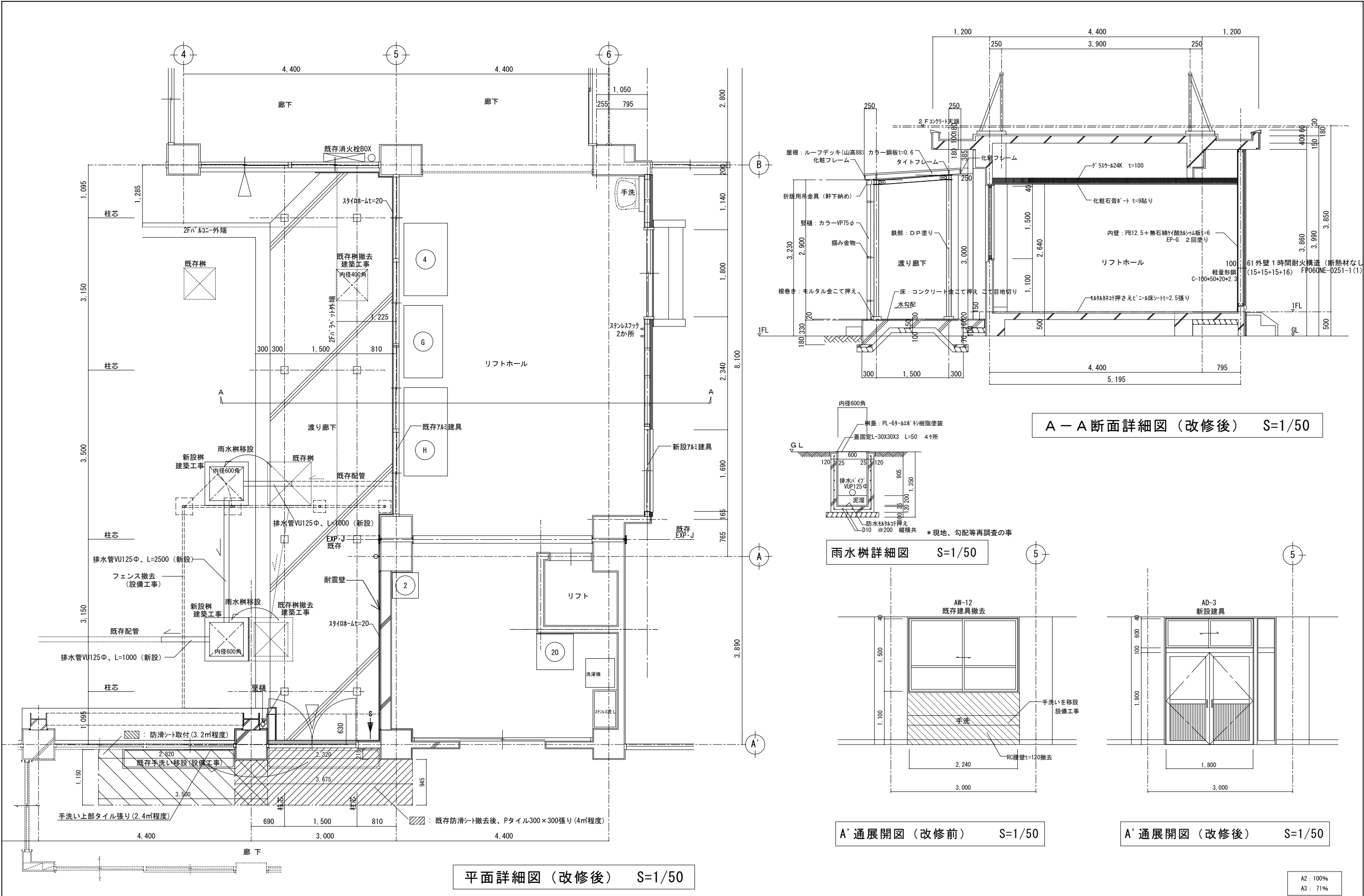


平面詳細図（改修後） 1 / 5 0



断面詳細図（改修後） 1 / 5 0

A2 : 100%
A3 : 71%



章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項						
4	1	基礎 ※ 直接基礎（ ・ 地盤改良（ ・ 表層改良 ・ 柱状改良 ） ） 設計地耐力 KN/㎡ ○ 杭基礎	5	場所打ちコンクリート杭地業 施工管理技術者 ※適用する 寸法等	(4.5.2) (4.5.1~7) 試験杭 本杭 材料 コンクリートの種類 ・ A 種 ※ B 種 ・ 評定等の内容による コンクリートの設計基準強度（ ） N/mm ² 以上 構造体強度補正值 ・ 3N/mm ² ・ 構造図による ・ 評定等の内容による セメントの種類 ※高炉セメント B 種 スランプ値 ※18cm ・ 鉄筋の種類 ※5 章鉄筋工事の鉄筋の種類による 鋼管巻きの材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ 鋼管径・板厚・長さ ※構造図による 掘削工法 ・ アースドリル工法（安定液 ※使用する ・ 使用しない） ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法（孔内の水漲 ・ 行う ・ 行わない） 併用する工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 ・ SKK00 ・ SKK490 ・（ ） ・ 底底杭工法（安定液 ※使用する ・ 使用しない） 孔壁測定 ※行う 測定方法 ※超音波測定器 測定場所 ※試験杭（ ）箇所及び本杭（ ）箇所 ・ 行わない 鉄筋かごの補強 ・ 標準仕様書4.5.4(1)(f)(g)による ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・ 鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※構造図による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・	7	コンクリートの材料 セメント セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメント A 種 ・ シリカセメント A 種 ・ フライアッシュセメント A 種 ・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種 混和材料 ※ A E 剤、A E 減水剤又は高性能 A E 減水剤（ J I S A 6204 ） ※ フライアッシュ（ J I S A 6201 ） I 種、II 種若しくは IV 種 ※ 高炉スラグ微粉末（ J I S A 6206 ） ※ シリカフューム（ J I S A 6207 ）又は膨張材（ J I S A 6202 ） ※ レディミクストコンクリート工場の選定は、監督員の承諾を受ける。 構造体強度補正值 S（N/mm ² ） 適用箇所 ※建物本体 ・ (6.3.2)(表6.3.2) セメント 地域 普通ポルトランドセメント 市内全域 3.0 6.0 3.0 早強ポルトランドセメント 北部地域 3.0 6.0 3.0 セメント その他 3.0 6.0 3.0 ・ 北部地域 ： 新市町・芦田町・山野町の全域及び駅家町・加茂町・神辺町の都市計画区域外の地域 ・ その他 ： 上記以外の地域 ※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 構造体強度補正值 S（N/mm ² ） 6.0 N/mm ² 適用期間（ ） ※（表6.9.2）による ※ 打増厚さ（ ） ※ 合板（12mm） ・ 合板（15mm） ・ 床型枠用鋼製デッキプレート（実績等の資料を提出） ・ メッシュ型枠（ ） ・ 断熱材兼用型枠（25mm以下かつ熱抵抗値1mh ² C/Kcal 以上） ・ M C R 工法用シート（気泡発泡ポリエチレンシート） セメントの種類（ ） 混和材料（ ） 適用箇所（ ） 止水板 止水ゴムの製造所（ ） 適用箇所（ ） 打継ぎ目地 ※ 図示による ・ 幅20mm以上 深さ10mm以上 打継ぎ位置 ※ 標仕による ・ 適用箇所 ※ 6.14.1による ・ 粗骨材の最大寸法（捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合） ※ 25mm以下 コンクリートの品質 種 類 設計基準強度 Fc（N/mm ² ） スランプ（cm） 適用箇所 普通コンクリート 18 ・ 15 ・ 18 ・ 捨コンクリート 流動化コンクリート ・ 適用（ ） 鉄骨製作工場及び施工管理技術者 製作工場の加工能力 施工管理技術者 ※ 適用する ・ 適用しない (7.2.1)(表7.2.1) 材 質 規 格 使用箇所 ○ S S 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 鋼板 ○ S S C 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 梁 ・ S T K 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 ○ S T K R 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 柱 ・ ・ J I S 規格品以外の場合 ※ 試験を行う ・ 試験を行わない 高力ボルト ○ トルシア形高力ボルト（セットの種類 ※ 2 種（S10T） ・ ）（7.2.2） ○ J I S 形高力ボルト（セットの種類 ※ 2 種（F10T） ・ ） ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（セットの種類 ※ 1 種（F8T 相当） ・ ） ボルト径 ※ 図示による ・ 普通ボルト ボルト及びナットの材料等 ※ 表7.2.3による ボルト径 ※ 図示による ・ アンカーボルトの材質及び設置 材質 構造用アンカーボルト ・ A B R 400 ・ A B R 490 ・ A B R 520 S U S 建方用アンカーボルト ○ S S 400 ・ 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A 種 ※ B 種 ・ その他 ・ (7.2.4)(7.10.3) (表7.10.1)	9	ターンバックル デッキプレート 柱底均しモルタル 溶接部の試験 ※ レディミクストコンクリート工場の選定は、監督員の承諾を受ける。 構造体強度補正值 S（N/mm ² ） 適用箇所 ※建物本体 ・ (6.3.2)(表6.3.2) セメント 地域 普通ポルトランドセメント 市内全域 3.0 6.0 3.0 早強ポルトランドセメント 北部地域 3.0 6.0 3.0 セメント その他 3.0 6.0 3.0 ・ 北部地域 ： 新市町・芦田町・山野町の全域及び駅家町・加茂町・神辺町の都市計画区域外の地域 ・ その他 ： 上記以外の地域 ※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 構造体強度補正值 S（N/mm ² ） 6.0 N/mm ² 適用期間（ ） ※（表6.9.2）による ※ 打増厚さ（ ） ※ 合板（12mm） ・ 合板（15mm） ・ 床型枠用鋼製デッキプレート（実績等の資料を提出） ・ メッシュ型枠（ ） ・ 断熱材兼用型枠（25mm以下かつ熱抵抗値1mh ² C/Kcal 以上） ・ M C R 工法用シート（気泡発泡ポリエチレンシート） セメントの種類（ ） 混和材料（ ） 適用箇所（ ） 止水板 止水ゴムの製造所（ ） 適用箇所（ ） 打継ぎ目地 ※ 図示による ・ 幅20mm以上 深さ10mm以上 打継ぎ位置 ※ 標仕による ・ 適用箇所 ※ 6.14.1による ・ 粗骨材の最大寸法（捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合） ※ 25mm以下 コンクリートの品質 種 類 設計基準強度 Fc（N/mm ² ） スランプ（cm） 適用箇所 普通コンクリート 18 ・ 15 ・ 18 ・ 捨コンクリート 流動化コンクリート ・ 適用（ ） 鉄骨製作工場及び施工管理技術者 製作工場の加工能力 施工管理技術者 ※ 適用する ・ 適用しない (7.2.1)(表7.2.1) 材 質 規 格 使用箇所 ○ S S 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 鋼板 ○ S S C 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 梁 ・ S T K 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 ○ S T K R 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 柱 ・ ・ J I S 規格品以外の場合 ※ 試験を行う ・ 試験を行わない 高力ボルト ○ トルシア形高力ボルト（セットの種類 ※ 2 種（S10T） ・ ）（7.2.2） ○ J I S 形高力ボルト（セットの種類 ※ 2 種（F10T） ・ ） ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（セットの種類 ※ 1 種（F8T 相当） ・ ） ボルト径 ※ 図示による ・ 普通ボルト ボルト及びナットの材料等 ※ 表7.2.3による ボルト径 ※ 図示による ・ アンカーボルトの材質及び設置 材質 構造用アンカーボルト ・ A B R 400 ・ A B R 490 ・ A B R 520 S U S 建方用アンカーボルト ○ S S 400 ・ 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A 種 ※ B 種 ・ その他 ・ (7.2.4)(7.10.3) (表7.10.1)	11	鋼杭地業 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ※ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 杭の現場継手 ○ 溶接継手 ・ JIS A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手（※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○ 処理しない ・ 処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・（ ）	13	鋼杭地業 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ※ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 杭の現場継手 ○ 溶接継手 ・ JIS A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手（※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○ 処理しない ・ 処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・（ ）				
														2	試験及び報告書 試験杭 位置、本数及び寸法 ・ 最初の1本 ・ 図示による (4.2.2) 杭の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.3) 地盤の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.4)	6	コンクリートの材料 セメント セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメント A 種 ・ シリカセメント A 種 ・ フライアッシュセメント A 種 ・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種 混和材料 ※ A E 剤、A E 減水剤又は高性能 A E 減水剤（ J I S A 6204 ） ※ フライアッシュ（ J I S A 6201 ） I 種、II 種若しくは IV 種 ※ 高炉スラグ微粉末（ J I S A 6206 ） ※ シリカフューム（ J I S A 6207 ）又は膨張材（ J I S A 6202 ） ※ レディミクストコンクリート工場の選定は、監督員の承諾を受ける。 構造体強度補正值 S（N/mm ² ） 適用箇所 ※建物本体 ・ (6.3.2)(表6.3.2) セメント 地域 普通ポルトランドセメント 市内全域 3.0 6.0 3.0 早強ポルトランドセメント 北部地域 3.0 6.0 3.0 セメント その他 3.0 6.0 3.0 ・ 北部地域 ： 新市町・芦田町・山野町の全域及び駅家町・加茂町・神辺町の都市計画区域外の地域 ・ その他 ： 上記以外の地域 ※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 構造体強度補正值 S（N/mm ² ） 6.0 N/mm ² 適用期間（ ） ※（表6.9.2）による ※ 打増厚さ（ ） ※ 合板（12mm） ・ 合板（15mm） ・ 床型枠用鋼製デッキプレート（実績等の資料を提出） ・ メッシュ型枠（ ） ・ 断熱材兼用型枠（25mm以下かつ熱抵抗値1mh ² C/Kcal 以上） ・ M C R 工法用シート（気泡発泡ポリエチレンシート） セメントの種類（ ） 混和材料（ ） 適用箇所（ ） 止水板 止水ゴムの製造所（ ） 適用箇所（ ） 打継ぎ目地 ※ 図示による ・ 幅20mm以上 深さ10mm以上 打継ぎ位置 ※ 標仕による ・ 適用箇所 ※ 6.14.1による ・ 粗骨材の最大寸法（捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合） ※ 25mm以下 コンクリートの品質 種 類 設計基準強度 Fc（N/mm ² ） スランプ（cm） 適用箇所 普通コンクリート 18 ・ 15 ・ 18 ・ 捨コンクリート 流動化コンクリート ・ 適用（ ） 鉄骨製作工場及び施工管理技術者 製作工場の加工能力 施工管理技術者 ※ 適用する ・ 適用しない (7.2.1)(表7.2.1) 材 質 規 格 使用箇所 ○ S S 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 鋼板 ○ S S C 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 梁 ・ S T K 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 ○ S T K R 400 ※ J I S 規格品 ・ J I S 規格品以外 柱 ・ ・ J I S 規格品以外の場合 ※ 試験を行う ・ 試験を行わない 高力ボルト ○ トルシア形高力ボルト（セットの種類 ※ 2 種（S10T） ・ ）（7.2.2） ○ J I S 形高力ボルト（セットの種類 ※ 2 種（F10T） ・ ） ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（セットの種類 ※ 1 種（F8T 相当） ・ ） ボルト径 ※ 図示による ・ 普通ボルト ボルト及びナットの材料等 ※ 表7.2.3による ボルト径 ※ 図示による ・ アンカーボルトの材質及び設置 材質 構造用アンカーボルト ・ A B R 400 ・ A B R 490 ・ A B R 520 S U S 建方用アンカーボルト ○ S S 400 ・ 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状・寸法 ※ 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A 種 ※ B 種 ・ その他 ・ (7.2.4)(7.10.3) (表7.10.1)
														3	既製コンクリート杭地業 施工管理技術者 ※適用する 種類 ・ 通心力高強度プレストレストコンクリート杭（P H C 杭） ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（P R C 杭） ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（S C 杭） SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ※ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 杭の現場継手 ○ 溶接継手 ・ JIS A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手（※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○ 処理しない ・ 処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・（ ）	8	鉄筋の種類 鉄筋 類 別 種 別 径（mm） ※ J I S G 3112 ○ S D 295 D10 D13 ○ S D 345 D16以上 網目の形状、寸法及び径（mm） ○ 150×150×6φ、100×100×4.5φ 施工場所（ 厨房・下洗い場 ） 柱・梁の鉄筋の継手 ・ ガス圧接（S D 295は不可） ・ 重ね継手（ ） ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 継手位置 ※ 鉄筋工事仕様書による ・ 図示による ※ 鉄筋工事仕様書による ・ 各部配筋参考図7.1 ・ 図示による 圧接完了後の検査 検査方法 ※ 超音波深傷試験 ・ 引張試験 ・ 組み立ての形は S P 形とする。（鉄筋工事仕様書） コンクリートの強度 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 Fc（N/mm ² ） スランプ（cm） 適用箇所 ※ 21 18 立上り壁・下り壁・カウンター・基礎 ※ 21 15 土間 ※ 18 15 大走り ※ 軽量コンクリート 設計基準強度 Fc（N/mm ² ） 種類 スランプ（cm） 適用箇所 ・ 1 種 ・ 2 種 ・ ・ ※ 屋根床版のスランプは15cmとする。 コンクリートの類別 ※ I 類 ・ II 類 水セメント比 ・ 65% ・ % コンクリート中の塩化物量 ※ 0.30kg/m ³ 以下 コンクリートのアルカリ総量 ・ アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート中の総アルカリ量を3.0kg/m ³ 以下とする。 コンクリートの仕上り 打放し仕上の種類 ※ 合板せき板を使用する場合 種 別 せき板の種類 表面・せき板の程度 適用箇所 ・ A 種 J A S（表面加工品） 表6.2.4 ※ 図示 ・ ※ B 種 J A S B－C 表6.2.4 ・ ・ C 種 J A S B－C 表6.2.4 ・
4	鋼杭地業 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ※ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 杭の現場継手 ○ 溶接継手 ・ JIS A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手（※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○ 処理しない ・ 処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・（ ）	12	鋼杭地業 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ※ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 杭の現場継手 ○ 溶接継手 ・ JIS A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手（※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○ 処理しない ・ 処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・（ ）	14	鋼杭地業 施工管理技術者 ※適用する 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ S T K 400 寸法、継手、性能等 試験杭 本杭 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 ・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=、β=、γ= を採用できる工法 ・ 中掘り拡大根囲め工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭の傾斜 ※ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・ 杭の現場継手 ○ 溶接継手 ・ JIS A 5525による 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による ・ 機械式継手（※評定等を受けたもの） 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○ 処理しない ・ 処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による 杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合） ・（ ）												

藤岡建築設計室

広島県知事登録第22(1)0411 一般建築士登録第198584号 藤岡良造
福山市御幸町中津原1967-7レジデンス御幸3F TEL084-955-7437



福山市建設局建築部営繕課
2025年 3月

工事名称
福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事
図面名称
建築工事 特記仕様書 構造関係
縮尺

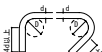
図面No
S-01

鉄筋工事仕様書 No. 1

この仕様書は、国土交通省大臣官房官営幹部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）5章鉄筋工事により作成する。この仕様書及び図面に明示なき場合は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）5章鉄筋工事による。

鉄筋の折曲げ基準

鉄筋の折曲げ形状及び寸法

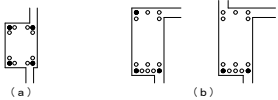
折曲げ角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295、SD345	SD390	
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3d 以上	4d 以上	5d 以上
135°				
90°				
135° 及び 90°				
折曲げ角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295、SD345、SD390		
		D16以下	D19～D25	D25～D38
90° 未満		4d 以上	6d 以上	8d 以上

（注）1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

異形鉄筋のフック

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフックを付ける。

- 柱の四隅にある主筋の重ね継手（下図（a）の●印で示す鉄筋）
- 最上階の柱の四隅にある主筋の柱頭の定着（下図（a）の●印で示す鉄筋）
- 梁の出隅及び下端の両隅にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く。）（下図（b）の●印で示す鉄筋）
- 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）
- 杭基礎のベース筋
- 帯筋、あばら筋及び幅止め筋



鉄筋の継手及び定着

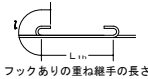
1. 鉄筋の継手

- 鉄筋の重ね継手は、次による。
- 原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継ぎ手を用いない。
- なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- 7) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。
- 特記がなければ、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）又は下表の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
- 4) 7) 以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。

鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L ₁ 、L ₂ (フックなし)		L _{1n} (フックなし)	
		L ₁	L ₂	L _{1n}	L _{2n}
SD295	18	45d	35d	35d	35d
		21	40d	30d	30d
		24、27	35d	25d	25d
		30、33、36	35d	25d	25d
SD345	18	45d	35d	35d	35d
		21	40d	30d	30d
		24、27	35d	25d	25d
		30、33、36	35d	25d	25d
SD390	18	45d	35d	35d	35d
		21	40d	30d	30d
		24、27	35d	25d	25d
		30、33、36	35d	25d	25d

（注）1. L₁、L_{1n}：重ね継手の長さ及びフックありの重ね継手の長さ
2. L₂、L_{2n}：下図に示すようにフック部分に1を含む。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



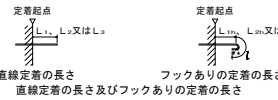
2. 鉄筋の定着

- 7) 鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、下表による。

鉄筋の定着の長さ

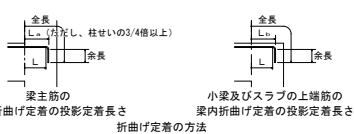
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		L ₁	L ₂	L _{1n}	L _{2n}
SD295	18	45d	40d	35d	30d
		21	40d	35d	30d
		24、27	35d	30d	25d
		30、33、36	35d	30d	25d
SD345	18	45d	40d	35d	30d
		21	40d	35d	30d
		24、27	35d	30d	25d
		30、33、36	35d	30d	25d
SD390	18	45d	40d	35d	30d
		21	40d	35d	30d
		24、27	35d	30d	25d
		30、33、36	35d	30d	25d

（注）1. L₁、L_{1n}：2. から4. までの直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
2. L₂、L_{2n}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎筋スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3n}：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ。
5. フックありの定着の場合は、下図に示すようにフック部分1を含む。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



4) 定着の方法

- 仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さし、フックありの定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、特記による。特記がなければ、下図により、下記の条件を全て満足するものとする。
- (a) 全長は、7) の直線定着の長さ以上とする。
- (b) 余長は、8d以上とする。
- (c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さし、及びし、は、下図に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。



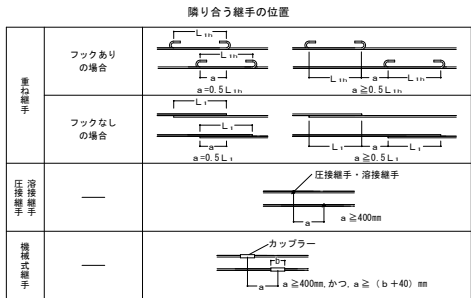
3. 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L ₁ 、L ₂	
		L ₁	L ₂
SD295	18	20d	15d
		21	15d
		24、27	15d
		30、33、36	15d
SD345	18	20d	15d
		21	15d
		24、27	15d
		30、33、36	15d
SD390	18	20d	15d
		21	15d
		24、27	15d
		30、33、36	15d

（注）1. L₁：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L₂：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

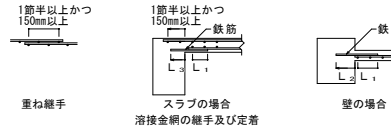
4. 隣り合う継手の位置

- 隣り合う継手の位置は、下図による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。なお、先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所にはける場合は、特記による。

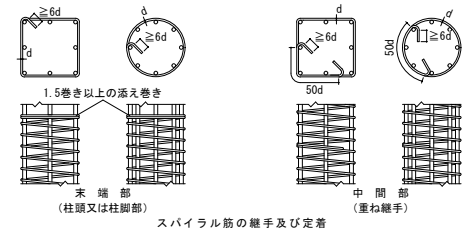


5. 溶接金網の継手及び定着

- L₁は1. 4)、L₂及びL₃は2. 7) による。



6. スパイラル筋の継手及び定着



鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

1. 鉄筋（溶接金網含む）の最小かぶり厚さ（mm）
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

鉄筋及び溶接金網の最小のかぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種類	土に接しない部分	最小かぶり厚さ（mm）	
		スラブ、耐力壁以外の壁	柱、梁、耐力壁
土に接しない部分	柱、梁、耐力壁	屋 内	屋 外
		仕上げあり	仕上げなし
		仕上げなし	仕上げあり
		仕上げなし	仕上げなし
土に接する部分	柱、梁、耐力壁	基礎、擁壁、耐力スラブ	基礎、擁壁、耐力スラブ
		基礎、擁壁、耐力スラブ	基礎、擁壁、耐力スラブ
		基礎、擁壁、耐力スラブ	基礎、擁壁、耐力スラブ
		基礎、擁壁、耐力スラブ	基礎、擁壁、耐力スラブ

（注）1. 普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（土上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含めない。
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

2. 鉄筋相互のあき

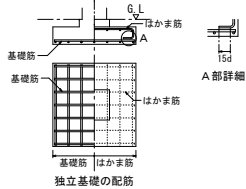
- 1) 次の値のうち最大のもの以上とする。
- (7) 粗骨材の最大寸法D1.25倍
- (4) 25mm
- (2) 隣り合う鉄筋の径の平均の1.5倍
- とのあきも、同様とする。
- 3) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
3. 鉄筋の表示記号

丸 鋼	9 φ	13 φ	16 φ	19 φ	22 φ	25 φ	28 φ	32 φ
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32
記 号	●	×	○	●	○	○	○	○

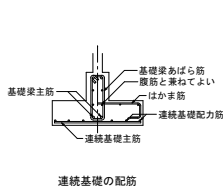
基礎の配筋

1. 直接基礎の配筋

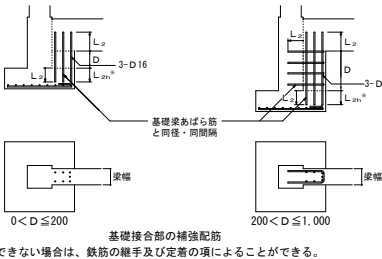
(1) 独立基礎



(2) 連続基礎



2. 基礎接合部の補強配筋



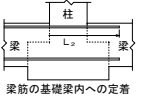
※ L_{3n}を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

基礎梁の配筋

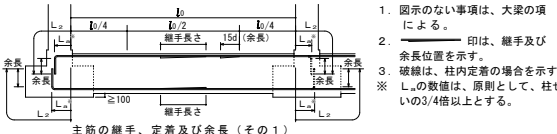
1. 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

1) 一般事項

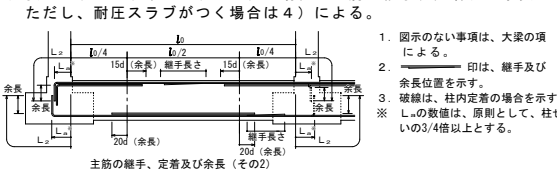
- (7) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- (4) 梁筋を柱内に定着する場合は、梁の配筋1. 1) (4) による。



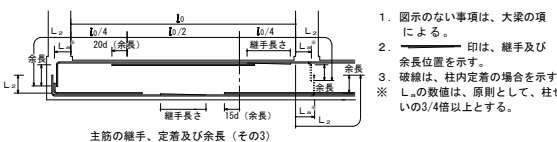
2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長

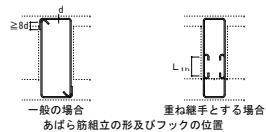


4) 連続基礎及びびた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



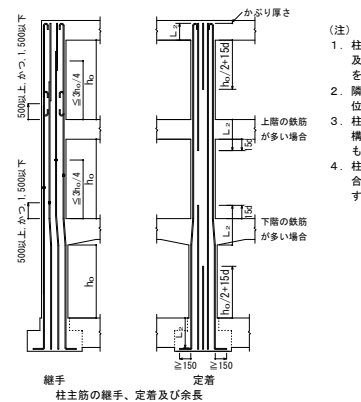
2. 基礎梁のあばら筋

- あばら筋組立の形及びフックの位置は、梁の配筋2. 1) による。
- ただし、梁の下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。



柱の配筋

1. 柱主筋の継手、定着及び余長



（注）1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、「隣り合う継手の位置」による。
3. 柱頭定着長さし確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
4. 柱頭主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

2. 帯筋組立の形及び割付け

① H形



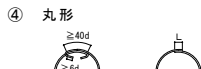
② W-I形



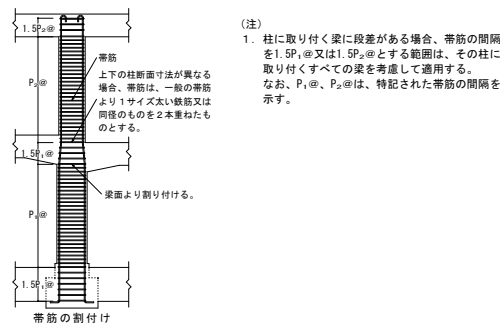
③ S P形（スパイラル筋）



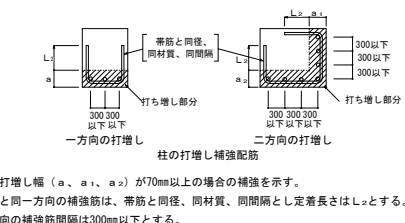
（注）溶接は、鉄筋の組立前に行う。



- (1) H形を標準とする。
- (2) フック及び継手の位置は、交互とする。
- (3) 溶接する場合の溶接長さしは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
- (4) S P形において、柱頭及び柱筋の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。
- (5) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。



4. 柱の打ち増し補強

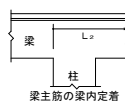


梁の配筋

1. 大梁主筋の継手、定着及び余長

1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (7) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。
- ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。



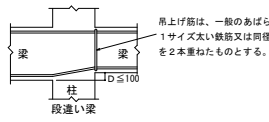
(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は継手及び定着の項による。

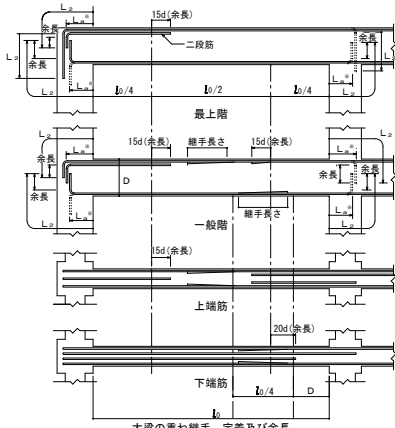
上端筋：曲げ降ろす。

下端筋：原則として曲げ上げる。

(7) 段違い梁は、下図による。

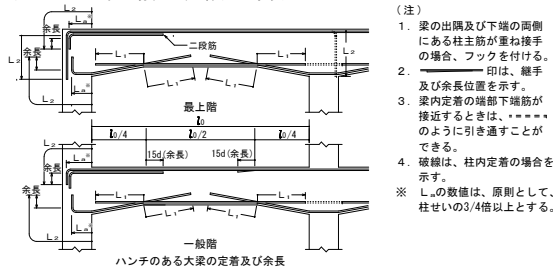


2) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



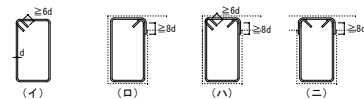
（注）1. 継手中心位置は次による。
上端筋：中央L₃/2以下
下端筋：柱面より梁せいの(D)以上とし、L₃/4を加えた範囲以内
2. 梁の出隅及び下端の両側にある柱主筋が重ね継手の場合、フックを付ける。
3. 図中のP₁、P₂は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
※ L_{3n}を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

3) ハンチのある場合の定着及び余長



2. あばら筋（小梁、片持ち梁、基礎梁含む）の組立の形及び割付け等

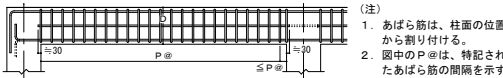
1) あばら筋組立の形及びフックの位置



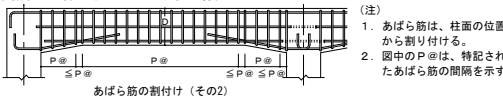
(1) (イ) 形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

2) あばら筋の割付け

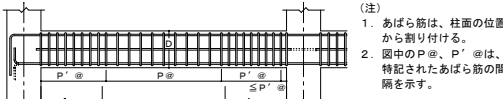
(7) 間隔が一樣で、ハンチのない場合



(4) 間隔が一樣で、ハンチのある場合

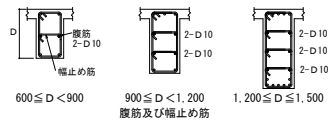


(7) 梁の端部で間隔の異なる場合



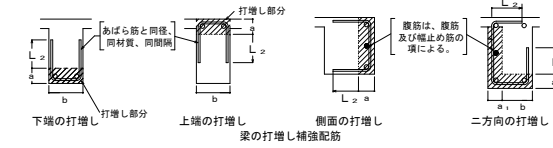
3) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁



1. 腹筋に継手を入れる場合の継手長さは、150mm程度とする。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000程度とする。

2. 打ち増し補強

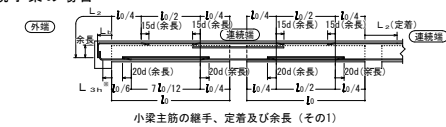


1. 梁の打ち増し幅（a、a₁、a₂）が70mm以上の場合の補強を示す。
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、間隔とし、定着長さはL₃とする。

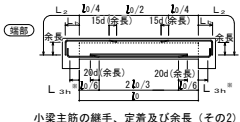
小梁及び片持ち梁

1. 小梁主筋の継手、定着及び余長

1) 連続小梁の場合



2) 単独小梁の場合



（注）1. 継手中心位置は次による。
上端筋：中央L₃/2以下
下端筋：柱面より梁せいの(D)以上とし、L₃/4を加えた範囲以内
2. 梁の出隅及び下端の両側にある柱主筋が重ね継手の場合、フックを付ける。
3. 図中のP₁、P₂は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
※ L_{3n}を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

工事名称

福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

図面名称

鉄筋工事仕様書 No. 1

藤岡建築設計室

広島県知事登録第22(1)0411 一級建築士登録第198584号 藤岡長直

福山市御幸町中津屋1967-アレジデンス御幸3F TEL084-955-7437

福山市

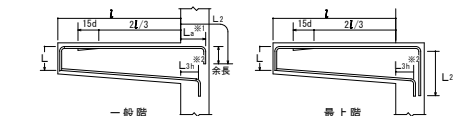
建設局建築部営繕課

計2025年3月

図面NO.

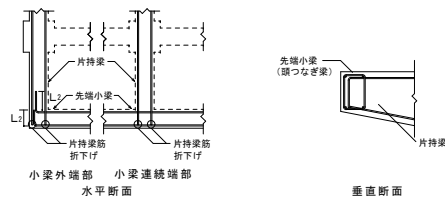
S-02

鉄筋工事仕様書 No. 2

2. 片持梁主筋の定着及び余長
1) 先端に小梁のない場合

- (注)
1. 印は、余長位置を示す。
 2. 先端の折曲げ長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
 3. 図示のない事項は、大梁の項による。
- ※1. L_1 の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- ※2. L_2 を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

2) 先端に小梁がある場合



- (注)
1. 図示のない場合は、先端に小梁のない場合の項による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

壁及びその他の配筋

1. 壁の基準配筋
1) 壁の基準配筋は下図による。

種 別	縦筋及び横筋	断 面 図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

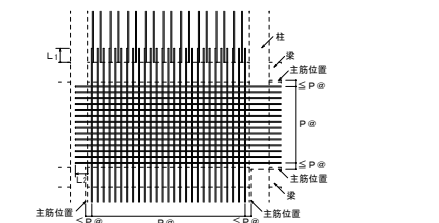
(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

2) 片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋は下図による。
片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種 別	縦筋及び横筋	断 面 図 (mm)	階段の配筋種別
KW1	縦 筋 D13-200@ タ ダ ル 横 筋 D10-200@ タ ダ ル	180	K A 1 K A 3
KW2	縦 筋 D13-150@ ダ ル 横 筋 D10-200@ ダ ル	200	K A 2 K A 4

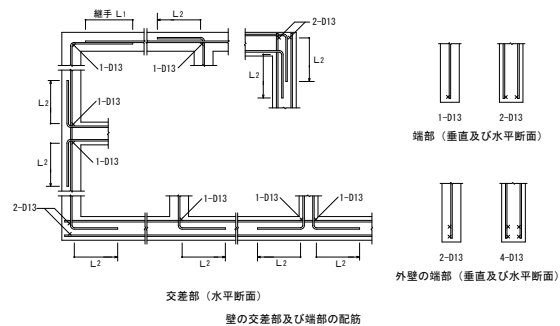
(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

2. 壁の継手及び定着



- (注)
1. 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
 2. 壁配筋の重ね継手は L_1 、定着長さは L_2 とする。
 3. 幅止め筋は、縦横ともD10～1,000@程度とする。
 4. 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはけない。

3. 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

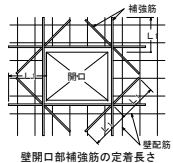


4. 壁開口部の補強

1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形又はB形とする。

壁開口部補強筋 (A形)		壁開口部補強筋 (B形)	
壁 の 種 別	補 強 筋	壁 の 種 別	補 強 筋
W12, W15	縦 横 1-D13	W12, W15	縦 横 1-D13
W18, W20	2-D13	W18, W20	4-D13

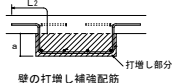
2) 壁開口部補強筋の定着長さは、下図による。



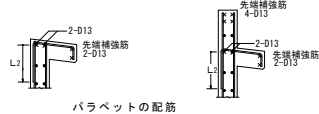
3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

5. 壁の打増し補強配筋

壁の打増し厚さ (a) が50mm以上の場合の補強を示す



6. バラベットの配筋

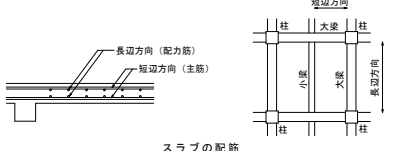


スラブの配筋

1. スラブの基準配筋
1) スラブの基準配筋

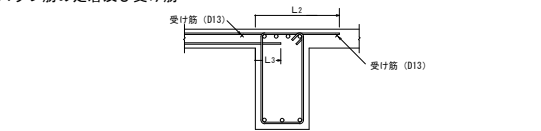
スラブの基準配筋			
配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8
S 2	同 上	D13-150@	S 9
S 3	同 上	D10, D13-150@	S 10
S 4	D13-150@	D13-150@	S 11
S 5	同 上	D10, D13-150@	S 12
S 6	同 上	D10-150@	S 13
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S 14

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

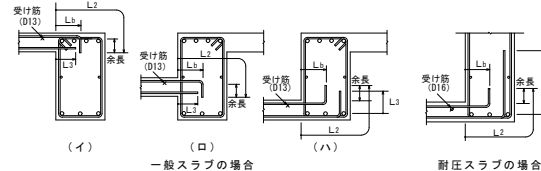


1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは、 L_1 とする。

2. スラブ筋の定着及び受け筋



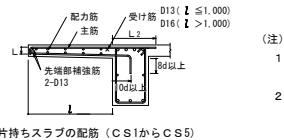
スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)



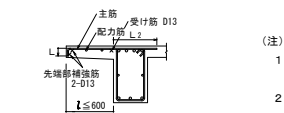
スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

3. 片持ちスラブの基準配筋
1) 片持ちスラブの基準配筋

片持ちスラブの基準配筋	
配筋種別	主 筋
CS1	上 D13-100@ 下 D13-200@
CS2	上 D13-150@ 下 D13-300@
CS3	上 D10, D13-150@ 下 D10, D13-300@
CS4	上 D10, D13-200@ 下 D10-200@

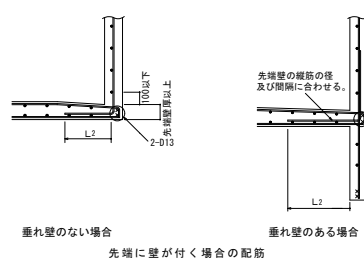
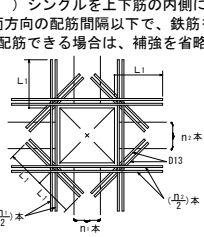


片持ちスラブの配筋 (CS1からCS5)

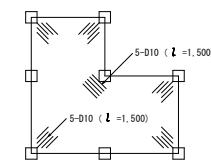


片持ちスラブの配筋 (CS6及びCS7)

4. 先端に壁が付く場合の配筋は、下図による。

5. スラブ開口部の補強 (スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合に限る。)
1) スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($L_1 \geq 2L_2$) シングルを上下筋の内側に配筋する。
2) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

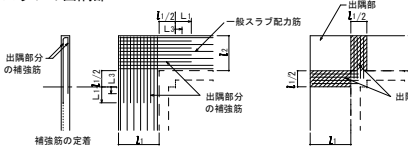
スラブ開口部の補強配筋

6. 出隅部及び入隅部の補強
1) 屋根スラブの出隅部及び入隅部

補強筋を上端筋の下側に配置する。

出隅及び入隅部の補強配筋

2) 片持ちスラブの出隅部

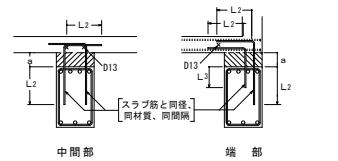


- (注) 1. $L_1 \geq L_2$ とする。 (注) 1. $L_1 \geq L_2$ とする。

2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に L_1 定着する。

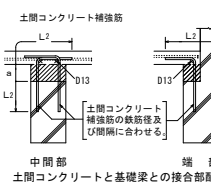
出隅部分の補強配筋

片持ちスラブ出隅部の補強配筋

7. スラブの打継ぎ補強等
1) 土間スラブの打継ぎ補強

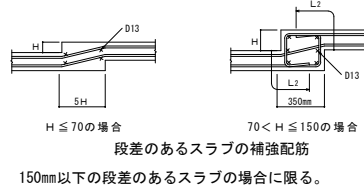
(注) 基礎梁と土間スラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



- (注) 1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. a が300mm以下の場合に限る。

8. 段差のあるスラブの補強

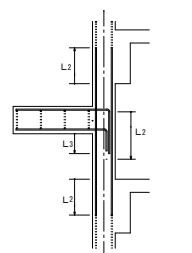


150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

階段の配筋

1. 片持ちスラブ形階段
片持ちスラブ形階段の基準配筋は、下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

配筋種別	K A 1	K A 2
配筋図		
配筋種別	K A 3	K A 4
配筋図		



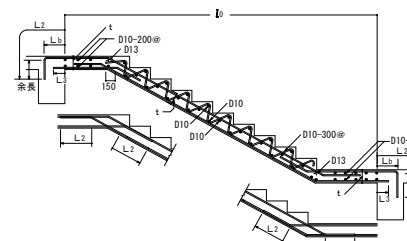
片持ちスラブ形階段配筋の定着

- (注)
1. 壁配筋は、片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋による。
 2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦におろす。
 3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、【鉄筋の定着長さ】の L_1 とする。

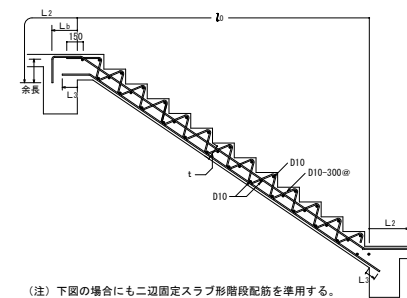
2. 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋

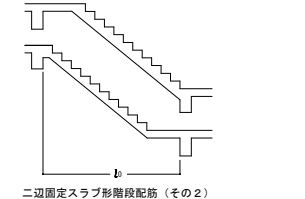
配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)	配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
K B 1	D13-200@	K B 5	D16-150@
K B 2	D13-150@	K B 6	D16-125@
K B 3	D13-100@	K B 7	D16-100@
K B 4	D13, D16-150@		



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

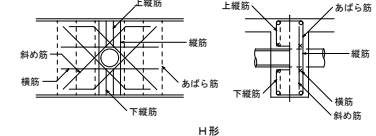


二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

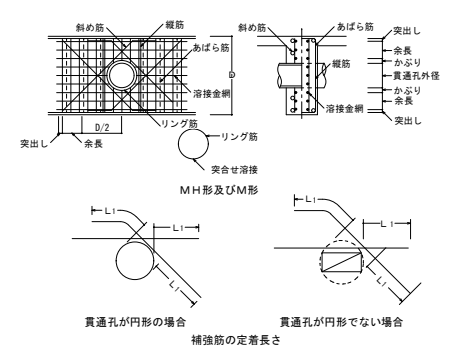
梁貫通孔及びその他の配筋

1. 梁貫通孔の配筋

- 1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。
- 2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- 3) 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。
- 8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋は貫通孔の中心とする。



H形



2. 梁貫通孔の補強形式

配筋種別	斜め筋	縦 筋	横 筋	上下筋	配 筋 図
H 1	なし	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

M形配筋

配筋種別	縦 筋	溶接金網	配 筋 図
M 1	2-2-D13	なし	
M 2	4-2-D13	なし	
M 3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M 4	6-2-D13	2-6φ-100@	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

MH形配筋

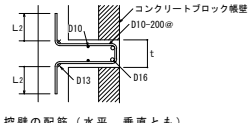
配筋種別	斜め筋	縦 筋	溶接金網	配 筋 図
MH 1	なし	なし	なし	
MH 2	2-2-D13	なし	なし	
MH 3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH 7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

- (注)
1. 大底認定による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。

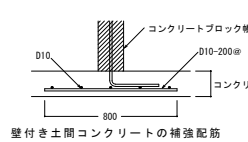
3. コンクリートブロック帳壁との取合い

1) 控壁の配筋



控壁の配筋 (水平、垂直とも)

2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強



壁付土間コンクリートの補強配筋

工事名称	福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事	
図面名称	鉄筋工事仕様書 No. 2	
藤岡建築設計室 広島県知事登録第22(1)0411 一級建築士登録第198584号 藤岡良造 福山市御幸町中津原1967-アレジデンス御幸3F TEL084-955-7437		2025年3月
福山市	建設局建築部営繕課	S-03

鉄骨工事仕様書 No. 2

9. 溶接部の形状・寸法

項 目	図	限界値
① ダイヤフラムとフランジのずれ		$t_1 \geq t_2$: $e \leq t_1/5$ かつ $e \leq 4\text{mm}$ $t_1 < t_2$: $e \leq t_1/4$ かつ $e \leq 5\text{mm}$
② 突合せ継手の食違い		$t \leq 15\text{mm}$: $e \leq 1.5\text{mm}$ $t > 15\text{mm}$: $e \leq t/10$ かつ $e \leq 3\text{mm}$ この場合において、通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジは通しダイヤフラムの厚み内で溶接しなければならない。
③ アンダーカット		$e \leq 0.3\text{mm}$ ただし、上記の数値を超過1mm以下の場合は、アンダーカット部分の長さの総和が溶接長の1/10以下であり断面が鋭角的でないものは許容できる。

10. 工作及び組立

名 称	図	管理許容差	限界許容差	測定器具
(1) T継手のすき間 (隅肉溶接)		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	テーパーゲージ 金属製直尺
(2) 重ね継手のすき間		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	テーパーゲージ 金属製直尺
(3) 突合せ継手の食違い		$t \leq 15\text{mm}$: $e \leq 1\text{mm}$ $t > 15\text{mm}$: $e \leq t/15$ かつ $e \leq 2\text{mm}$	$t \leq 15\text{mm}$: $e \leq 1.5\text{mm}$ $t > 15\text{mm}$: $e \leq t/10$ かつ $e \leq 3\text{mm}$	金属製角度直尺 テーパーゲージ 溶接ゲージ
(4) ルート間隔 (裏はつり)		被覆アーク溶接 $0 \leq a \leq 2.5\text{mm}$ サブマージアーク溶接 $0 \leq a \leq 1\text{mm}$ ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接 $0 \leq a \leq 2\text{mm}$	被覆アーク溶接 $0 \leq a \leq 4\text{mm}$ サブマージアーク溶接 $0 \leq a \leq 2\text{mm}$ ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接 $0 \leq a \leq 3\text{mm}$	テーパーゲージ
(5) ルート間隔 (裏当て金あり)		被覆アーク溶接 $\Delta a \geq -2\text{mm}$ ($\theta \geq 35^\circ$) ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接 $\Delta a \geq -2\text{mm}$ ($\theta \geq 35^\circ$) サブマージアーク溶接 $\Delta a \geq -1\text{mm}$ ($\theta < 35^\circ$)	被覆アーク溶接 $\Delta a \geq -3\text{mm}$ ($\theta \geq 35^\circ$) ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接 $\Delta a \geq -3\text{mm}$ ($\theta \geq 35^\circ$) サブマージアーク溶接 $\Delta a \geq -2\text{mm}$ ($\theta < 35^\circ$)	境界ゲージ テーパーゲージ
(6) ルート面		被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接 裏当て金なし $\Delta a \leq 2\text{mm}$ 裏当て金あり $\Delta a \leq 1\text{mm}$ サブマージアーク溶接 $\Delta a \leq 2\text{mm}$	被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接 裏当て金なし $\Delta a \leq 3\text{mm}$ 裏当て金あり $\Delta a \leq 2\text{mm}$ サブマージアーク溶接 $\Delta a \leq 3\text{mm}$	コンベックス ルール 金属製直尺
(7) ベベル角度		$\Delta \theta \geq -2.5^\circ$ ($\theta \geq 35^\circ$) $\Delta \theta \geq -1^\circ$ ($\theta < 35^\circ$)	$\Delta \theta \geq -5^\circ$ ($\theta \geq 35^\circ$) $\Delta \theta \geq -2^\circ$ ($\theta < 35^\circ$)	溶接ゲージ
(8) 開先角度		$\Delta \theta_1 \geq -5^\circ$ $\Delta \theta_2 \geq -2.5^\circ$ ($\theta \geq 35^\circ$) $\Delta \theta_2 \geq -1^\circ$ ($\theta < 35^\circ$)	$\Delta \theta_1 \geq -10^\circ$ $\Delta \theta_2 \geq -5^\circ$ ($\theta \geq 35^\circ$) $\Delta \theta_2 \geq -5^\circ$ ($\theta < 35^\circ$)	境界ゲージ
(9) 切断面のあらし		開 先 内 $100 \mu\text{mRz}$ 以下 自由縁端 $100 \mu\text{mRz}$ 以下	開 先 内 $100 \mu\text{mRz}$ 以下 自由縁端 $100 \mu\text{mRz}$ 以下	対比試験片
(10) 切断面のノッチ深さ		開 先 内 $d \leq 0.5\text{mm}$ 自由縁端 $d \leq 0.5\text{mm}$	開 先 内 $d \leq 1\text{mm}$ 自由縁端 $d \leq 1\text{mm}$	溶接ゲージ
(11) 切断線の直角度		$t \leq 40\text{mm}$: $e \leq 1\text{mm}$ $t > 40\text{mm}$: $e \leq t/40$ かつ $e \leq 1.5\text{mm}$	$t \leq 40\text{mm}$: $e \leq 1.5\text{mm}$ $t > 40\text{mm}$: $e \leq 1.5t/40$ かつ $e \leq 2\text{mm}$	金属製角度直尺 テーパーゲージ 溶接ゲージ 直角定規
(12) 仕口のずれ		$t \geq t_1$: $e \leq 2t/15$ かつ $e \leq 3\text{mm}$ $t < t_1$: $e \leq t/6$ かつ $e \leq 4\text{mm}$	$t \geq t_1$: $e \leq t/5$ かつ $e \leq 4\text{mm}$ $t < t_1$: $e \leq t/4$ かつ $e \leq 5\text{mm}$	コンベックス ルール テーパーゲージ 測定治具 金属製直尺
(13) 溶接組立て部材端部の不ぞろい		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	金属製角度直尺 直角定規 コンベックス ルール 金属製直尺

11. 高力ボルト

名 称	図	管理許容差	限界許容差	測定器具
(1) 孔の心ずれ		$e \leq 1\text{mm}$	$e \leq 1.5\text{mm}$	コンベックス ルール 金属製直尺 検定用型板
(2) 孔相互の間隔		$-1\text{mm} \leq \Delta P \leq +1\text{mm}$	$-1.5\text{mm} \leq \Delta P \leq +1.5\text{mm}$	コンベックス ルール 金属製直尺
(3) 孔の食違い		$e \leq 1\text{mm}$	$e \leq 1.5\text{mm}$	コンベックス ルール 直角定規 貫通ゲージ
(4) 高力ボルト接合部の肌すき		$e \leq 1\text{mm}$	$e \leq 1\text{mm}$	テーパーゲージ
(5) 孔のはしあき・へりあき		$\Delta a_1 \geq -2\text{mm}$ $\Delta a_2 \geq -2\text{mm}$ かつ「鋼構造設計規準」「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」の最小縁端距離を満足すること。	$\Delta a_1 \geq -3\text{mm}$ $\Delta a_2 \geq -3\text{mm}$ かつ「鋼構造設計規準」「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」の最小縁端距離を満足すること。	コンベックス ルール 金属製直尺

12. 溶接

名 称	図	管理許容差	限界許容差	測定器具
(1) 隅肉溶接のサイズ		$0 \leq \Delta S \leq 0.8S$ かつ $\Delta S \leq 5\text{mm}$	$0 \leq \Delta S \leq 0.8S$ かつ $\Delta S \leq 8\text{mm}$	溶接ゲージ 境界ゲージ

(2) 隅肉溶接の余盛の高さ Δa		$0 \leq \Delta a \leq 0.4S$ かつ $\Delta a \leq 4\text{mm}$	$0 \leq \Delta a \leq 0.6S$ かつ $\Delta a \leq 6\text{mm}$	溶接ゲージ
(3) 完全溶込み溶接突合せ継手の余盛の高さ Δh		$B < 15\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 3\text{mm}$ $15\text{mm} \leq B < 25\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 4\text{mm}$ $25\text{mm} \leq B$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 4\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq 4B/25\text{mm}$	$B < 15\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 5\text{mm}$ $15\text{mm} \leq B < 25\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 6\text{mm}$ $25\text{mm} \leq B$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 6\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq 6B/25\text{mm}$	溶接ゲージ 境界ゲージ
(4) 完全溶込み溶接角継手の余盛の高さ Δh		$B < 15\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 3\text{mm}$ $15\text{mm} \leq B < 25\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 4\text{mm}$ $25\text{mm} \leq B$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 4\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq 4B/25\text{mm}$	$B < 15\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 5\text{mm}$ $15\text{mm} \leq B < 25\text{mm}$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 6\text{mm}$ $25\text{mm} \leq B$ ($h=0\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 6\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq 6B/25\text{mm}$	溶接ゲージ 境界ゲージ
(5) 完全溶込み溶接T継手 (裏当て金あり) の余盛の高さ Δh		$t \leq 40\text{mm}$ ($h=t/4\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 7\text{mm}$ $t > 40\text{mm}$ ($h=10\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 7\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq t/4 - 3\text{mm}$	$t \leq 40\text{mm}$ ($h=t/4\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 10\text{mm}$ $t > 40\text{mm}$ ($h=10\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 10\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq t/4\text{mm}$	溶接ゲージ 境界ゲージ
(6) 完全溶込み溶接T継手 (裏はつり) の余盛の高さ Δh		$t \leq 40\text{mm}$ ($h=t/8\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 7\text{mm}$ $t > 40\text{mm}$ ($h=5\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 7\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq t/4 - 3\text{mm}$	$t \leq 40\text{mm}$ ($h=t/8\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 10\text{mm}$ $t > 40\text{mm}$ ($h=5\text{mm}$): $0 \leq \Delta h \leq 10\text{mm}$ $0 \leq \Delta h \leq t/4\text{mm}$	溶接ゲージ 境界ゲージ
(7) アンダーカット		完全溶込み溶接 $e \leq 0.3\text{mm}$ 前面隅肉溶接 $e \leq 0.3\text{mm}$ 側面隅肉溶接 $e \leq 0.5\text{mm}$ ただし、上記の数値を超過0.7mm以下の場合は、溶接長300mm当り総長さが30mm以下かつ1箇所以下の長さが3mm以下。	完全溶込み溶接 $e \leq 0.5\text{mm}$ 前面隅肉溶接 $e \leq 0.5\text{mm}$ 側面隅肉溶接 $e \leq 0.8\text{mm}$ ただし、上記の数値を超過1mm以下の場合は、溶接長300mm当り総長さが30mm以下かつ1箇所以下の長さが5mm以下。	アンダーカット ゲージ 対比試験片
(8) 突合せ継手の食違い		$t \leq 15\text{mm}$: $e \leq 1\text{mm}$ $t > 15\text{mm}$: $e \leq t/15$ かつ $e \leq 2\text{mm}$	$t \leq 15\text{mm}$: $e \leq 1.5\text{mm}$ $t > 15\text{mm}$: $e \leq t/10$ かつ $e \leq 3\text{mm}$	金属製角度直尺 テーパーゲージ 溶接ゲージ 測定治具
(9) 仕口のずれ		$t \geq t_1$: $e \leq 2t/15$ かつ $e \leq 3\text{mm}$ $t < t_1$: $e \leq t/6$ かつ $e \leq 4\text{mm}$	$t \geq t_1$: $e \leq t/5$ かつ $e \leq 4\text{mm}$ $t < t_1$: $e \leq t/4$ かつ $e \leq 5\text{mm}$	コンベックス ルール テーパーゲージ 測定治具 金属製直尺
(10) ビード表面の不整		ビード表面の凹凸の高低差 e_1 (ビード長さ方向)、 e_2 (ビード幅方向) は溶接の長さ、またはビード幅25mmの範囲で2.5mm以下。 ビード幅の不整 e_3 は溶接の長さ150mmの範囲で5mm以下。	ビード表面の凹凸の高低差 e_1 (ビード長さ方向)、 e_2 (ビード幅方向) は溶接の長さ、またはビード幅25mmの範囲で4mm以下。 ビード幅の不整 e_3 は溶接の長さ150mmの範囲で7mm以下。	溶接ゲージ 金属製直尺 コンベックス ルール テーパーゲージ
(11) ビット		溶接長300mm当り1個以下。ただし、ビットの大きさが1mm以下のものは3個を1個として計算する。	溶接長300mm当り2個以下。ただし、ビットの大きさが1mm以下のものは3個を1個として計算する。	ルーペ
(12) 割れ		溶接金属割れ クラック クラック クラック	あてはまらない。	-
(13) オーバーラップ		-	著しいものは認めない。	-
(14) スタッド溶接後の仕上がり高さ ΔL 、 θ		$-1.5\text{mm} \leq \Delta L \leq +1.5\text{mm}$ $\theta \leq 3^\circ$	$-2\text{mm} \leq \Delta L \leq +2\text{mm}$ $\theta \leq 5^\circ$	金属製直尺 境界ゲージ コンベックス ルール

13. 溶接継手の種類別開先標準

1. 突合せ継手

(1) 突合せ継手 (B) の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	A (サブマージアーク自動溶接)
1 (片面溶接)	1 (片面溶接)
2 (両面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

(2) T形継手 (T) の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	A (サブマージアーク自動溶接)
1 (片面溶接)	1 (片面溶接)
2 (両面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

(3) かど継手 (L) の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	A (サブマージアーク自動溶接)
1 (片面溶接)	1 (片面溶接)
2 (両面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 19$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

2. 隅肉溶接

(1) 隅肉溶接 (F) の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	A (サブマージアーク自動溶接)
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 16$	$t \leq 16$
$16 < t \leq 40$	$16 < t \leq 40$

(2) 隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	6	7	8	9	10	10	11	12	13	14	15	17	19	21	24		

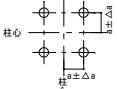
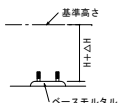
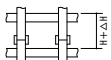
14. 鉄骨工事精度

1. 製品

名 称	図	製作管理許容差	限界許容差	備 考
(1) 梁の長さ		$-3\text{mm} \leq \Delta L \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \Delta L \leq +5\text{mm}$	
(2) 柱の長さ		$H < 10\text{m}$: $-3\text{mm} \leq \Delta H \leq +3\text{mm}$ $H \geq 10\text{m}$: $-4\text{mm} \leq \Delta H \leq +4\text{mm}$	$H < 10\text{m}$: $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ $H \geq 10\text{m}$: $-6\text{mm} \leq \Delta H \leq +6\text{mm}$	
(3) 階高		$-3\text{mm} \leq \Delta h \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \Delta h \leq +5\text{mm}$	

名 称	図	製作管理許容差	限界許容差	備 考
(4) 梁の曲り		$e \leq \frac{L}{1000}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq \frac{1.5L}{1000}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	
(5) 柱の曲り		$e \leq \frac{H}{1500}$ かつ $e \leq 5\text{mm}$	$e \leq \frac{H}{1000}$ かつ $e \leq 8\text{mm}$	
(6) せ い ΔD		$D < 800\text{mm}$: $-2\text{mm} \leq \Delta D \leq +2\text{mm}$ $D \geq 800\text{mm}$: $-3\text{mm} \leq \Delta D \leq +3\text{mm}$	$D < 800\text{mm}$: $-3\text{mm} \leq \Delta D \leq +3\text{mm}$ $D \geq 800\text{mm}$: $-4\text{mm} \leq \Delta D \leq +4\text{mm}$	
(7) 幅 ΔB		$-2\text{mm} \leq \Delta B \leq +2\text{mm}$	$-3\text{mm} \leq \Delta B \leq +3\text{mm}$	
(8) 溶接組立箱形断面の直角度		接合部 $e \leq D/100$ かつ $e \leq 2\text{mm}$ 一般部 $e \leq 2D/100$ かつ $e \leq 4\text{mm}$	接合部 $e \leq 3D/200$ かつ $e \leq 3\text{mm}$ 一般部 $e \leq 3D/100$ かつ $e \leq 6\text{mm}$	
(9) H形断面の直角度		接合部 $e \leq b/100$ かつ $e \leq 1\text{mm}$ 一般部 $e \leq 2b/100$ かつ $e \leq 2\text{mm}$	接合部 $e \leq 3b/200$ かつ $e \leq 1\text{mm}$ 一般部 $e \leq 3b/100$ かつ $e \leq 2\text{mm}$	
(10) ウェブの心ずれ		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	
(11) ウェブの曲り		$e_1 \leq D/150$ かつ $e_1 \leq 4\text{mm}$ $e_2 \leq L/150$ かつ $e_2 \leq 4\text{mm}$ ただし、 $t \leq 6$ には適用しない	$e_1 \leq D/100$ かつ $e_1 \leq 6\text{mm}$ $e_2 \leq L/100$ かつ $e_2 \leq 6\text{mm}$ ただし、 $t \leq 6$ には適用しない	
(12) 仕口部の角度		$e_1, e_2 \leq L/300$ かつ $e_1, e_2 \leq 3\text{mm}$ $e_1 \leq 4\text{mm}$	$e_1, e_2 \leq L/200$ かつ $e_1, e_2 \leq 5\text{mm}$ $e_1 \leq 6\text{mm}$	
(13) 仕口部の長さ ΔL		$-3\text{mm} \leq \Delta L \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \Delta L \leq +5\text{mm}$	
(14) 柱のねじれ δ		$\delta \leq \frac{8D}{1000}$ かつ $\delta \leq 5\text{mm}$	$\delta \leq \frac{9D}{1000}$ かつ $\delta \leq 8\text{mm}$	
(15) メタルタッチ		$e \leq \frac{1.5D}{1000}$	$e \leq \frac{2.5D}{1000}$	
(16) ベースプレートの折れおよび凹凸		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	

2. 工事現場

名 称	図	製作管理許容差	限界許容差	備 考
(1) 建物の倒れ e		$e \leq H/4000 + 7\text{mm}$ かつ $e \leq 30\text{mm}$	$e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$	
(2) 建物のわん曲 e		$e \leq L/4000$ かつ $e \leq 20\text{mm}$	$e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25\text{mm}$	
(3) アンカーボルトの 位置のずれ e		$-3\text{mm} \leq e \leq +3\text{mm}$ $-3\text{mm} \leq e \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq e \leq +5\text{mm}$ $-5\text{mm} \leq e \leq +5\text{mm}$	構造用 アンカーボルト 建方用 アンカーボルト
(4) 柱据え付け面の 高さ ΔH		$-3\text{mm} \leq \Delta H \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$	
(5) 工事現場縦手階の 階高 ΔH		$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$	$-8\text{mm} \leq \Delta H \leq +8\text{mm}$	
(6) 梁の水平度 e		$e \leq L/1000 + 3\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq L/700 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	
(7) 柱の割れ e		$e \leq \frac{H}{1000}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq \frac{H}{700}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	

Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社
耐火補強筋不要仕様 [耐火認定FP060FL-0099, 0100, 0101, 0102, 0126, FP120FL-0127用]

Q Lデッキ合成スラブリ設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、Q Lデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設計

材料/デッキプレート [ISO 9001認証取得]

Table with 3 columns: デッキプレート種類, 板厚(mm), 表面処理. It details specifications for QL99-50 and QL99-75, including surface treatments like epoxy primer and fire-resistant coatings.

材料/コンクリート

Table with 2 columns: 種類, 設計基準強度. It specifies concrete grades (e.g., 24, 28) and deck thicknesses (e.g., 60, 70, 80 mm).

材料/溶接金網・異形鉄筋

Table with 2 columns: 溶接金網, 異形鉄筋. It lists specifications for welded wire mesh (JIS G 3551) and deformed bars (JIS G 3112, 3117).

接合

Table with 2 columns: 梁との接合, 接合方法. It describes connection methods for beams, including using reinforcement bars and welding.

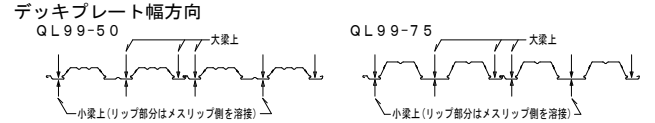
耐火

Table with 5 columns: デッキプレート, 耐火区分, 支持条件, コンクリート種別, 耐火補強筋. It provides fire resistance ratings and reinforcement requirements for different deck types.

特記

Table with 2 columns: 支保工有無, その他. It notes the presence of shoring and other specific conditions.

焼抜き栓溶接



デッキプレートスパン方向

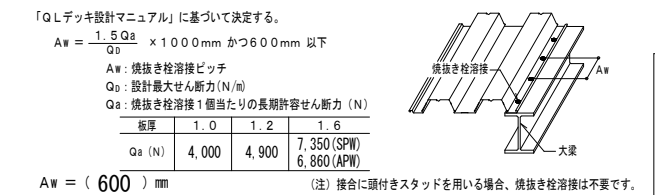
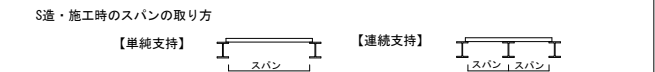


Table titled '■施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)'. It provides allowable span tables for different deck types (QL50, QL75) under various conditions.



耐火仕様

○共通事項 支持梁: 鉄骨梁、コンクリート: 設計基準強度18~36 N/mm²の普通コンクリート
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117] 寸法は下表参照
耐火補強筋: 不要

【QL99-50】

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for QL99-50.

【QL99-75】

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for QL99-75.

【FP060FL-0100 (床1時間耐火)】

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP060FL-0100.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP060FL-0101.

【FP060FL-0102 (床1時間耐火)】

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP060FL-0102.

【FP060FL-0099 (床1時間耐火)】

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP060FL-0099.

【FP120FL-0127 (床2時間耐火)】

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

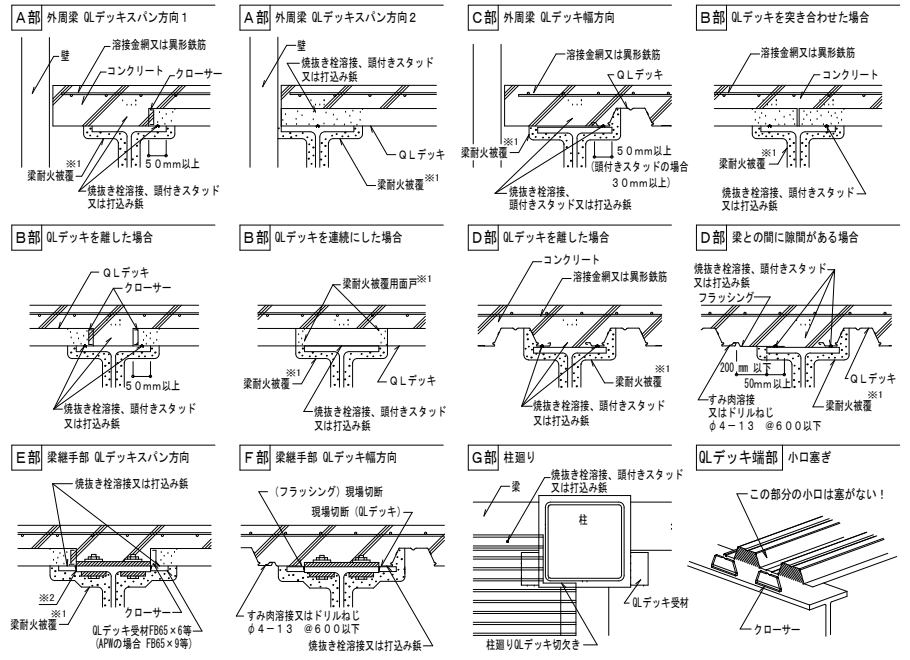
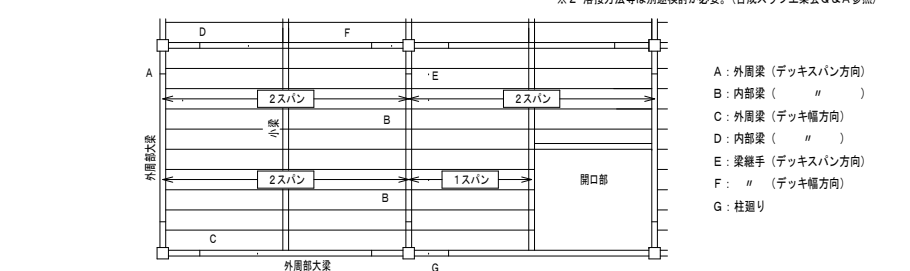
Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

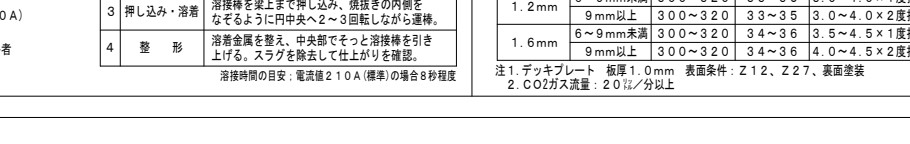
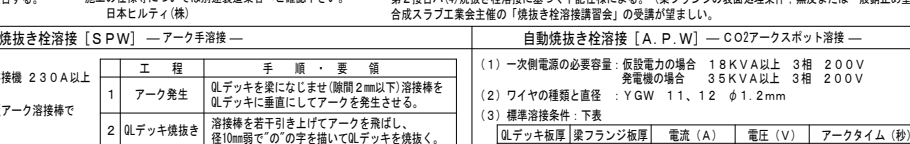
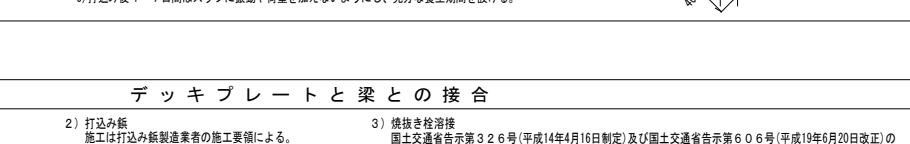
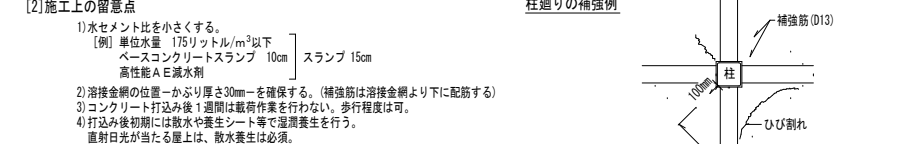
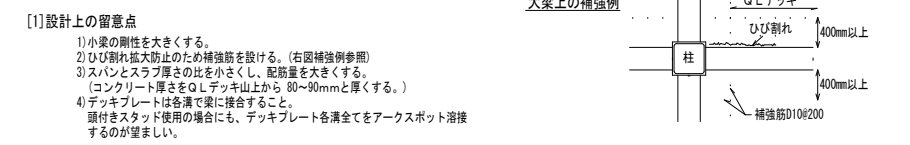
Table with 6 columns: デッキプレート品名, 支持形式, 支持スパン, コンクリート厚さ, 許容積載荷重, 溶接金網または異形鉄筋. It details specifications for FP120FL-0127.

標準納まり

支持梁: 鉄骨梁

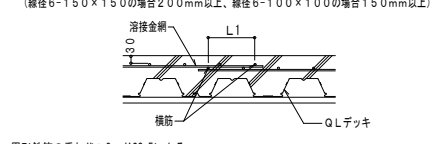


(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

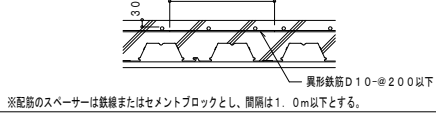


スラブリの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。
溶接金網の重ね代L1: 1メッシュと50mm以上、且つ150mm以上
(縦径6-150×150の場合200mm以上、縦径6-100×100の場合150mm以上)

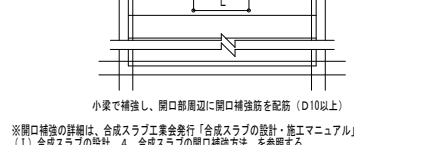
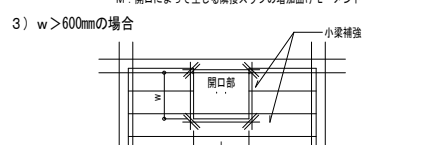
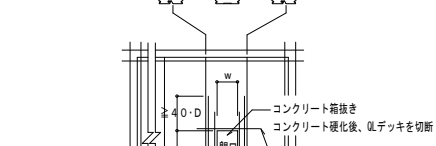
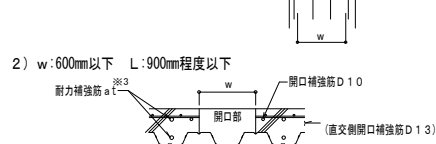
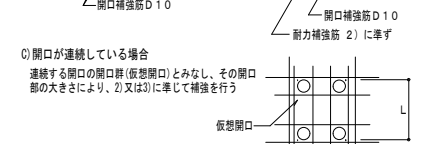
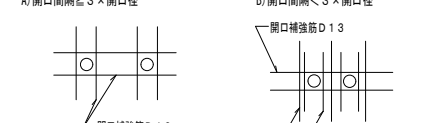


異形鉄筋の重ね代L2: JASS 5による
例) Fc18 SD295の場合、45D以上



開口部補強案

1) 開口がφ150mm程度の場合
A) 開口間隔≧3×開口径 B) 開口間隔<3×開口径



※3 耐力補強筋 所要断面積a_t= M / (f_t × l)
M: 開口によって生じる隣接スラブリの増加曲げモーメント

3) w>600mmの場合
※開口補強の詳細は、合成スラブリ業会発行「合成スラブリの設計・施工マニュアル」(1) 合成スラブリの設計、4 合成スラブリの開口補強方法を参照する。

検査

Table with 2 columns: 検査項目, 検査方法. It details inspection items and methods for the slab reinforcement.

その他の納まり・参考例等については、Q Lデッキ施工マニュアルまたは別途「納まり図」(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

1. 一般事項

- ①本工法は、本「設計施工標準仕様書」による。
- ②杭仕様は杭材を記載した部材標準寸法を基準とし、その他は本「設計施工標準仕様書」による。
- ③載荷試験を行う場合は、「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成22年度版:4-2-3」による。
- ④上記による他は、施工計画書による。

2. アルファフォースパイルの適用範囲

(1) 国土交通大臣認定工法と適用範囲 (表 1)

項 目		国土交通大臣認定工法
認定番号	TACP-0240 国住指第1284-1号 平成18年10月26日	TACP-0241 国住指第1285-1号 平成18年10月26日
認定をした構造方法等の名称	アルファフォースパイル工法 先端地盤：砂質地盤(礫質地盤を含む)	アルファフォースパイル工法 先端地盤：粘土質地盤
適用する地盤の種類	基礎杭の先端地盤： 砂質地盤(礫質地盤を含む)	基礎杭の先端地盤：粘土質地盤
	基礎杭の周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤	
試験方法	標準貫入試験	
α値	α=3.00	
β値	β=2.0	
γ値	γ=0.2	
先端平均N値	9 ≤ N ≤ 46とし、 N > 46の時はN=46とする	5 ≤ N ≤ 42とし、 N > 42の時はN=42とする
最大施工深さ	杭施工地盤面から13000(D0：杭軸部径)以下	
	軸部径D0(mm) 89.1 101.6 114.3 139.8 165.2 190.7 216.3 267.4	
適用する建築物の規模	最大施工深さ(m) 11.50 13.20 14.80 18.10 21.40 24.70 28.10 34.70	
	床面積の合計が50,000㎡以下の建築物	

3. アルファフォースパイルの標準寸法

(1) 基礎杭の構造

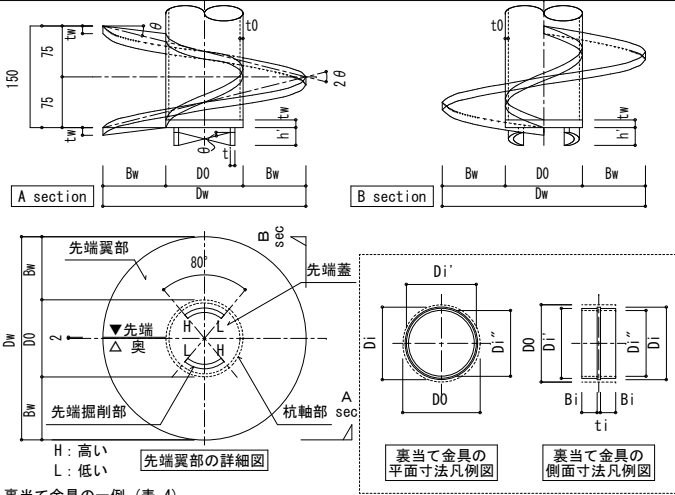
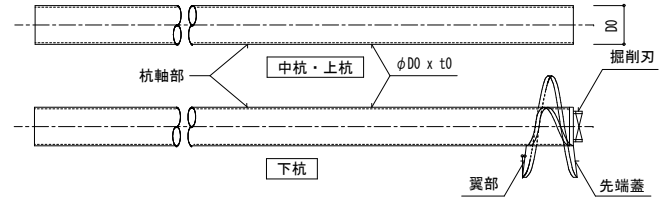
アルファフォースパイルで使用する杭材の材質は、下記の杭材の材質(表 2)による。

部 位	材 質
軸 部	JIS G 3444 一般構造用炭素鋼管 STK400等、平成12年国土交通省告示第2464号に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管で基準強度が 235N/mm ² 以上。
翼部及び先端蓋	JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材 SS400、或いは、JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材 SM490A。 この他、平成12年国土交通省告示第2464号に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼材で基準強度がSS400或いは、SM490Aと同等以上。
掘削刃	JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材 SS400、平成12年国土交通省告示第2464号に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼材で基準強度が 235N/mm ² 以上。

(2) 基礎杭の形状寸法

部材標準寸法 (表 3)											
本体軸部(STK400)		先端翼部					先端掘削刃(SS400)			上限N値	
軸部径 D0 (mm)	軸部厚 t0 (mm)	先端 翼径 Dw (mm)	先端翼厚 tw (mm)	SM490	張出長 Bw (mm)	角度 θ (度)	ピッチ (mm)	半径 r (mm)	高さ h (mm)	厚さ t (mm)	
φ89.1	4.2	φ250.0	9	9	80.5	16.7	150	30	15	9	20
φ101.6	4.2	φ275.0	9	9	86.7	15.3	150	38	16	9	20
φ114.3	4.5	φ300.0	12	9	92.9	14.0	150	45	17	9	30
					192.9	8.5			10		8
φ139.8	6.6	φ350.0	14	12	105.1	12.1	150	51	17	9	30
			19	16					46		46
φ165.2	5.0	φ400.0	14	12	117.4	10.6	150	57	17	12	20
			22	19					46		46
φ190.7	5.3	φ450.0	19	16	129.7	9.5	150	70	18	12	30
			25	22					46		46
φ216.3	5.8	φ500.0	22	19	141.9	8.5	150	83	18	12	30
			28	25					46		46
φ267.4	6.0	φ600.0	22	28	166.3	7.1	150	95	18	16	30
											46

※ 本体軸部厚は、上記以外に汎用品より選択可能です。

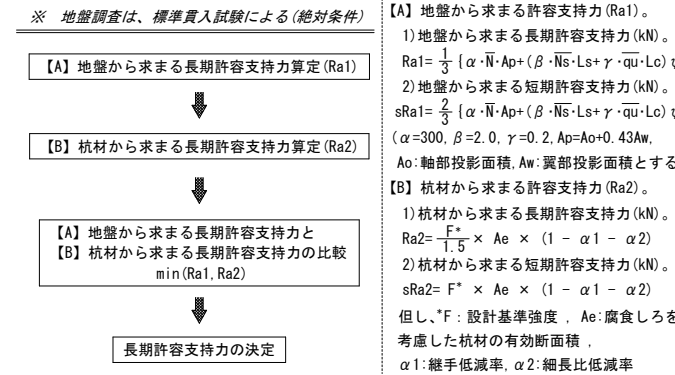


裏当て金具の一例 (表 4)

軸部径 D0 (mm)	軸部厚 t0 (mm)	Di (mm)	Di' (mm)	Di'' (mm)	Bi (mm)	ti (mm)
φ89.1	4.2	82.7	78.7	72.7	22.5	5.0
φ101.6	4.2	95.2	91.2	85.2	22.5	5.0
φ114.3	4.5	107.3	103.3	97.3	22.5	5.0
		6.0	104.3	100.3		
φ139.8	6.6	132.8	128.8	122.8	22.5	5.0
		6.6	128.6	124.6		
φ165.2	5.0	157.2	153.2	147.2	22.5	5.0
		7.1	153.0	149.0		
φ190.7	5.3	182.1	178.1	172.1	22.5	5.0
		6.0	180.7	176.7		
φ267.4	7.0	217.8	213.8	207.8	22.5	5.0
		7.0	217.4	213.4		

4. アルファフォースパイルの支持力

(1) 長期許容支持力の算定手順(フロー図)



(2) 許容支持力の算定式

【A】地盤から求まる許容支持力(Ra1)。
Ra1 = $\frac{1}{3} \{ \alpha \cdot \bar{N} \cdot A_p + (\beta \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \gamma \cdot \bar{q}_u \cdot L_c) \}$
2) 地盤から求まる短期許容支持力(kN)。
sRa1 = $\frac{2}{3} \{ \alpha \cdot \bar{N} \cdot A_p + (\beta \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \gamma \cdot \bar{q}_u \cdot L_c) \}$
(α=300, β=2.0, γ=0.2, Ap=Ao+0.43Aw, Ao:軸部投影面積, Aw:翼部投影面積とする)

【B】杭材から求まる許容支持力(Ra2)。
1) 杭材から求まる長期許容支持力(kN)。
Ra2 = $\frac{F_u}{1.5} \times A_e \times (1 - \alpha_1 - \alpha_2)$
2) 杭材から求まる短期許容支持力(kN)。
sRa2 = $F_u \times A_e \times (1 - \alpha_1 - \alpha_2)$
但し、F:設計基準強度、Ae:腐食しろを考慮した杭材の有効断面積、α1:継手低減率、α2:細長比低減率

【A】地盤から求まる許容支持力と
【B】杭材から求まる許容支持力の比較
min(Ra1, Ra2)

(3) アルファフォースパイル工法の支持力

アルファフォース工法の支持力は「【A】地盤から求まる許容支持力」と「【B】杭材から求まる許容支持力」の内、小さい方の値を採用する。

5. アルファフォースパイルの施工

- (1) 施工業者 ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-25~26)を参照。
本工法の施工は、「アルファフォースパイル工法技術協会」が認定する指定施工会社が行う。
- (2) 施工計画書 ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-29)を参照。
施工に先立ち設計者、元請業者と協議の上、施工計画書を作成しこれに基づき工事を実施する。
施工計画書には次項を記載する。
①工事概要(工事場所・施主・工期・杭仕様・設計支持力・数量)、②現場案内図、③工程表、④アルファフォースパイル工法概要、⑤施工手順、⑥施工管理項目、⑦地盤調査結果、⑧杭伏図、⑨施工記録表、⑩施工機械、⑪安全管理基準、⑫作業員名簿、⑬指定施工会社認定証。
- (3) 準備工事
アルファフォースパイル工法を施工する会社は、事前に施工現場及び周辺の状況を調査し、工事を安全かつ円滑に進めるために必要な処置を行う。次に、設計図書や現場状況などに基づき施工機械を選定し、アルファフォースパイルを指定工場に発注する。なお、施工機は現場搬入前に整備・点検と試運転を行う。主な準備工事の項目を以下に示す。
① 機械の搬入に支障が無い様に、道路及び交通状況、法的規定など調査し搬入計画を検討する。

- ② 近隣住民に対する環境保全のための調査を行い、対策を検討する。
- ③ 電線などの地上障害物、ガス管、地下ケーブルなどの地中埋設物の障害がある場合は事前に所轄の管理者と打合わせを行い、撤去、移設等の処置を行う。
- ④ 貫入場所の表土に障害物がある場合は、杭施工前に撤去する。
- ⑤ 搬入された杭材の材質、杭軸部径、杭軸部厚、杭長、先端翼部径、先端翼部厚を施工計画書と照合する。また、杭軸部と先端翼については変形が生じていない事を確認する。
- ⑥ 杭は製品検査に合格したものを運搬する。杭の輸送と荷降し時に損傷が生じない様に注意をする。搬入された杭の保管は、作業に支障がない様に仮置きする。仮置きは3段以下の積み重ねとし、荷崩れなどにより杭の損傷が生じない様に注意をする。
- ⑦ 施工現場が軟弱な地盤や雨水により軟弱化する恐れのある地盤では、施工機械と地耐力を検討し、敷鉄板などによる地盤補強対策を行う。
- ⑧ 杭芯は管理者立ち会いのもとで位置の確認を行い、杭施工前に逃げ杭(鉄筋棒)を打ておく。

- (4) 試験杭 ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-29)を参照。
試験杭は本杭に先立って施工する。試験杭の施工位置は、基本的に土層構成が明らかなボーリング調査実施地点の近傍とし、掘削機の油圧抵抗値又は回転トルクとボーリング調査データとを照合して施工データと土層構成の関係を把握する。また、施工管理装置で所定深度の油圧抵抗値又は回転トルクを把握し、本杭の打ち止め管理値を設定する。
なお、試験杭の本数は杭径、施工機械種毎に少なくとも1本ずつ実施する。

- (5) 杭の建て込み
① 杭芯に杭をセットし、ズレ確認をする。
② 杭の吊り込みは、杭先端翼部が損傷あるいは変形をしない様に留意して行う。
③ 杭の建て込みについては、杭本体の垂直度を直角2方向から本体の水平器等によって確認を行う。鉛直に対する傾斜を各方向とも1/100 以内とする。

- (6) 杭の回転貫入
① 杭芯に杭をセットした後に回転貫入を開始する。杭の回転貫入中は、杭体の垂直度に注意し、直角2方向から水平器等によって確認する。
② 油圧記録計又は回転トルク計によって、油圧抵抗値又は回転トルクの計測、記録を行う。
*中間層が貫入不能の場合、また地中障害物等が必要と判断した場合には、先行掘削を行う。

- (7) 打ち止め管理
① 試験杭は、最初に施工する杭を試験杭とし、油圧抵抗値又は回転トルクを計測しながら設計深度まで回転貫入する。油圧抵抗値又は回転トルクを地盤柱状図と比較し、支持層への貫入が確認出来たら、計測結果に基づいて打ち止め管理値(油圧抵抗値又は回転トルク)を設定する。支持層の確認が出来ない場合は、設計者と協議を行う。設計深度に到達する前に貫入不能となり、支持層への貫入確認が出来ない場合も設計者と協議を行う。
② 本杭は、油圧抵抗値又は回転トルクを計測しながら設計深度まで回転貫入し、油圧抵抗値又は回転トルクが試験杭により設定した打ち止め管理値以上で打ち止めとする。
設計深度に到達する前に貫入不能となった場合、油圧抵抗値又は回転トルクが打ち止め管理値に満たない場合は、設計者と協議を行う。

- (8) 継手の施工
1) 継杭の垂直度
下杭の頭部を清掃して裏当て金物を取り付ける。上杭を下杭にセットした後、垂直度は水平器等により直角2方向から確認する。
2) 鋼管の継手溶接
継手の溶接方法は、JISA5525-1994(鋼管杭)、JISA7201(遠心カコンクリート杭の施工標準)に準じた溶接継手を原則とする。

- ① 溶接作業可能な位置で貫入を止め、裏当て金具を介して接続する側の杭の鉛直性と密着具合を確認し、全周アーク溶接を行う。溶接部に付着したゴミ、汚れ等はワイヤブラシ、グラインダ等で十分に除去し、水分がある場合は乾燥させる。
溶け込みが十分になるような溶接電流、溶接電圧及び溶接速度を確認し、使用する溶接方法及び条件に適した溶接棒によって欠陥のない溶接を行う。
降雨、降雪時や、10m/sec 以上の強風が吹いている場合は、原則として溶接を行わない。但し、溶接部が天候の影響を受けないような処置を施す場合はこの限りでない。
気温が+5℃以下の時は溶接を行わない。但し、気温が+5℃から-10℃の場合で溶接部から100mm 以内の部分全て+36℃以上に予熱されている場合は差し支えない。

- ② 溶接材料は、手溶接による溶接棒は、JISZ3211(軟鋼用被覆アーク溶接棒)の合格品とする。半自動溶接による溶接ワイヤは、JISZ3312(軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッソワイヤ)又は、JISZ3313(軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ)の合格品とする。
- ③ 溶接工は、JISZ3801、JISZ3841に定められた試験に合格した者、又は、労働安全衛生法アーク溶接の特別教育を終了し、継続して杭の溶接作業に従事している者とする。
- ④ 溶接検査と対策は、溶接部分に割れやアンダーカット等がない事を目視にて確認する。
重大な欠陥を発見した時は、その部分を完全に除去し、再溶接する。
- ⑤ 裏当て金具の一例を(表 4)に示す。

- (9) 杭頭処理 ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-43)を参照。
①杭は基礎にのみ込ませる場合と、のみ込ませない場合がある。
②杭頭の杭芯ズレは、±100mm以内かつ基礎幅以内とする。
③杭頭処理は、杭頭レベルが所定レベルに対し0~+50mmとなる様に切断を行う。

(10) 施工管理の方法(表 5) ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-44)を参照。

工 程	管理項目	管理方法	管理基準及び管理値
杭材の受入れ	杭の仕様	納品書確認、施工計画書確認、試験杭の寸法確認	杭径・杭長・杭の許容ねじり強さ・先端翼部の寸法・数量及び材質等を施工計画書と照合
準備工事	施工機の搬入掘え付け地盤	施工機確認掘え付け地盤の補強	---

先行掘削(※)	先行掘削長	レベル等により確認	杭先端深度より10w以上上部までで施工計画書の数値
杭の建て込み	杭芯ずれ	直角2方向の逃げ芯の設置等により確認	杭芯の偏心量±30mm以内
	杭の垂直度	水平器等により直角2方向から確認	傾斜1/100以内
杭の回転貫入	油圧抵抗値、又は回転トルク	回転貫入時の油圧記録計又は、回転トルク計により確認	地盤調査データとの照合杭体の短期許容ねじり強さ以下
継手の施工	継ぎ杭の垂直度	水平器等により直角2方向から確認	傾斜1/100以内
	溶接状態	目視確認	溶接部に汚れなどない事異常なアンダーカット、割れ等が無い事
	溶接工	資格証の確認	有資格者による施工
打ち止め	設置深さ	レベル等により確認	設計深度に達している事所定杭頭レベル±50mm以内
	油圧抵抗値、又は回転トルク	打ち止め時の油圧記録計又は、回転トルク計により確認	管理値以上
	杭芯ずれ	直角2方向の逃げ芯の設置等により確認	杭芯の偏心量±100mm以内

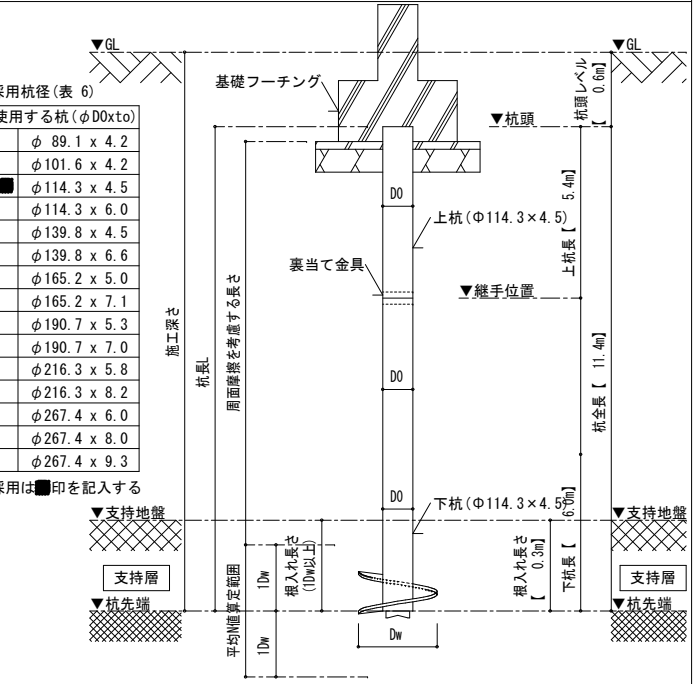
※ 先行掘削は必要な場合のみ行う。

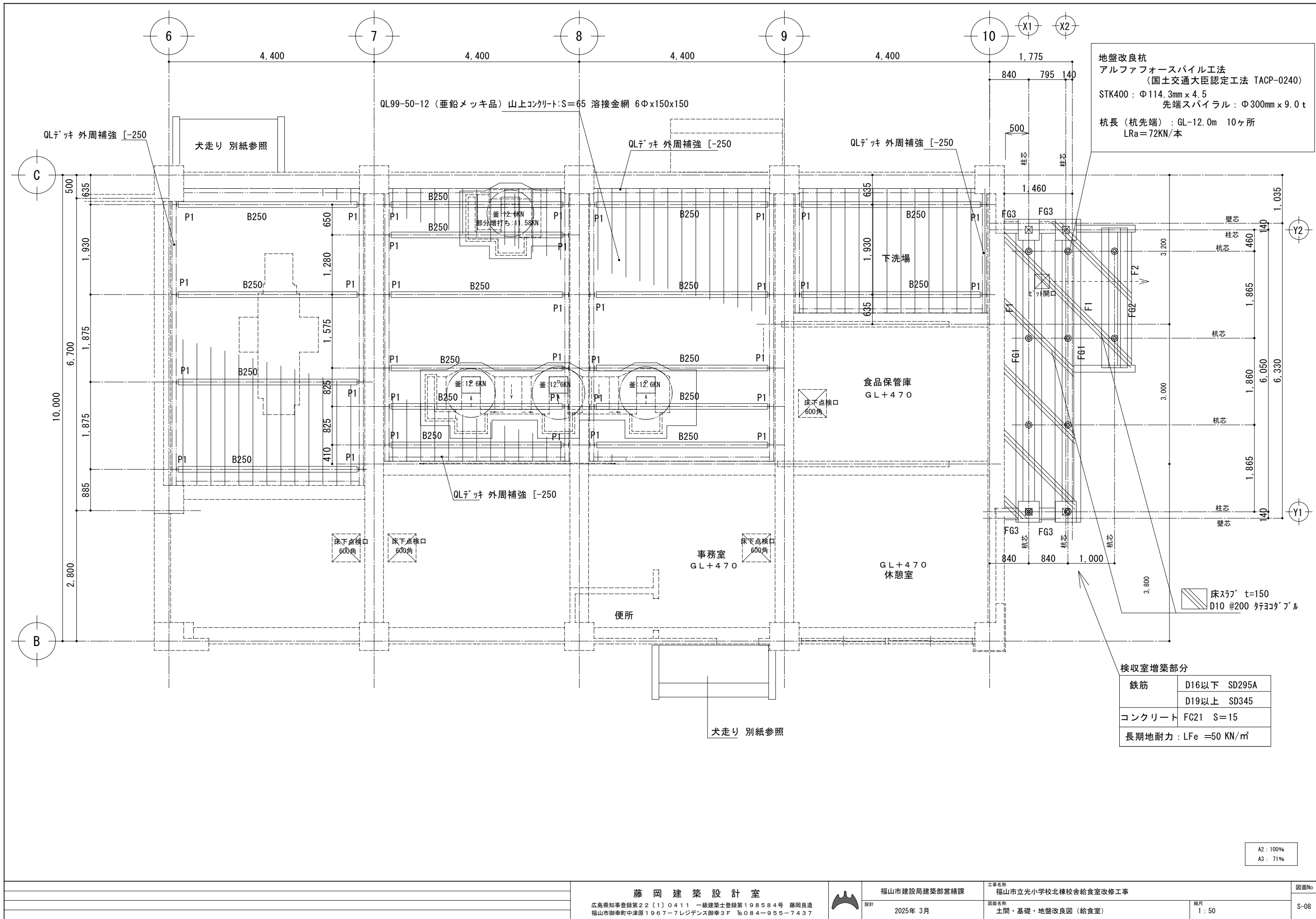
- (11) 施工記録と施工報告書 ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-47)を参照。
施工した全ての杭について施工状況を記録して、下記の項目に関する施工報告書を作成する。
①工事名、②施工場所、③施工年月日、④杭仕様・数量、⑤施工会社名、⑥施工機械、⑦調査データ、⑧施工記録表、⑨油圧抵抗値又は、回転トルク値(数値又はグラフ)、⑩施工写真。
- (12) 施工機械 ※「アルファフォースパイル工法」技術資料(別添-10~11)を参照。
施工に使用する機械は鋼管を鉛直に設置し、且つ所定の回転力を確保するために施工場所の環境条件に適合するものを用いる。
施工機械は杭打ち機本体(クローラ機、ラフタークレーン)、リーダー(一部無い機械もある)、回転駆動装置(油圧モータ)、回転機(回転チャック、回転ロッド等)で構成される。

6. アルファフォースパイルの杭心間隔と基礎のへりあき

- (1) 杭心間隔と基礎のへりあき
杭心間隔 A = 杭先端翼径(Dw)x2.0倍。
基礎のへりあき B = 杭軸部径(D0)x1.25倍。
D0: 杭軸部径、Dw: 杭先端翼径
※ Bは、施工誤差±100mmを考慮して決定する。
- (2) フーチング寸法例
A: 杭心間隔、B: 基礎のへりあき、D0: 杭軸部径、Dw: 杭先端翼径

7. アルファフォースパイルの杭長【寸法記入】

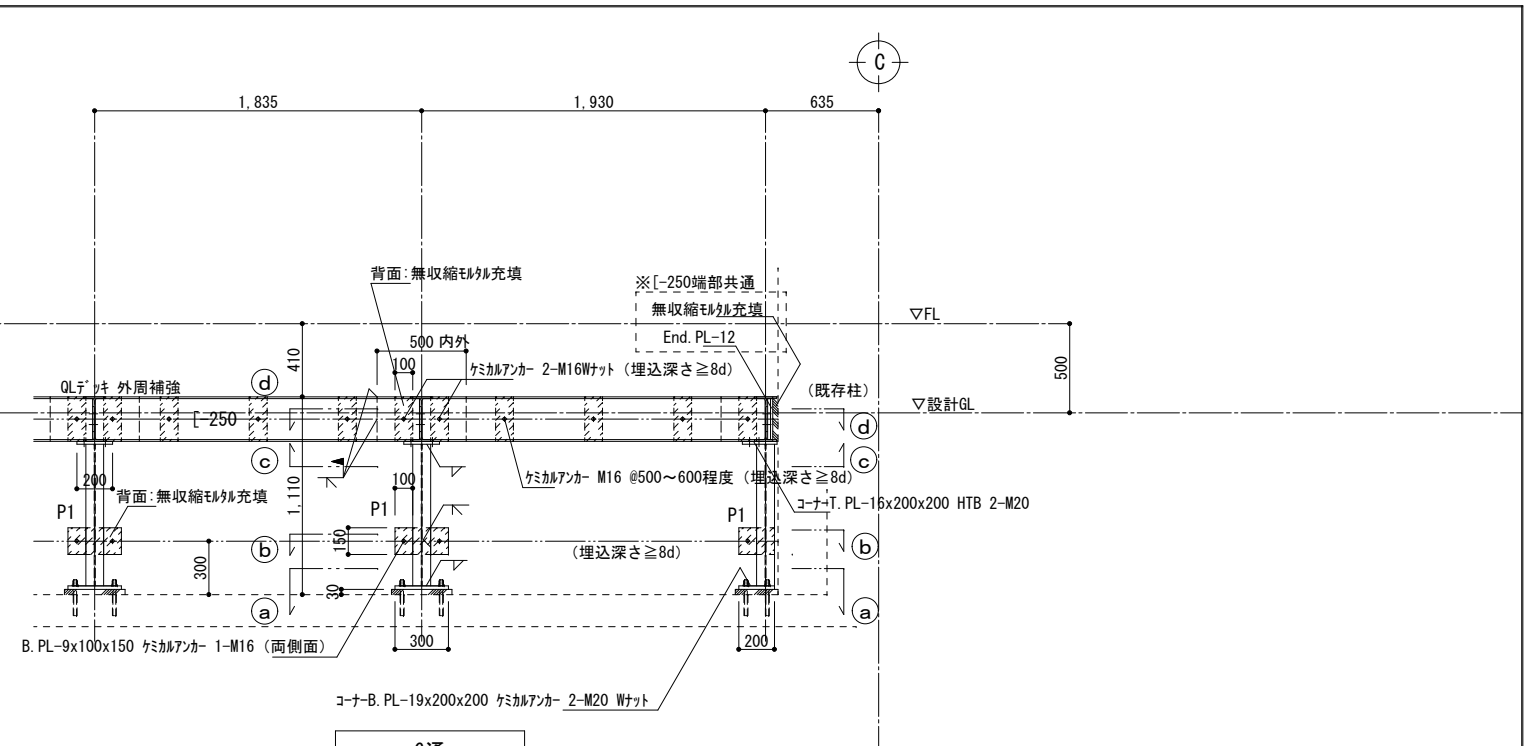




地盤改良杭
アルファフォースパイル工法
(国土交通大臣認定工法 TACP-0240)
STK400 : Φ114.3mm x 4.5
先端スパイラル : Φ300mm x 9.0 t
杭長 (杭先端) : GL-12.0m 10ヶ所
LRa=72KN/本

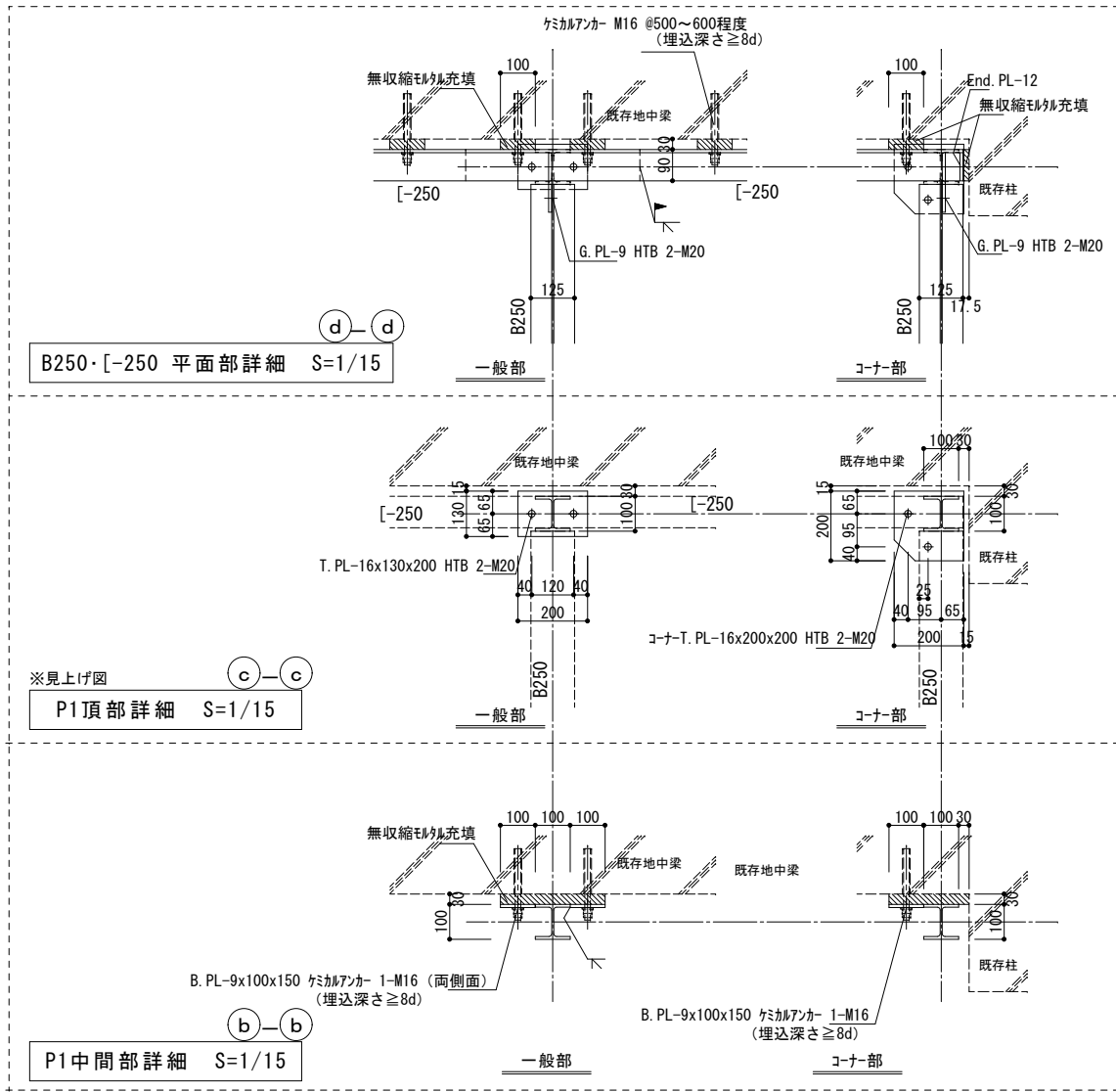
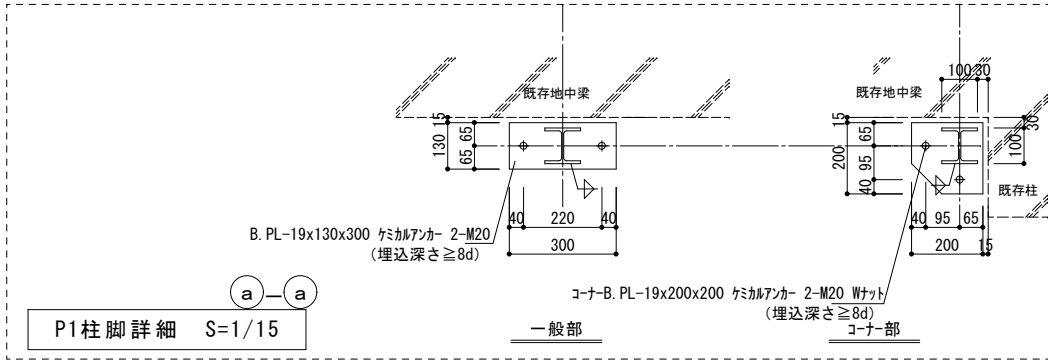
鉄筋	D16以下 SD295A
	D19以上 SD345
コンクリート	FC21 S=15
長期地耐力 : LFe =50 KN/m ²	

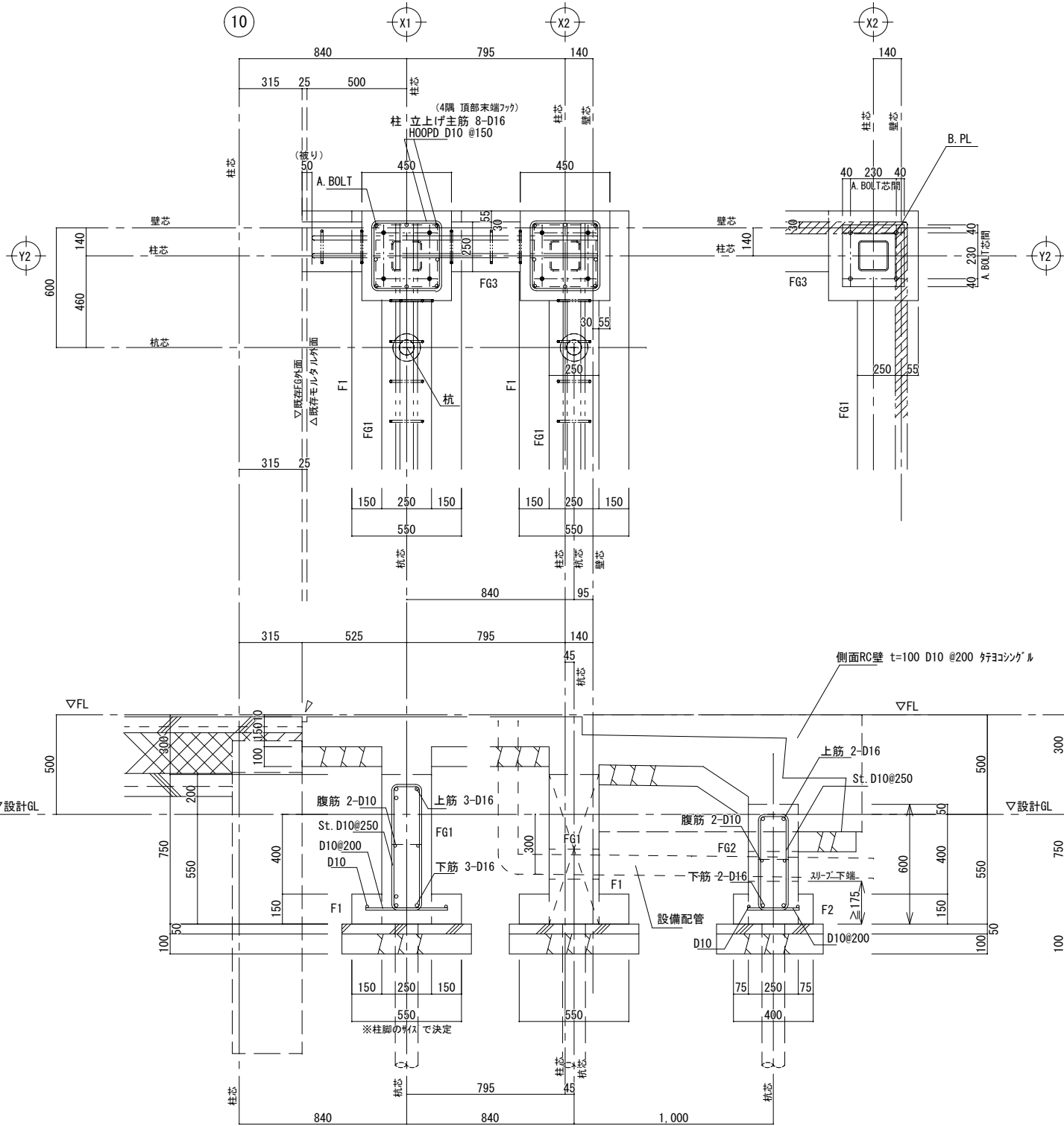
A2 : 100%
A3 : 71%



- | | 符号 | 断面 | ※仕口は下記の他、詳細図による | |
|----|-------|---------------------|-------------------|-------|
| 小梁 | B250 | H-250 × 150 × 6 × 9 | G. PL-9 HTB 2-M20 | SS400 |
| | [-250 | [-250 × 90 × 9 × 13 | 詳細図による | SS400 |
| | P1 | H-100 × 100 × 6 × 8 | 詳細図による | SS400 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

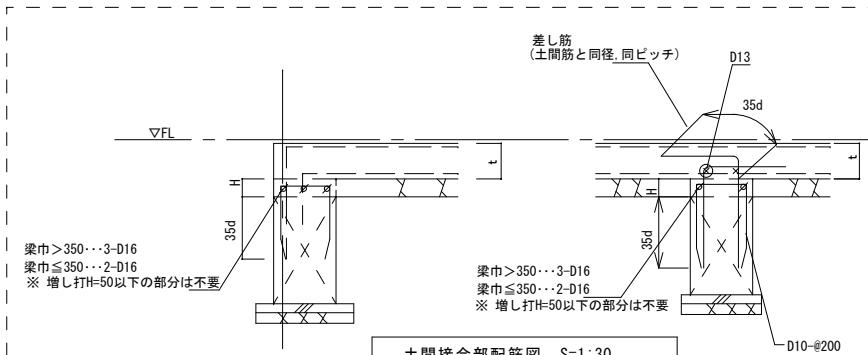
特記（使用材）	
梁、他	SS400
HTB	F10T（S10T可）
中BOLT	スプリングワッシャ
コンクリート	FC21



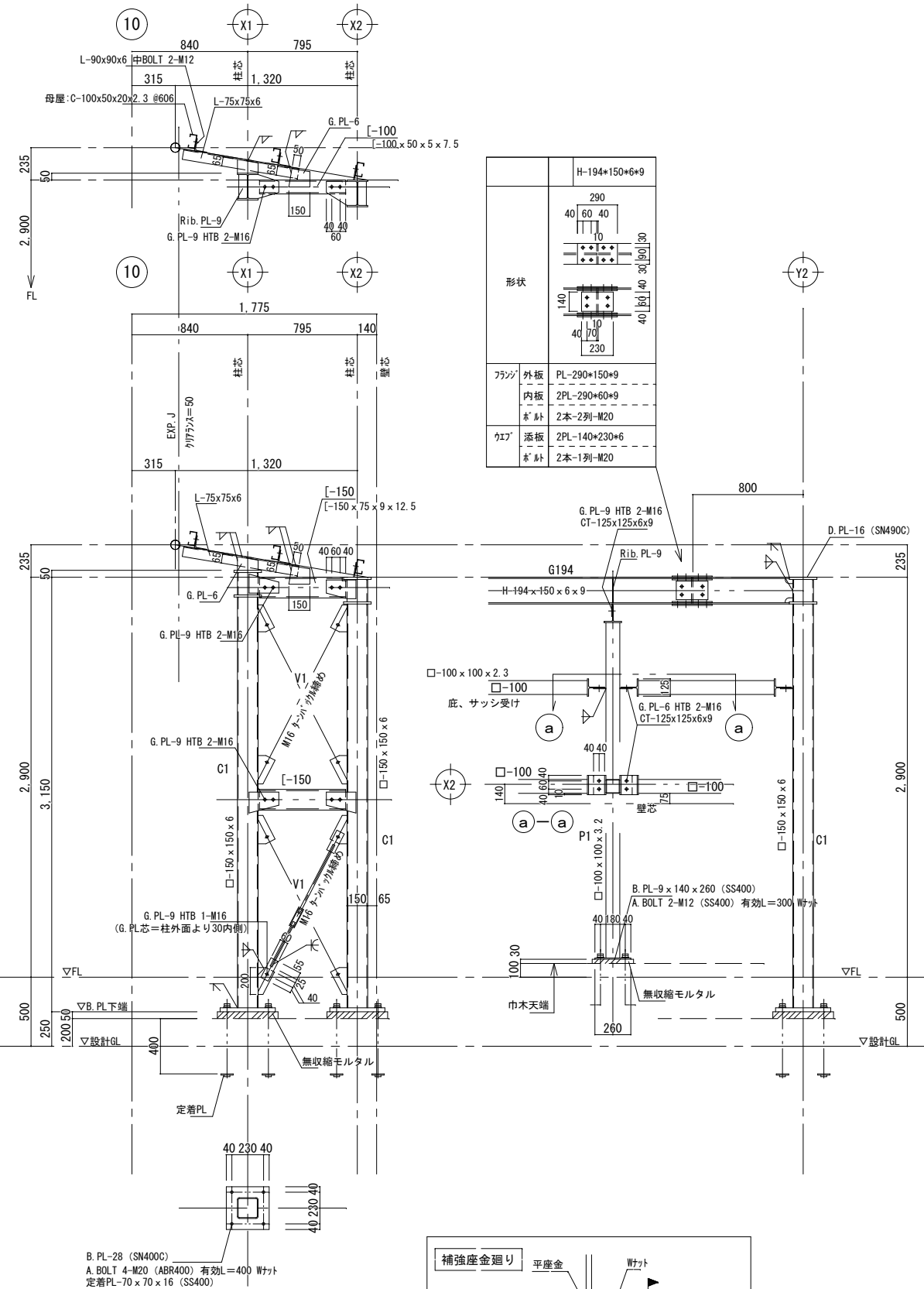


鉄筋	D16以下 SD295A
	D19以上 SD345
コンクリート	FC21 S=15

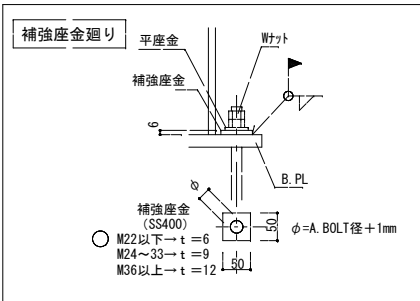
基礎詳細図 S=1/20



土間接合部配筋図 S=1/30



鉄骨詳細図 S=1/30



A2 : 100%
A3 : 71%

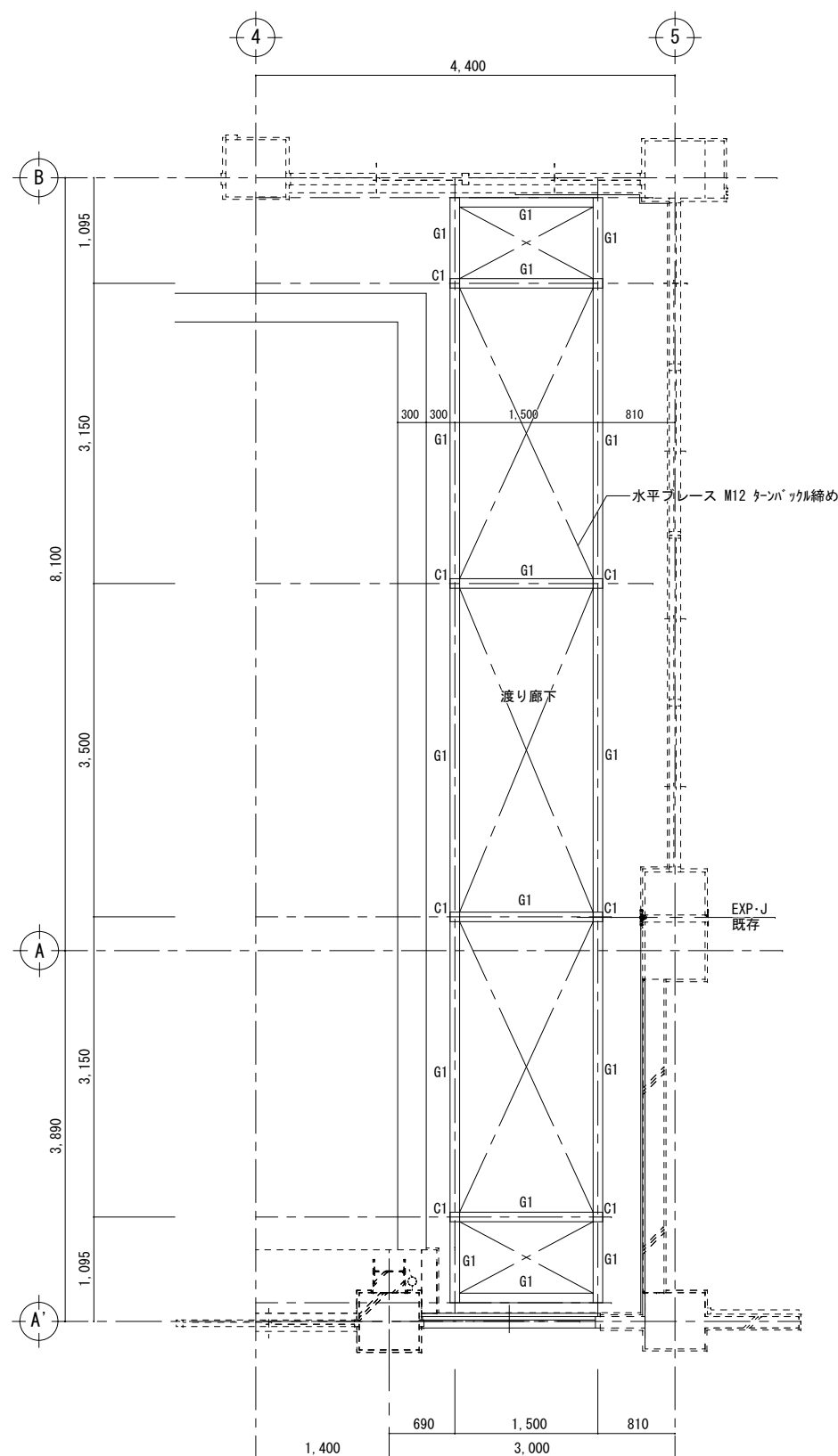
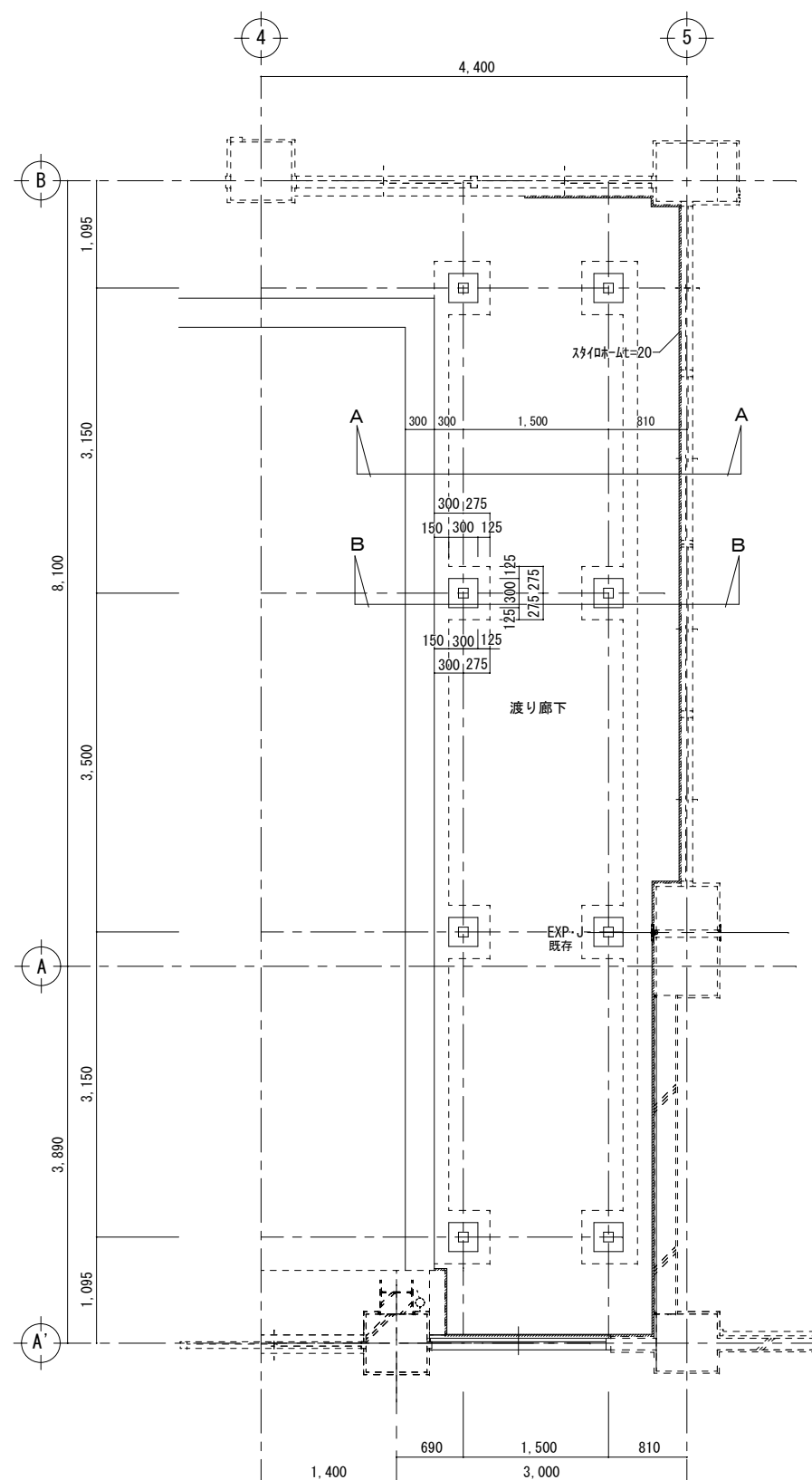


特記（使用材）			
柱、間柱	STKR400	BOLT	F10T(S10T可)
梁、他	SS400 STK400		中BOLT スワリングワッシャ
B. PL	特記による		
B. PL下	無収縮モルタル充填		耐火被覆
ﾀﾞｲﾌﾗﾑ	SN490C (t=16mm未満は SN490B)		
錆止め	JISK5674鉛・クロムフリー錆止塗料		

鉄筋	D16以下 SD295A
	D19以上 SD345
コンクリート	FC21 S=15

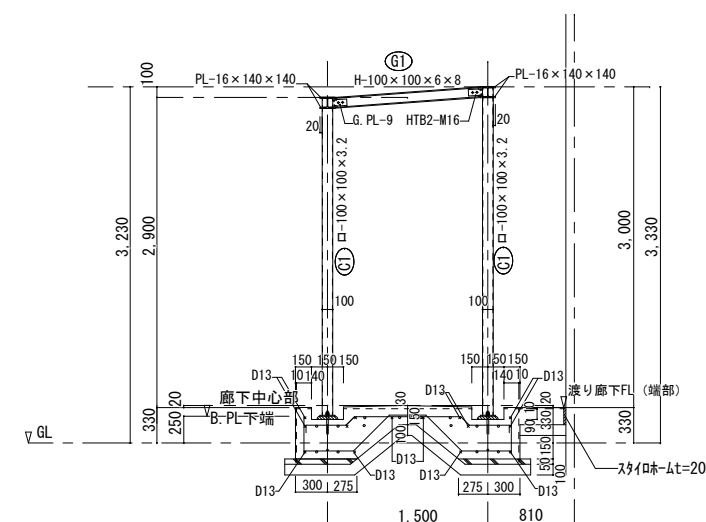
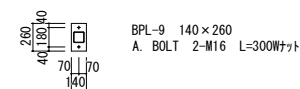
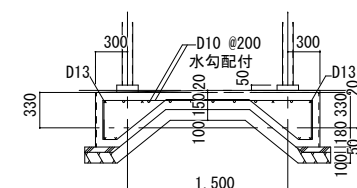
A2 : 100%

A3 : 71%



部 材 リ ス ト		※特記無き鋼材はSS400とする。			
符 号	部 材	取付材			備 考
G1	□-100×100×3.2 (STKR400)	柱脚 柱頭	B. PL-9×140×260 PL-16×140×140	A. BOLT 2-M16 L=300	Wナット、フック付
G1	H-100×100×6×8	フランジ ウェブ	現場溶接 G. PL-9 G. PL-9	HTB 2-M16 HTB 1-M16	
水平ブレース	M12				FB-6×50

※ボルトは令67条-2（縁端距離）・令68条（ボルト孔）の規定に適合しています。
錆び止め：JIS K5674鉛・クロム酸-錆止塗料



参考数量書

§ 工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

§ 工事場所 福山市草戸町四丁目 1 4 番 1 号

特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款 1 条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。

※ 「建築数量積算基準・同解説」 (建築工事積算研究会制定)

設 計 書

工事名称 福山市立光小学校北棟校舎給食室改修工事

工事場所 福山市草戸町四丁目 1 4 番 1 号

【工事概要】
給食室改修工事 275.42㎡
検収室増設工事 9.81㎡
別途工事
電気設備工事
給排水衛生設備工事
空調設備工事
ガス設備工事

名 称	数 量	単位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

[illegible]

給食室内部改修						
名	称	数	量	単位	金 額	備 考
直接仮設		1		式		
土工		1		式		
鉄筋		1		式		
コンクリート		1		式		
鉄骨		1		式		
外壁パネル		1		式		
防水		1		式		
タイル		1		式		
木工		1		式		
屋根及びとい		1		式		
金属		1		式		
左官		1		式		
建具		1		式		
塗装		1		式		
内外装		1		式		
ユニット及びその他		1		式		
渡り廊下		1		式		
部分解体		1		式		
産業廃棄物処分		1		式		
計						

給食室内部改修					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
鉄骨		1	式		
計					
外壁パネル	検収室・その他	1	式		
外壁パネル	リフトホール	1	式		
計					
防水		1	式		
計					
タイル		1	式		
計					
木工		1	式		
計					
屋根及びとい		1	式		

給食室内部改修					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
計					
金属	屋内軽量鉄骨壁天井下地	1	式		
金属	EXP. J	1	式		
金属	金物	1	式		
金属	庇	1	式		
計					
左官		1	式		
計					
建具	アルミ製建具・木製建具	1	式		
計					
塗装		1	式		
計					
内外装		1	式		
計					
ユニット及びその他	ユニット工事	1	式		
ユニット及びその他	その他の工事	1	式		
計					
渡り廊下		1	式		
計					
部分解体	撤去	1	式		

福山市

福 山 市

給食室内部改修 土工						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
根切り	つぼ, 布掘り 深さ2.5m程度	15.9	m ³			
床下防湿層敷き	ポリエチレンフィルム 厚0.15	17.2	m ²			
盛土(B種)	発生土	2.5	m ³			
砂利地業	再生切込碎石	2.6	m ³			
土工機械運搬 (ハックホ)	排出ガス対策型 油圧式クローラ型0.28m ³	1	往復			
スタイロフォーム t=100		195	m ²			
鋼管杭	φ114.3 t4.5 STK490 材工共	120	m			
杭先端加工費	φ300 t9.0	10	か所			
杭先端加工費	チップ加工	1	式			
杭頭処理	材工共	10	か所			
ジョイント費	材工共	10	か所			
重機回送費		1	式			
材料運搬費		1	式			
機械損料		2	日			
バックホウ賃料	0.13m ² 回送費共	1	式			
計						

福山市

福山市

給食室内部改修 鉄骨						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【厨房床下地】						
H型钢	SS400 H-250*125	2.1	t			
H型钢	SS400 H-100*100	0.7	t			
溝型钢	SS400 C-250*90*9	2.8	t			
鋼板	SS400 PL-9	0.7	t			
鋼板	SS400 PL-12	0.1	t			
鋼板	SS400 PL-16	0.2	t			
鋼板	SS400 PL-19	0.3	t			
デッキプレート	QL995012Z12	1.2	t			
スクラップ 控除		0.4	t			
高力ボルト	M20	140	本			
ケミカルアンカー施工費	M20	70	本			
ケミカルアンカー施工費	M16	240	本			
副資材費		7.7	t			
消耗品費		7.7	t			
工場加工組立費		7.7	t			
工場溶接費		7.7	t			
工場錆止め塗装費		7.7	t			
製品検査費		7.7	t			
鉄骨運搬費	場内小運搬共	7.7	t			

給食室内部改修 鉄骨						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
工作図作成費		7.7	t			
現場建方費	重機費共	7.7	t			
現場鉄工費		7.7	t			
現場合番費		7.7	t			
タッチアップ費		7.7	t			
機械器具損料		7.7	t			
諸経費		1	式			
【検収室】						
H型鋼	S400 H-194*150	0.5	t			
H型鋼	S400 H-250*125	0.1	t			
溝型鋼	S400 C-100*50*5	0.1	t			
溝型鋼	S400 C-150*75*6.5	0.1	t			
角形鋼管	STKR400 ロ-100*100*3.2	0.2	t			
角形鋼管	STKR400 ロ-150*150*6	0.5	t			
鋼板	SS400 PL-6	0.1	t			
鋼板	SS400 PL-9	0.2	t			
鋼板	SN400C PL-28	0.1	t			
鋼板	SN490C PL-16	0.1	t			
軽量型鋼	SSC400 C-100*50*2.3	0.2	t			
スクラップ 控除		0.3	t			

給食室内部改修 鉄骨						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
高力ボルト	M20	84	本			
高力ボルト	M16	100	本			
アンカーボルト費	M20	16	本			
アンカーボルト費	M12	6	本			
ブレース費	M12	6	本			
ブレース費	M16	8	本			
副資材費		1.9	t			
消耗品費		1.9	t			
工場加工組立費		1.9	t			
工場溶接費		1.9	t			
工場錆止め塗装費		1.9	t			
製品検査費		1.9	t			
鉄骨運搬費	場内小運搬共	1.9	t			
工作図作成費		1.9	t			
現場建方費	重機費共	1.9	t			
現場鉄工費		1.9	t			
現場合番費		1.9	t			
タッチアップ費		1.9	t			
機械器具損料		1.9	t			
諸経費		1	式			

給食室内部改修 鉄骨						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【リフトホール 外壁下地】						
角形鋼管	STKR400 □-100*100*2.3	0.2	t			
軽量型鋼	SSC400 C-100*50-2.3	0.3	t			
鋼板	SS400 PL-6	0.1	t			
スクラップ 控除		0.1	t			
ボルト・ナット	M12	100	本			
副資材費		0.5	t			
消耗品費		0.5	t			
工場加工組立費		0.5	t			
工場溶接費		0.5	t			
工場錆止め塗装費		0.5	t			
製品検査費		0.5	t			
鉄骨運搬費	場内小運搬共	0.5	t			
工作図作成費		0.5	t			
現場建方費	重機費共	0.5	t			
現場鉄工費		0.5	t			
現場合番費		0.5	t			
タッチアップ 費		0.5	t			
機械器具損料		0.5	t			
諸経費		1	式			

給食室内部改修		外壁パネル		検収室・その他		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
外壁メース	厚60mm フラットパネルW=590	26	m ²			
通り取付下地	材工共 L-65*65*6	9.5	m			
足元取付下地	材工共 L-50*50*6	8.5	m			
開口アンクル取付	材工共 L-50*50*6	8	m			
下地取付ピース		30	個			
メース上部 斜めカット		3	m			
目地変成シリコンコーキング (片面)		26	m ²			
2次防水(外壁部)		26	m ²			
ロックワール充填費		1	式			
機器・器具損料		1	式			
施工図作成費		1	式			
残材処理費 (1カ所集積まで)		1	式			
諸経費		1	式			
CB積み	空洞ブロックC(16) 厚120 材工共	7.5	m ²			
計						

福山市

福 山 市

給食室内部改修 木工						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
構造材	米松 一等	0.18	m ³			
構造材	米松 一等	0.16	m ³			
造作材	集成材（米梅） 90x120x2500	1	本			
造作材	シナ合板 t=5.5	1	枚			
造作材	アツ合板 t=12 1類	4	枚			
造作材	シナ合板 t=5.5	1	枚			
つか立床組	施工手間	9.8	m ²			
畳下床板	施工手間	9.8	m ²			
フローリングポット張り	1等 フナ 厚さ15	3.3	m ²			
アンカーボルト埋込み (B種)	(間柱等) 取付手間D10	22	本			
上がりがまち	90×60 6-45-1 施工手間	2.5	m			
額縁	30×65 6-41-3 施工手間	10.3	m			
防腐・防蟻剤塗り		15.4	m ²			
計						

給食室内部改修 屋根及びとい						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
長尺金属板葺き	瓦棒葺き (A号) t=0.4 カルハリウム塗装銅板 L1700*6500	11.5	m ²			
アスファルトルーフィング敷 940		11.5	m ²			
耐火野地板張り	t=18	11.5	m ²			
屋根立上げ		6.5	m			
軒先唐草	W150 揚裏水切 t=0.4 W=300共	6.5	m			
ケラバ唐草	W150 揚裏水切 t=0.4 W=300共	3.4	m			
軒樋	W=130	6.5	m			
軒樋吊金物	@600	6	か所			
落し口	塩ビ トレン75	1	か所			
堅樋	VP75 (カー)	3	m			
堅樋掘金物		4	か所			
材料運搬費		1	式			
計						

給食室内部改修		金属		屋内軽量鉄骨壁天井下地		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【金属工事】						
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内)ふところ1.5m未満 下地張りなし@300ｲﾝﾁﾄ別途	137	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内)ふところ1.5m未満 下地張りなし@225ｲﾝﾁﾄ別途	81.5	m ²			
天井吊金具	鉄骨母屋部分	8.1	m ²			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)180*180程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	1	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)200*200程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	2	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)315*315程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	2	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)400*300程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	1	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)450*300程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	3	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)450*450程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	6	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)550*300程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	1	か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内)950*300程度 ﾎｰﾄﾞ等切込み共	6	か所			
天井点検口	一般ﾀｲﾌﾟﾌﾙﾐ製内外枠共額縁 450角 裏当てﾌﾗﾝｽ合板5.5共	6	か所			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りあり@450	110	m ²			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし@300	19	m ²			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 ﾚｲﾄｹﾞｰｼﾞ C-65*30*2.3	115	m			
軽量鉄骨壁下地 外壁面	65形 下地張りあり@450	20.5	m ²			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 間仕切同質材	6.3	m			
軽量鉄骨壁下地 外壁面	19形(屋内用)下地張りあり Mﾊﾞｰ直付け@300	15.7	m ²			
軽量鉄骨壁下地 ﾗｲﾆﾝｸﾞ	65形 下地張りあり@450	6.1	m ²			

福山市

福山市

給食室内部改修		金属		金物		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
床見切り	SUSHL t=2.0 W=20*40*20	9.5	m			
ステンレス面台	SUSHL t=1.5 W=150*30*25 L=700	4	か所			
ステンレス面台	SUSHL t=1.5 W=150*30*25 L=1870	1	か所			
ステンレス面台	SUSHL t=1.5 W=150*30*25 L=800	1	か所			
ステンレス面台	SUSHL t=1.5 W=150*30*25 L=1700	1	か所			
ステンレス地流し	SUS # 400 L810*D525*H300	1	か所			
ステンレス地流し	SUS # 400 L1000*D420*H350	2	か所			
ステンレスエプロン掛け +カーポート	3人用 W150*L450*D25 フック3カ所 エプロンカーポート H500*W600*D70～100	1	か所			
ステンレスエプロン掛け +カーポート	5人用 W150*L800*D25 フック5カ所 エプロンカーポート H500*W950*D70～100	5	か所			
ステンレス物干し	SUSHL 吊棒φ25 h=1530 2本 φ60座金 B P L-6*200*150 M12 アンカー 横桟φ38 L=2500	1	か所			
ステンレス枠	SUSHL t=1.5 190*25*2700	1	か所			
ステンレス枠	SUSHL t=1.5 190*25*2700	1	か所			
返却カウンター貼り	SUSHL t=1.2 変則型 W1050+350 (分割) *L2630+800*120* 50曲加工エッジ付	1	か所			
缶類取出し+食品 カウンター貼り	SUSHL t=1.2 W1000 (分割) *655 *120*50曲加工エッジ付	1	か所			
受渡しハッチ貼り	SUSHL t=1.0 棚: W840～1000*L1 850*H54 天井・床: W1000*L4000 下地: ロ-1.6*40*20 ロ-2.3*90*45 ロ-2.3*50*50 CT-75*75*5*7 ロ-75*75*2.3	1	か所			
回転窯 ステンレスグレーチング	CSNB20 750*250 P=15 枠共	1	か所			
回転窯 ステンレスグレーチング	CSNB20 700*250 P=15 枠共	1	か所			
回転窯 ステンレスグレーチング	CSNB20 665*430 P=15 枠共	1	か所			
回転窯 ステンレスグレーチング	CSNB20 655*430 P=15 枠共	1	か所			

福山市

給食室内部改修		金属		庇		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
スビ-禰方杖セツ 600タイ° 4尺2本入		1	か所			
スビ-禰方杖部品 600タイ° 1間〜2間 2本入		1	か所			
スビ-禰長さ 600タイ° 1.5間2〜6 尺		1	か所			
スビ-禰 野縁 関東間3本 入		1	か所			
スビ-禰端部垂木 (上止) 600〜3000 タイ° 4尺		1	か所			
スビ-禰中間垂木 (上止) 600〜3000 タイ° 4尺 (2本入)		1	か所			
スビ-禰組立部品 600連棟上止め 1.5間4尺		1	か所			
スビ-禰ボリカハネル 関東間3枚入 4尺クリアマツ		1	か所			
テラス：ルーフ用縦樋		1	か所			
テラス：92° エルボ°		3	か所			
基本工事代		1	式			
副資材 (ロンク°コーナ・フ°ラク° ・バ°イ°代)		1	式			
諸経費		1	式			
計						

給食室内部改修 左官						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
床コンクリート直均し仕上げ	セルフレベリング材塗り下地	97.2	m ²			
床モルタル塗り	ビニル系床材下地 厚28	103	m ²			
セルフレベリング	t=10 セメント系	118	m ²			
エポキシ樹脂系塗床 防滑仕様	膜厚2.0mm	130	m ²			
壁モルタル塗り	金ごて 内壁 厚20	50.6	m ²			
既存壁補修	下地処理程度	152	m ²			
既存天井補修	下地処理程度	132	m ²			
建具周囲防水 モルタル充填	外部建具	134	m			
天井 結露防止塗材	塗厚 0.9mm	129	m ²			
床天端目地切	目地巾W5*H40	68.4	m			
樹脂モルタル充填		68.4	m			
【外装薄塗材E】						
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	274	m ²			
外装薄塗材 E	CB面 砂壁状 吹付け 下地調整費(C-1)共	8.2	m ²			
外装薄塗材 E	押出成形セメント板面 砂壁状 吹付け	26.7	m ²			
計						

給食室内部改修		建具		アルミ製建具・木製建具		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【建具】						
AWD-1	腰ハ 祓付き両開き框ドア+引違い窓	1	か所			
AD-1	腰ハ 祓付き片開き框ドア	1	か所			
AD-2	腰ハ 祓付き片開き框ドア	1	か所			
AD-3	腰ハ 祓付き両開き框ドア+引違い窓	1	か所			
AD-4	腰ハ 祓付き引違い戸+引違い窓	1	か所			
AD-6	腰ハ 祓付き片開き框ドア	1	か所			
AD-7	片引き框戸	1	か所			
AD-8A	片引きハンガー框戸	1	か所			
AD-8B	片引きハンガー框戸	1	か所			
AD-9	腰ハ 祓付き片開き框ドア	1	か所			
AD-10	腰ハ 祓付き片開き框ドア	1	か所			
AD-11	引き分け框戸	1	か所			
AW-1	引違い窓	1	か所			
AW-11	3枚引違い戸	1	か所			
AW-12	3枚引違い戸+引違い戸	1	か所			
AW-14	引違い窓	1	か所			
AC-1	アコーディオンドア	1	か所			
WD-1	片開きフラッシュドア	1	か所			
AW-10	ハイスルー	1	か所			

給食室内部改修		建具	アルミ製建具・木製建具			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
AW-13	ハイスルー	1	か所			
AD-5	スイングドア	1	か所			
網戸張替 建具調整 アルミ額縁取替 取付調整費	AW-2 AW-3 AW-5 AW-6 AW-7 AW-8 AW-9	1	式			
運搬費		1	式			
設計費		1	式			
諸経費		1	式			
【ガラス】						
AWD-1 ガラス	強化ガラス t=5 900*930 2枚 900*720 2枚 アルミハネル900*930 2枚	1	m ²			
AD-1 ガラス	強化型板ガラス t=4 1000*1000 1枚 アルミハネル1000*1000 1枚	1	か所			
AD-2 ガラス	強化型板ガラス t=4 1000*1000 1枚 アルミハネル1000*1000 1枚	1	か所			
AD-3 ガラス	強化ガラス t=5 900*600 2枚 900*950 2枚 アルミハネル900*950 2枚	1	か所			
AD-4 ガラス	強化ガラス t=5 900*600 2枚 900*950 2枚 アルミハネル900*950 2枚	1	か所			
AD-6 ガラス	強化ガラス t=5 700*1000 1枚 アルミハネル700*1000 1枚	1	か所			
AD-7 ガラス	強化ガラス t=5 900*1000 1枚 アルミハネル900*1000 1枚	1	か所			
AD-8 ガラス	強化ガラス t=5 915*1000 2枚 アルミハネル915*1000 2枚	1	か所			
AD-9 ガラス	強化型板ガラス t=4 800*1000 1枚 アルミハネル800*1000 1枚	1	か所			
AD-10 ガラス	強化ガラス t=5 700*1000 1枚 アルミハネル700*1000 1枚	1	か所			
AD-11 ガラス	強化ガラス t=5 740*1000 2枚 865*1000 2枚 アルミハネル 740*1000 2枚 865*1000 2枚	1	か所			

福山市

福 山 市

給食室内部改修			内外装			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【給食室】						
ビニル床シート	マーブル 厚さ2.5 複層ビニル床シートFS 多湿部 熱溶接工法 -	74.1	m ²			
ビニル床シート	無 地 厚さ2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法 防滑仕様	19.2	m ²			
ビニル幅木	高さ100	85.1	m			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け 下張GB-R 厚12.5共	86.6	m ²			
壁 シーリング せっこうボード 張り (GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け - -	71.9	m ²			
壁 けい酸 カルシウム板張り	タイプ2(ノンアス)0.8FK 厚 6 鋼製、木、ボード下地 突付け - -	133	m ²			
壁ビニルクロス貼り		103	m ²			
天井 化粧 せっこうボード 張り (GB-D)	厚 9.5 準不燃 トラハーチン 突付け	87.3	m ²			
天井 けい酸 カルシウム板張り	タイプ2(ノンアス)0.8FK 厚 6 目透かし	145	m ²			
天井廻り縁	塩ビ 突付け	190	m			
天井 断熱材	グラスウール t=100 24kg/m ³	7.8	m ²			
【渡り廊下】						
床Pタイル張り	300mm角 敷きモルタル共	4	m ²			
ビニル床シート	柄 厚さ2.5 複層ビニル床シートFS 一般床 突付け 防滑仕様	3.2	m ²			
端部アルミアンクル押え	アルミ製 L-30×15×2.0 ステンレスビス@450含む 材工共	5.6	m			
内装壁タイル張り	ユニットタイル 有機系接着張り(タイプⅡ) 施工手間 - 100mm角 モルタル面	2.4	m ²			
計						

福 山 市

福山市

給食室内部改修 渡り廊下						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【直接仮設】						
墨出し		32.9	m ²			
整理清掃 後片付け	小規模 RC・SRC造 外部廊下	32.9	m ²			
養生	小規模 RC・SRC造 外部廊下	32.9	m ²			
脚立足場	並列 H=1.8m 4ヶ月	32.9	m ²			
【地業工事】						
根切り	つぼ, 布掘り 深さ2.5m程度	12.1	m ³			
砂利地業	再生クラッシュラン	3	m ³			
埋戻し(B種)	- 発生土	7.5	m ³			
【鉄筋工事】						
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10 少量	0.24	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13 少量	0.1	t			
鉄筋加工組立		0.34	t			
柱根巻		0.1	m ³			
【コンクリート工事】						
普通コンクリート	JIS A5308 FC=18 S15 粗骨材20	0.1	m ³			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート 人力打設 - S15～S18 - -	0.1	m ³			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	8.5	m ³			
コンクリート打設手間	土間 ポンプ打設 50m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	8.5	m ³			
CON強度補正	+6N	8.6	m ³			

給食室内部改修 渡り廊下						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
コンクリートポンプ圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	8.6	m ³			
コンクリートポンプ圧送基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
目地	スタイロフォーム t=25	14.9	m ²			
床仕上	コンクリートコテ押え	35	m ²			
【鉄骨工事】						
渡り廊下鉄骨工事		1	式			別紙 00-0001
【屋根・樋工事】						
ルーフデッキ	山高88 カラー鋼板 t=0.6	22	m ²			
タイトフレーム	山高88	21	m			
軒先面戸	山高88	21	m			
塩ビ角樋	120×120	10.5	m			
硬質ポリ塩化ビニル管（塩化ビニル管）	径75	6.4	m			
【塗装工事】						
DP塗装	鉄鋼面 錆止めC種1回・D種2回塗り DP塗装 3級	26.5	m ²			
【排水工事】						
新設桧	890*890*H=1100 2か所	1	式			別紙 00-0002
硬質ポリ塩化ビニル管（VU）	125A	4.5	m			
計						

給食室内部改修		部分解体		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
コンクリート撤去	鉄筋切断共 コンクリートブレイカ 集積共	27.3	m ³			
壁タイル撤去	下地モルタル共 集積共	15.6	m ²			
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20～30mm	75.3	m			
畳撤去	一畳 集積共	6.3	枚			
床組撤去	つか立て 集積共	9.8	m ²			
床・縁甲板 フローリング撤去	集積共	2.9	m ²			
床下地板撤去	集積共	6.3	m ²			
天井合板・ボート 撤去	一重張り 一般 集積共	387	m ²			
天井下地撤去	集積共	251	m ²			
ビニル床シート撤去	集積共	108	m ²			
ステンレス板撤去	t=1.0 集積共	66.4	m ²			
木製ロッカー及び棚 撤去		3.6	m ²			
鋼製戸撤去	片開き戸 枠共 集積共	12.7	m ²			
ビニル巾木 H=100		60.4	m			
アルミ建具	枠共	61.2	m ²			
ガラス		39.8	m ²			
計						

福 山 市

福 山 市

給食室内部改修		渡り廊下				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
渡り廊下鉄骨工事		1	式			別紙 00-0001
H型鋼	SS400 H-100*100	0.5	t			
角形鋼管	STKR400 □-100*100*3.2	0.3	t			
鋼板	SS400 PL-6	0.1	t			
鋼板	SS400 PL-9	0.2	t			
鋼板	SS400 PL-16	0.1	t			
スクラップ 控除		0.2	t			
高力ボルト	M16	52	本			
アンカーボルト費	M16	16	本			
ブレース費	M12	6	本			
副資材費		1	t			
消耗品費		1	t			
工場加工組立費		1	t			
工場溶接費		1	t			
工場錆止め塗装費		1	t			
製品検査費		1	t			
鉄骨運搬費	場内小運搬共	1	t			
工作図作成費		1	t			
現場建方費	重機費共	1	t			
現場鉄工費		1	t			

給食室内部改修 渡り廊下						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
渡り廊下鉄骨工事		1	式			別紙 00-0001
現場合番費		1	t			
タッチアップ費		1	t			
機械器具損料		1	t			
現場溶接費		1	t			
諸経費		1	式			
計						
新設柵	890*890*H=1100 2か所	1	式			別紙 00-0002
根切り	小規模土工 -	9.7	m ³			
埋戻し(B種)	- 発生土	7.6	m ³			
砂利地業	再生クラッシュラン	0.2	m ³			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	1	m ³			
CON強度補正	+3N	1	m ³			
普通型枠	小型構造物	14.8	m ²			
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	14.8	m ²			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10 少量	0.2	t			
鉄板蓋	固定金物共	2	枚			
施工費		1	式			
計						

[illegible]